

2024年度 授業概要

学 科 : 理学療法科

科目名 (英)	運動学Ⅲ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	赤池 保之
	KinesiologyⅢ					実務経験	○
コース		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分	前期
						曜日・時限	月曜・1限

【授業の学習内容】

運動学Ⅰ、Ⅱで学んだ解剖学的基础知識(運動に必要な機能解剖学、生理学的知識)や、運動学(生体力学、身体運動やその仕組み)を元に、この授業では講義・演習を通して、ヒトの運動と動作の特徴とそれに伴う諸現象(随意運動のメカニズム)を理解し、その運動と動作に関して、観察・測定・分析の初歩的手段を体験し学習していきます。

※実務経験：赤池保之 平成14年4月～平成19年3月まで医療・福祉施設に所属(理学療法士及び准看護師・介護支援専門員の資格を修得し実務を行う。)主に運動器疾患の患者様の治療・訓練を行っていました。

【到達目標】

運動学Ⅰ、Ⅱで修得した知識をもとに、体表からの視診・触診を通して、正常な関節構成体の構造と機能を確認する。また、さまざまな身体運動・動作を運動学的に分析することを通じて、身体運動・動作の特徴やその仕組み、さらには運動学的計測手法について理解することをねらいとする。
 目標①姿勢(静止姿勢および姿勢制御)について説明できる。目標②歩行(正常歩行)や走行、基本動作について説明できる。目標③運動学習の基本概念を理解し、説明できる。目標④顔面と頭部の解剖および運動について説明できる。

授業計画・内容

1回目	(目標①)姿勢(静止姿勢および姿勢制御)に関連する用語を理解し説明できる。
2回目	(目標①)姿勢(静止姿勢および姿勢制御)に関する物体の力学的安定性について理解し説明できる。
3回目	(目標①)姿勢(静止姿勢および姿勢制御)における立位姿勢保持ならびに立位姿勢制御の仕組みを理解し説明できる。
4回目	(目標①)姿勢(静止姿勢および姿勢制御)についての観察・分析ができる。
5回目	(目標②)歩行(正常歩行)や走行、基本動作に関連する用語を理解し説明できる。
6回目	(目標②)歩行(正常歩行)について、歩行周期・身体重心移動・下肢関節運動・床反力と足底圧中心・筋活動・エネルギー消費について説明できる。
7回目	(目標②)日常生活基本動作における種類や方法について説明できる。
8回目	(目標②)歩行(正常歩行)や基本動作の観察や分析および記載が実践できる。
9回目	(目標②)代表的な異常歩行について理解し、正常歩行との違いについて説明できる。
10回目	(目標②)走行における姿勢と力学的原理について理解し説明できる。
11回目	(目標③)運動学習の定義、3つの記憶システム、運動の学習段階、について説明できる。
12回目	(目標③)運動学習における練習、学習の転移、動機づけ、パフォーマンスと運動技能説明できる。
13回目	(目標④)顔面と頭部の解剖および運動:顎関節(咀嚼筋など)の構造と機能について説明できる。
14回目	(目標④)顔面と頭部の解剖および運動:表情筋について説明できる。
15回目	(目標①～④)まとめ (終講試験となる場合があります。)

準備学習
時間外学習 (目標①)姿勢(静止姿勢および姿勢制御)に関連する用語や解剖について事前学習が必要です。
 (目標②)歩行(正常歩行)や走行、基本動作に関連する解剖学や運動生理学について事前学習が必要です。
 (目標③)運動学習に関連する用語について事前学習が必要です。
 (目標④)顔面と頭部の解剖および運動について事前学習が必要です。

評価方法 ●授業態度・小テスト(30%)
 ●定期試験(70%)
 上記割合で評価いたします。

受講生への
メッセージ 講義の魅力：運動学Ⅲでは、運動学Ⅰ・Ⅱに学んだ身体の構造と機能や運動の内容を再確認し、正常な運動・動作を理解することができます。このことが将来理学療法士として業務を行ううえで、とても重要な知識となりますので、講義への積極的な参加を期待しております。
 講義計画：理学療法士になるうえで、重要な基礎の分野になります。欠席をすることのないように体調管理を含む良い生活習慣を継続できるように努力してください。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：中村隆一、斉藤宏、長崎浩、基礎運動学 第6版補訂 医歯薬出版株式会社
 参考書：Donald A. Neumann、嶋田智明、有馬慶美、筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版 医歯薬出版株式会社
 機 材：AV教育教材(液晶プロジェクター、ビデオデッキなど)

2024年度 授業概要

学科：理学療法科

科目名 (英)	内科学 I (Internal Medicine I)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員 実務経験	大久保 史子 ○
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分 曜日・時限	前期 月曜・1限
コース							
<p>【授業の学習内容】 内科学 I では、1年次で学習した生理学知識に基づいて、様々な内科的症候や疾患について学ぶ。日常で見られる発熱は、どのような疾患に見られるのかなどを知り、理学療法士として今後関わっていく患者様の状態を想像しながら、病気について学ぶ。同時に解剖生理学で学んだ知識を再確認しながら、疾患との関係性を具体的に説明できる能力を獲得することが本講義の主な学習内容である。</p> <p>※実務者経験：2000年より研修医を経て、大学病院および関連の病院にて勤務。呼吸器内科専門医取得後、大学病院にて咳・喘息外来を担当。現在は在宅診療及び外来診療にて幅広く内科診療に関わる。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>内科学 I では、解剖・生理学の知識を用いて、内科疾患に対する理解を深め各病態で見られる症状について説明ができることを到達目標と定める。</p> <p><具体的な目標> 目標①生理学の知識に基づいて、身体に生じる症候について説明できる。 目標②各臓器における解剖・生理学知識を用いて、その疾患症状などの特徴について説明ができる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	(目標①)提示された疾患に基づいて、理学療法士の関わりをイメージできる。内科学の概念が説明できる。
2回目	(目標①)症候学の必要性を説明できる。
3回目	(目標①)発熱、浮腫、腫脹などの症状について説明できる。
4回目	(目標①)全身倦怠感、食欲不振、悪心・嘔吐などの症状について説明できる。
5回目	(目標①)循環器系の解剖について説明できる。心電図を読むことができる。
6回目	(目標②)心疾患の特徴について説明できる。
7回目	(目標②)弁膜症や、先天性心疾患について説明できる。
8回目	(目標①)呼吸器の解剖生理について説明できる。
9回目	(目標①)異常な呼吸について分類し、その特徴を説明できる。
10回目	(目標①)呼吸不全を分類し説明できる。胸部X線読影ができる。
11回目	(目標①)消化器系の解剖生理について説明できる。
12回目	(目標①)消化管の役割について説明できる。消化管の症候を列挙できる。
13回目	(目標②)消化管の炎症、腫脹などの疾患を列挙できる。その特徴を説明できる。
14回目	(目標①②)肝臓の解剖について説明できる。肝臓疾患についてその特徴を説明できる。
15回目	(目標①②)まとめ
準備学習 時間外学習	(目標①)内科学は、人の本来持つべき調整機能の破綻からくる病態であり、生理学との関連性が非常に強く解剖生理学 I の理解は必要不可欠です。そのため、特に生理学に関する内容については重点的に復習が必要です。 (目標②)各臓器の役割についての分野もあるため、人の構造的理解が必要です。そのため、解剖生理学 I II で学んだ構造に関する特徴理解に関する内容は必要不可欠で、解剖生理学の復習が重要です。
評価方法	定期試験結果による判定を行う。 判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。
受講生への メッセージ	魅力：理学療法士として内科疾患を持つ患者様と関わる機会が多いと言えます。病前と同様の生活が営めない状態に陥った方々が、医師を中心とした他職種との連携により、病状が軽快し、生活状態の改善が見られることで、患者様の笑顔に繋がります。そのためには解剖学・生理学的知識に基づき、内科疾患の特徴を把握した上で適切な治療を選択していく必要があります。内科疾患の多くは服薬治療が中心となりますが、その副作用等を踏まえながら理学療法を実施することは非常に難しいことです。しかし、成果が見られた時には喜びも大きくなります。この機会に内科疾患を理解し、多くの患者様の治療に役立てていただきたいと思います。 講義計画：講義は講義形式となります。使用教材も多くあるので、講義開始前5分前には必ず使用教材を教務室に取りに来てください。講義は内科の専門的内容となっています。講義を遅刻・欠席すると内容理解が難しくなりますので、遅刻・欠席には十分に注意してください。
【使用教科書・教材・参考書】	
<p><教科書> 奈良勲他：標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野 内科学 医学書院</p> <p><使用教材> 講義資料(毎講義前に提示)、PC、マイク、プロジェクター</p>	

2024年度 授業概要

学科：理学療法科

科目名 (英)	内科学Ⅱ (Internal Medicine Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員 実務経験	大久保 史子 ○
コース		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分 曜日・時限	後期
<p>【授業の学習内容】</p> <p>内科学は人が本来持つべき調整機能の破綻からくる病態と言える。そのため内科学Ⅰでは、理学療法士として今後関わっていく患者様の状態を想像しながら、病気に学んだ。本講義では、内科学Ⅰで学んだ内容に基づいて、各臓器疾患・血液・代謝・内分泌・膠原病・アレルギー・中毒疾患など幅広い疾患について学習する。</p> <p>※実務者経験：2000年より研修医を経て、大学病院および関連の病院にて勤務。呼吸器内科専門医取得後、大学病院にて咳・喘息外来を担当。現在は在宅診療及び外来診療にて幅広く内科診療に関わる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>内科疾患について、内科疾患それぞれの特徴について説明できる。理学療法士として内科疾患との関わりについて説明できる。</p> <p><具体的な目標></p> <p>目標①細胞・組織・臓器の解剖生理について理解し、その特徴について説明できる。</p> <p>目標②内科系疾患について理解し、その特徴を説明できる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	(目標②)胆疾患について理解し説明できる。
2回目	(目標②)膵臓疾患について理解し、説明できる。
3回目	(目標①)血液の成分と生理について説明できる。
4回目	(目標②)血液疾患を区別することができる。赤血球疾患を列挙し、その特徴を説明できる。
5回目	(目標②)白血球系疾患、出血性疾患について列挙し、その特徴を説明できる。
6回目	(目標①)代謝調節の仕組みについて説明できる。
7回目	(目標②)代謝性疾患について説明できる。
8回目	(目標①)内分泌器官の構造・形態・機能について説明できる。ホルモンの作用機序を説明できる。
9回目	(目標②)内分泌疾患について説明できる。
10回目	(目標①②)腎・泌尿器の解剖について説明できる。腎・泌尿器疾患について説明できる。
11回目	(目標①②)免疫とは何か説明できる。自己免疫疾患について説明できる。膠原病について説明できる。
12回目	(目標②)感染症とは何か説明できる。感染症を分類し、その特徴を説明できる。
13回目	(目標②)中毒および環境要因による疾患について列挙し、説明できる。
14回目	(目標①②)皮膚の解剖について説明できる。皮膚疾患について説明できる。
15回目	(目標①②)まとめ
準備学習 時間外学習	(目標①)各臓器の役割についての分野もあるため、人の構造的理解が必要です。そのため、解剖生理学ⅠⅡで学んだ構造に関する特徴理解に関する内容は必要不可欠で、解剖生理学の復習が重要です。また、内科学Ⅰを発展させ、各疾患について取り組むため再度内科学Ⅰの復習が推奨されます。 (目標②)新たに、内科学分野を広げていくため各講義前には事前学習を行うことを推奨します。特に、各疾患についての特徴で言えば、性差や好発年齢などが国家試験的にも聞かれやすい傾向にあります。そのような特徴は特に記憶すべきものと言えますので、予習は重要です。
評価方法	定期試験結果による判定を行う。 判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。
受講生への メッセージ	魅力：理学療法士として内科疾患を持つ患者様と関わる機会が多いと言えます。病前と同様の生活が営めない状態に陥った方々が、医師を中心とした他職種との連携により、病状が軽快し、生活状態の改善が見られることで、患者様の笑顔に繋がります。そのためには解剖学・生理学的知識に基づき、内科疾患の特徴を把握した上で適切な治療を選択していく必要があります。内科疾患の多くは服薬治療が中心となりますが、その副作用等を踏まえながら理学療法を実施することは非常に難しいことです。しかし、成果が見られた時には喜びも大きくなります。この機会に内科疾患を理解し、多くの患者様の治療に役立てていただきたいと思います。 講義計画：講義は講義形式となります。使用教材も多くあるので、講義開始前5分前には必ず使用教材を教室に取りに来てください。講義は内科の専門的内容となっています。講義を遅刻・欠席すると内容理解が難しくなりますので、遅刻・欠席には十分に注意してください。
<p>【使用教科書・教材・参考書】</p> <p><教科書> 大成浄志:著標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野 内科学第3版.医学書院</p> <p><使用教材> 講義資料(毎講義前に提示)、PC、マイク、プロジェクター</p>	

2024年度 授業概要

学科：理学療法科

科目名 (英)	整形外科 I (Orthopedics I)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員 実務経験	九州大学 整形外科 ○
コース		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分 曜日・時限	前期 火曜・3限
<p>【授業の学習内容】</p> <p>整形外科 I は運動器の障害として、リハビリテーションとの関係は密である。その総論、各論について1年次に学んでいる解剖学・生理学・運動学知識と関係を持たせながら学習する。整形外科 I では主に、総論を中心として、学びつつ後半には運動器各部位の各々の特徴について学習する。これらの知識の上で運動器疾患に対する理学療法士の考え方を講義中心に学習していく。</p> <p>※実務者経験：九州大学病院にて勤務。九州大学の整形外科教室にも所属し、医学生への教授も行っている。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>理学療法士に必要とされる運動器の基本的知識を習得する。外傷・障害・疾病によって引き起こされる症状の診断・治療に関する基礎知識を習得する。</p> <p><具体的な目標></p> <p>目標①理学療法士に必要とされる運動器の基本的知識を習得し、整形外科的な診断～治療までの流れを説明できる。</p> <p>目標②整形外科的疾患の特徴を理解し、説明できる。</p>							
<p>授業計画・内容</p>							
1回目	(目標①)骨、関節、筋、靭帯、腱など運動器の特徴について述べるができる。						
2回目	(目標①)整形外科疾患や症状の特徴を説明できる。						
3回目	(目標①)整形外科診察法について説明できる。保存的治療と観血的治療の違いについて説明できる。						
4回目	(目標①)保存的治療の中で薬物療法について説明できる。						
5回目	(目標①)整形外科における観血的治療についてどのようなものがあるか説明できる。						
6回目	(目標①)1-5回目までに実施した整形外科的診断～治療までの全体像を把握し、説明できる。						
7回目	(目標②)軟部組織・骨・関節の感染症について理解し、特徴を説明できる。						
8回目	(目標②)関節リウマチ(RA)とその類縁疾患(主にOAなど)の違いについて説明できる。						
9回目	(目標②)慢性関節炎について理解し、特徴を説明できる。						
10回目	(目標②)四肢循環障害をきたす疾患について主な症状やその治療について説明できる。						
11回目	(目標②)先天性骨系統疾患について理解し、特徴を説明できる。						
12回目	(目標②)代謝性骨疾患について理解し、特徴を説明できる。						
13回目	(目標②)骨腫瘍、軟部腫瘍について理解し、特徴を説明できる。						
14回目	(目標②)神経疾患、筋疾患について理解し、特徴を説明できる。						
15回目	(目標①②)まとめ						
準備学習 時間外学習	<p>(目標①)前提条件として、解剖学的基礎知識の習得が必要です。確認のための講義を何回か予定していますが、復習の時間が不十分であると、本講義の整形外科の役割を理解することができません。そのため、診断から治療までの流れを説明するという目標達成が困難となります。事前の準備をしっかりとすることを怠らないようにしてください。</p> <p>(目標②)整形外科には多くの特徴的疾患が存在します。性差・年齢等の特徴による違いなどは事前に確認しておくなど予習準備が重要です。</p>						
評価方法	<p>定期試験結果による判定を行う。</p> <p>判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。</p>						
受講生への メッセージ	<p>魅力：理学療法士として整形外科疾患の患者様と関わる機会が多いと言えます。病前と同様の生活が営めない状態に陥った方々に対し、医師を中心とした他職種との連携により、症状が軽快し生活状態の改善が見られることで、患者様の笑顔に繋がります。そのためには解剖学・生理学・運動学的知識に基づき、整形外科疾患の特徴を把握した上で適切な治療を選択していく必要があります。術後の理学療法など非常に難しい事も多いですが、成果が見られた時には喜びも大きくなります。この機会に整形外科疾患を理解し、多くの患者様の治療に役立てていただきたいと思います。</p> <p>講義計画：講義は講義形式となります。内容は運動器の専門的内容となっており、総論から各論まで幅広く行う予定となります。講義を遅刻・欠席すると内容理解が難しくなりますので、十分に注意が必要です。また使用教材がたくさんあるので、講義開始前5分前には必ず教材を教務室に取りに来て事前準備を忘れないようお願いします。</p>						
<p>【使用教科書・教材・参考書】</p> <p><教科書></p> <p>松野丈夫他：標準整形外科第15版 医学書院</p> <p><使用教材></p> <p>講義資料(毎講義前に提示)、PC、マイク、プロジェクター</p>							

2024年度 授業概要

学 科 : 理学療法科

科目名 (英)	精神医学	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	中村 薫
	Psychiatry					実務経験	○
コース		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜・1限

【授業の学習内容】

近年、老年期疾患、脳損傷や発達障害をはじめ、精神・心理障害と身体障害を合わせもつ者が急増しており、作業療法や理学療法、さらには障害受容に至る心理的援助もリハビリテーション専門職に期待されている。精神医学を学ぶことは精神的・社会的存在としての人間を深く理解することにつながる。ここでは、作業療法や理学療法を学ぶための基礎として、精神機能の障害としての精神症状や、それをもたらす精神疾患の成因や診断、治療などについて修得することが出来る。

* 実務経験:精神科病院での医師として勤務。

【到達目標】

- 目標① 精神障害にかかわる概念、精神医学の歴史、国際疾病分類について説明できる。
- 目標② 精神機能の障害と精神症状について説明できる。
- 目標③ 神経学的診断方法、心理テスト、精神機能各種検査法について説明できる。
- 目標④ 精神障害の一般的疾患について理解し、説明できる。(成因、症状、診断、経過、治療など)
- 目標⑤ 精神障害の治療とリハビリテーションについて理解し、説明できる。

授業計画・内容

1回目	目標①:精神障害にかかわる概念(正常と異常、病気と疾患、精神障害者の定義)について説明できる。・精神医学の歴史について説明できる。・成因と分類について説明できる。
2回目	目標②:精神機能の障害:知能・注意・見当識・性格・記憶・感情・意欲・自我意識とその障害について説明できる。
3回目	目標②:精神機能の障害:知覚の障害(錯覚、幻覚)、思考とその障害(思路、思考体験、思考内容の障害)、病識と病感、主な状態像について説明できる。
4回目	目標③:神経学的補助診断(脳波、髄液検査)、心理検査(知能検査、記憶力検査、HDS、MMSE)、パーソナリティ検査、精神症状の評価について説明できる。
5回目	目標④:脳器質性精神障害(大脳皮質の変性疾患、ハンチントン病、脳の感染症、CO中毒等)について説明できる。
6回目	目標④:症状性精神障害(膠原病、甲状腺機能障害、生殖精神病)について説明できる。精神作用物質による精神および行動の障害について説明できる。
7回目	目標④:てんかん(発作型、精神症状、てんかん重積状態、予後、熱性けいれん、治療、薬物療法、副作用)について説明できる。
8回目	目標④:統合失調症(疫学、表現面、精神面に現れた症状、プロイラー、シュナイダーの考え方、古典的病型、成因)について説明できる。
9回目	目標④:統合失調症(生活のしづらさ、経過と予後、予後を左右する因子、治療とリハビリテーション)について説明できる。
10回目	目標④:気分(感情)障害(概念、病型、うつ病、疫学、症状、重症度、評価尺度、遺伝・性格・状況因、神経科学的変化、躁うつ病、治療)について説明できる。
11回目	目標④:神経症性障害(捉え方、不安性障害、ストレス関連障害、恐怖症、強迫性障害)について説明できる。
12回目	目標④:解離性(転換性)障害、身体表現性障害、治療(薬物、精神療法)について説明できる。・摂食障害、睡眠障害について説明できる。・パーソナリティ障害、行動(習慣、衝動)の障害、について説明できる。
13回目	目標④:知的障害(脳性麻痺、Down、フェニルケトン尿症、クレチン病)について説明できる。・心理的発達の障害(特異的発達障害、小児自閉症、アスペルガー)について説明できる。・心身症について説明できる。
14回目	目標⑤:精神障害の治療とリハビリテーション(インフォームドコンセント、精神療法、薬物療法、身体療法)について説明できる。
15回目	目標①～⑤:まとめ

準備学習 時間外学習	教科書を読み進めながら解説を加えていくため、教科書を読んだの予習
評価方法	定期試験
受講生への メッセージ	精神医学は国家試験においても必須となりますが、リハビリテーションの治療場面においても身体機能面のみならず、患者や障害者の精神・心理面の障害を理解することは大変重要になります。また精神医学を学ぶことはリハビリテーションの対象者だけでなく、学校におけるメンタルヘルス、職場におけるスタッフのメンタルヘルスにも役立つことと思います。

【使用教科書・教材・参考書】

標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野「精神医学」第3版 医学書院

2024年度 授業概要

学 科 : 理学療法科

科目名 (英)	保健科学Ⅱ Health Science Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	株式会社ハッピープロジェクト 山地 豊ノ教員 田中俊光
		実務経験					○
コース		授業形態	講義演習	総時間 (単位)	30 1	開講区分	後期 曜日・時限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 医療従事者になるうえで、公衆衛生の知識は必要不可欠となる。現代社会の健康問題、ライフステージにおける健康管理について各世代に合わせた対応が必要である。また栄養管理やトレーニングに関しても、クライアントに合わせた対応が必要である。
 特にスポーツ選手(トップアスリート・部活動)に対するフィジカルトレーニングやリハビリ、一般人の健康づくり、フィットネス、ボディメイクや障害予防の観点においても様々なバリエーションを知識・技術ともに養っておくことが医療従事者(理学療法士)として必須である。それを専門的な実践を伴いながら、また現場の声や社会の流れを聞きながら学ぶことでより即戦力な人材の育成に繋がることを目的とする。
 ※実務者経歴: 山地:2004~2006広島東洋カープ 2007~2018プロ野球選手や大学高校の運動部でのトレーナー 2018~2023パーソナルジム 2022~現在 社会人野球チームトレーナーなどの経歴を持つ
 田中:2001~2007病院勤務、2013~現在介護施設にて非常勤勤務、2002~2020障がい者スポーツセンターにてバラスポーツ指導、2022~現在、パラ陸上(車椅子)の支援に携わる。

【到達目標】
 現代社会における健康問題について知識を得、各世代に応じた健康管理、トレーニング管理を修得する。アスリートが行うトレーニングの基本的な知識と方法論を修得する。また一般の方における健康フィットネスに対するトレーニングの知識と方法論を習得する。
 <具体的な目標>
 目標①健康について説明できる。
 目標②健康管理、トレーニング管理について説明できる。
 目標③パラスポーツ種目特性やパラアスリートのトレーニングについて説明できる。
 目標④トレーニングプログラムを計画することができる。

授業計画・内容	
1回目	目標① 健康の定義や現状と課題について説明できる。
2回目	目標① 健康の概念について説明できる。
3回目	目標① 体力要素とスポーツテストについて説明できる。
4回目	目標② 体力要素に応じたスポーツテストを演習形式で行う。
5回目	目標② 体力要素に応じたスポーツテストを演習形式で行う。
6回目	目標② 体力要素に応じたスポーツテストを演習形式で行う。
7回目	目標③ パラスポーツの各種目の特性やルールについて説明できる。
8回目	目標③ パラスポーツ(ボッチャ)を演習形式で行う。
9回目	目標④ アスリートのトレーニング管理・方法について説明できる。演習形式で行う。(w-up・c-down)(自体重トレーニング)
10回目	目標④ アスリートのトレーニング管理・方法について説明できる。演習形式で行う。(ラダートレーニング)
11回目	目標④ アスリートのトレーニング管理・方法について説明できる。演習形式で行う。(競技別専門的トレーニング)
12回目	目標④ 一般人の健康管理について説明できる。(ストレッチ)
13回目	目標④ 一般人の健康管理について説明できる。(筋力トレーニング)
14回目	目標④ 一般人の健康管理について説明できる。(リハビリテーション)
15回目	目標④ 各対象者に対するトレーニングプログラムを立案することができる。
準備学習 時間外学習	(目標①)前提:近年話題になっている健康課題について、メディア等で予習が必要です。 (目標②)トレーニング管理には生理学の予習が必要です。 (目標③)パラスポーツに関する動画等で予習が必要です。 (目標④)自己の経験した部活やメディアで目にするトレーニングやニュースを注視しておく必要があります。
評価方法	定期試験は実技試験で到達評価を行う。 判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。
受講生への メッセージ	魅力:トレーナー歴20年以上で数多くのプロアスリートや全国大会出場チームのトレーナーを歴任してきたプロから実際に体を動かしながら学べるのは他の学校ではないことです。自己の体力向上や体づくりはもちろん将来の役に必ず立ちますので元気に参加してください。
【使用教科書・教材・参考書】	
<使用教材> マーカー マット テニスボール ラダー など	

2024年度 授業概要

学科：理学療法科

科目名 (英)	理学療法評価学Ⅰ (EVALUATION IN PHYSICAL THERAPY Ⅰ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 実務経験	田中 大喜 ¹⁾ ・平本 宏樹 ²⁾ ○
コース		授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	60 2	開講区分 曜日・時限	後期
<p>【授業の学習内容】 理学療法を行うための検査・測定技術とその方法論を習得する科目である。基本的な理学療法評価項目より、本講義前半は問診、バイタルチェック、形態計測法について、講義後半は関節可動域検査について、それぞれ講義と演習を通して習得する。理学療法評価の一連の過程(情報収集→記録→統合と解釈→再評価)についての考え方を習得し、それぞれの実技試験を実施し、臨床実習で実施できるレベルに到達することを目標とする。</p> <p>※実務者経験： 1) 2016年4月～2020年3月まで総合病院で理学療法士として勤務し、入院・外来リハビリテーション業務に携わる。 2) 2017年4月～2018年12月、社団法人 鎮誠会 東金整形外科 リハビリテーション科 理学療法士 2019年1月～2022年12月、レノファ山口FC トップチーム フィジオセラピスト 2023年5月～現在、レノファ山口FC アカデミー フィジオセラピスト 主業務は、メディカル・アスレティックリハビリテーション、トレーナー業務全般</p>							
<p>【到達目標】 理学療法評価の意義と目的を理解し、基本的な理学療法技術を習得する。臨床実習で実習可能なレベルにまで到達する。 目標①理学療法領域における各種評価項目の意義と目的を説明できる。 目標②バイタルチェック・形態測定法の目的を説明し、正確に実施することができる。 目標③関節可動域制限因子を理解した上で、関節可動域測定法の目的を説明することができる。また本検査の基本的な手技を正確かつ迅速に実施できる。</p>							
授業計画・内容							
1回目	【目標①】評価総論：評価の意義・目的・過程を述べるができる						
2回目	【目標①②】評価総論：評価手順・対象・方法について述べるができる						
3回目	【目標①②】評価総論：記録、評価実施上の留意点・環境について述べるができる						
4回目	【目標①②】評価総論：一般的評価事項について説明できる						
5回目	【目標①②】問診の必要性を説明でき、実施できる						
6回目	【目標①②】バイタルチェックを実施できる						
7回目	【目標①②】形態測定法(四肢長)を習得する						
8回目	【目標①②】形態測定法(四肢長)を習得する						
9回目	【目標①②】形態測定法(四肢長)を習得する						
10回目	【目標①②】形態測定法(周径)を習得する						
11回目	【目標①②】形態測定法(周径)を習得する						
12回目	【目標①②】形態測定法(周径)を習得する						
13回目	【目標①②】国家試験問題を解説することができる						
14回目	【目標①②】復習・まとめ						
15回目	【目標③】オリエンテーション、関節可動域検査の目的と意義について述べるができる						
16回目	【目標③】関節可動域制限とその因子について						
17回目	【目標①③】関節可動域検査① 上肢可動域測定方法(肩甲帯・肩関節)を習得する						
18回目	【目標①③】関節可動域検査② 上肢可動域測定方法(肩関節)を習得する						
19回目	【目標①③】関節可動域検査③ 上肢可動域測定方法(肘関節・前腕)を習得する						
20回目	【目標①③】関節可動域検査④ 上肢可動域測定方法(手関節・母指・指)を習得する						
21回目	【目標①③】上肢可動域測定方法のまとめ						
22回目	【目標①③】関節可動域検査⑤ 下肢可動域測定方法(股関節)を習得する						
23回目	【目標①③】関節可動域検査⑥ 下肢可動域測定方法(膝関節)を習得する						
24回目	【目標①③】関節可動域検査⑦ 下肢可動域測定方法(足関節・足部・足指)を習得する						
25回目	【目標①③】下肢可動域測定方法のまとめ						
26回目	【目標①③】関節可動域検査⑨ 頭部・体幹可動域測定方法を習得する						
27回目	【目標①③】関節可動域検査⑩ 頭部・体幹可動域測定方法を習得する						
28回目	【目標①③】頭部・体幹可動域測定方法のまとめ						
29回目	講義前半のまとめ、試験対策						
30回目	講義後半のまとめ、試験対策						
準備学習 時間外学習	【目標①】履修にあたり、解剖学・生理学・運動学的知識をもって、知識の復習しておく。 【目標②】脈拍・血圧測定・形態測定が正確かつ迅速にできるよう練習しておく。 【目標③】関節可動域検査の目的を理解した上で、正確かつ迅速に測定できるように日頃から練習しておく。						
評価方法	【講義前半】 1) 定期試験50点で講義前半の成績評価を行う。 【講義後半】 1) 定期試験 50点 で講義後半の成績評価を行う。 また、本講義の成績は、講義前半の成績(50%)と、講義後半の成績(50%)の合計で判定するものとする。						
受講生への メッセージ	本講義で履修する各種評価法を実施できなければ、適切な理学療法は提供できません。各種評価項目の意義・目的・方法を整理しながら学習しましょう。また、臨床実習で実施できるレベルに到達することを目標としているため、短時間で正確に実施できるようになるまで各自練習を重ねてください。授業や実技テストの際には、実習可能な服装で受講してください。						
<p>【使用教科書・教材・参考書】 <教科書> 松澤正：理学療法評価学 改訂第6版、金原出版、田崎 義昭ベッドサイドの神経の診かた 第17版、南山堂</p>							

2024年度 授業概要

学 科 : 理学療法科

科目名 (英)	義肢装具学	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	長倉 裕二
	Prosthesis & Orthosis					実務経験	○
コース		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分	後期
						曜日・時限	不定

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

義肢装具学では、障害者が障害を克服し、充実した日常生活を送るために必要不可欠な手段であり、リハビリテーションと密接している。義肢装具の変遷や現状、また義肢装具の構造や機能、評価方法を学習することで、適切な義肢装具を処方するための知識を修得する。切断と義肢装具における知識を身につけ、評価、処方、適合判定、および装着訓練が行えるように知識・技術を学びます。

※実務経験：昭和59年5月～理学療法士の資格取得。
昭和59年7月～平成20年3月まで総合リハビリテーションセンターに所属し、主に義肢・装具に関係するリハビリテーションを行う。

【到達目標】

目標①:義肢装具の種類、構造と機能について説明できる。
目標②:義肢装具の処方や、切断術、運動学に関する内容について説明できる。
目標③:義肢装具、その他の補助具のチェックポイントを理解し説明できる。
目標④:切断・離断の部位、切断部位の選択について説明できる。

授業計画・内容	
1回目	(目標①)装具の定義、装具の分類と名称(装具学)、上肢装具1(義肢装具のチェックポイント)について説明できる。
2回目	(目標①・②・③)上肢装具2(手部)(装具治療マニュアル)について説明できる。
3回目	(目標①・②・③)上肢装具3(手部)(装具治療マニュアル)について説明できる。
4回目	(目標①・②・③)体幹装具(1)について説明できる。
5回目	(目標①・②・③)体幹装具(2)について説明できる。
6回目	(目標①)下肢装具(1)について説明できる。
7回目	(目標①・②)下肢装具(2)について説明できる。
8回目	(目標①・②・③)下肢装具(3)について説明できる。
9回目	(目標①・②・③)下肢装具(4)について説明できる。
10回目	(目標①・②)靴型装具(1)について説明できる。
11回目	(目標①・②・③)靴型装具(2)について説明できる。
12回目	(目標④)切断・離断の部位、切断部位の選択について説明できる。
13回目	(目標④)切断手技の一般的原則について説明できる。
14回目	(目標④)上肢切断と機能的特徴、下肢切断と機能的特徴1、下肢切断と機能的特徴2について説明できる。
15回目	(目標①②③④) まとめ
準備学習 時間外学習	授業計画に沿ってすすめていきますので、事前学習を必要とします。 次回授業までに、前回の授業内容を復習しておいてください。
評価方法	定期試験の結果により判定を行う。 判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。
受講生への メッセージ	魅力:義肢装具学は理学療法士の業務と密接に関わると言えます。特に装具に関しては、病院・施設どの場所であっても装着している対象者と関わることが非常に多いものです。義肢に関しても、交通事故外傷後や循環障害に伴う切断などと遭遇することでしょう。これらの処方のため、理学療法士は他職種と作成～実際に使用している際のチェック場面まで関わります。そのため、義肢装具の適切な使用や歩行時などに起こる問題を知ることで患者様の治療に活かせる学問と言えます。是非この機会に理解を深めていただきたいと思います。 講義計画:授業計画に沿ってすすめていきますので、遅刻・欠席などすると内容理解が難しくなりますので、遅刻・欠席が無いように体調管理に気を付けてください。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書：細田 多穂(監修),磯崎 弘司(編集),両角 昌実(編集),横山 茂樹(編集) シンプル理学療法学シリーズ 義肢装具学テキスト 南江堂 機 材：AV教育教材(液晶プロジェクター、ビデオデッキなど)、義肢装具各種	

2024年度 授業概要

学科：理学療法科

科目名 (英)	神経内科学 I (Neuro Internal Medicine I)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	小俣 響子
コース		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
						開講区分	後期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】
 神経内科学は解剖生理学で学んだ知識に基づいて、神経内科疾患の概要や各疾患の理解ができるため、講義を中心として進める。神経内科学の主な疾患としては、パーキンソン病、脳血管障害、認知症など高齢者に多い疾患との関わりがあるが、それだけではなく睡眠障害や精神障害など幅広いテーマに基づき、理解を深める事を本講義で学習する。

※実務者経験：初期研修の後、2018年-九州大学病院脳神経内科、2019年-山口赤十字病院脳神経内科、2021年-済生会福岡総合病院脳神経内科、現在、九州大学病院脳神経内科医局所属、医療法人すずらん会 たろうクリニック非常勤勤務。

【到達目標】
 神経内科疾患について、それぞれの特徴について説明できる。神経内科疾患と理学療法士の職務の関わりについて説明できる。

<具体的な目標>
 目標①神経症候について理解し、運動麻痺などさまざまな症状、障害の違いなどを説明できる。
 目標②各神経疾患について理解し、それぞれの疾患特徴について説明できる。

授業計画・内容	
1回目	(目標①)神経内科学序論 脳神経内科の概要について説明できる。
2回目	(目標①)神経解剖・生理学について説明できる。
3回目	(目標①)運動麻痺・運動失調について説明できる。
4回目	(目標①)錐体外路症候(大脳基底核障害)について説明できる。
5回目	(目標①)歩行障害・感覚障害について説明できる。
6回目	(目標①)脳神経障害・疼痛について説明できる。
7回目	(目標①)構音・嚥下障害・意識障害について説明できる。
8回目	(目標①)睡眠障害、精神症状、自律神経障害について説明できる。
9回目	(目標①)高次脳機能障害(失行・失語)について説明できる。
10回目	(目標①)神経内科の検査1について説明できる。
11回目	(目標①)神経内科の検査2について説明できる。
12回目	(目標①)片麻痺、多発性筋炎、高次脳機能障害等の国家試験問題について説明できる。
13回目	(目標②)脳血管障害について説明できる。
14回目	(目標②)変性疾患①パーキンソン病と類縁疾患について説明できる。
15回目	(目標①②)まとめ
準備学習 時間外学 習	(目標①)各神経症候を理解するためには、1~2年までに学習した解剖生理学の理解が必要不可欠です。それぞれのテーマに基づいて復習が重要です。 (目標②)各神経疾患を理解するためには、神経症候と解剖生理学の理解とそれぞれの関連性について説明できる力が必要です。1-7回目までの学習テーマについて復習すること、また解剖生理学の再復習を薦めます。
評価方法	定期試験結果により判定を行う。 判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。
受講生への メッセージ	魅力：神経内科疾患として代表的なものは脳血管障害、認知症、パーキンソン病などが挙げられます。そのどれもが高齢者に多く、理学療法士として業務に関わる病気と言えます。高齢者と関わる機会の多い理学療法士にとって、これらの病気の概要から各疾患の特徴について理解できることは、実習から実際の臨床に向けて大きなアドバンテージとなります。この機会に是非興味を持って学んでもらうことを望んでいます。 講義計画：講義は講義形式となります。使用教材もあるので、講義開始前5分前には必ず使用教材を教務室に取りに来てください。講義は神経内科の概要～専門的内容となっています。講義を遅刻・欠席すると内容理解が難しくなりますので、遅刻・欠席には十分に注意してください。
【使用教科書・教材・参考書】 <教科書> 安藤一也他:リハビリテーションのための神経内科学第2版.医歯薬出版 <使用教材> 講義資料(毎講義前に提示)、PC、マイク、プロジェクター	

2024年度 授業概要

学科：理学療法科

科目名 (英)	神経内科学Ⅱ (Neuro Internal Medicine Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員 実務経験	小俣響子 ○
コース		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分 曜日・時限	前期 金曜日 2限
<p>【授業の学習内容】 神経内科学Ⅱでは、神経内科学Ⅰで学んだ各種神経疾患の概念に基づいて、それに伴う神経症候・検査所見や障がいの評価、治療法、予後などを理解することを主とした学習内容としている、その上で神経疾患各論を理解し、理学療法士として携るリハビリテーションに役立てることができるための学習構成とする。</p> <p>※実務者経験：2018年より大学病院などで神経内科医として多くの患者様の治療に関わっている。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>各神経疾患の概念や神経症候を理解して、適切なリハビリテーションアプローチを実施できる。</p> <p><具体的な目標> 目標①神経疾患の概念について説明できる。またその疾患における検査手法についても説明できる。 目標②各種神経疾患のリハビリテーションについて説明できる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	(目標①) 脊髄小脳変性症について説明できる。
2回目	(目標①) 認知症疾患について説明できる。
3回目	(目標①) てんかんについて説明できる。
4回目	(目標①) 末梢神経障害について説明できる。
5回目	(目標①) 筋疾患と自律神経障害について説明できる。
6回目	(目標①) 脱髄免疫疾患について説明できる。
7回目	(目標①) 脊髄疾患について説明できる。
8回目	(目標①) 神経感染症について説明できる。
9回目	(目標①) 先天異常について説明できる。
10回目	(目標①) 脳腫瘍について説明できる。
11回目	(目標②) 神経難病の制度などについて理解する。
12回目	(目標③) 各神経疾患のリハビリテーションについて説明できる。①
13回目	(目標③) 各神経疾患のリハビリテーションについて説明できる。②
14回目	(目標③) 各神経疾患のリハビリテーションについて説明できる。③
15回目	定期試験
準備学習 時間外学習	(目標①) 神経疾患について理解する上で、解剖・生理学の理解は欠かせません。解剖生理学ⅠⅡの復習は重要です。 (目標②) 神経疾患のリハビリテーションを説明・実施できるためには、評価が行える必要があります。そのため、神経疾患における評価項目を列挙し、治療していくためにも理学療法評価学の復習は重要です。
評価方法	(目標①) 神経疾患について理解する上で、解剖・生理学の理解は欠かせません。解剖生理学ⅠⅡの復習は重要です。 (目標②) 神経難病の制度について理解する (目標③) 神経疾患のリハビリテーションを説明・実施できるためには、評価が行える必要があり、理学療法評価学の復習は重要です。
受講生への メッセージ	魅力：神経内科疾患として代表的なものは脳血管障害、認知症、パーキンソン病などが挙げられます。そのどれもが高齢者に多く、理学療法士として業務に関わる病気と言えます。高齢者と関わる機会が多い理学療法士にとって、これらの病気の概要から各疾患の特徴について理解できることは、実習から実際の臨床に向けて大きなアドバンテージとなります。この機会に是非興味を持って学んでもらうことを望んでいます。 講義計画：講義は講義形式となります。使用教材も多くあるので、講義開始前5分前には必ず使用教材を教務室に取りに来てください。講義は内科の専門的内容となっています。講義を遅刻・欠席すると内容理解が難しくなりますので、遅刻・欠席には十分に注意してください。
<p>【使用教科書・教材・参考書】</p> <p><教科書> 第2版リハビリテーションのための神経内科学 医歯薬出版</p> <p><使用教材> 講義資料(毎講義前に提示)、PC、パワーポイント、マイク、プロジェクター</p>	

2024年度 授業概要

学科：理学療法科

科目名 (英)	理学療法概論 (Introduction to Physical Therapy)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	田中 利昭
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	水曜1限

【授業の学習内容】

理学療法を学ぶ上で、理学療法の理念・歴史を学びつつ、理学療法士の役割について理解する。またリハビリテーションや社会における、理学療法士の位置づけを学び、職域に応じた理学療法士の役割について学習する。

※実務者経験：

【到達目標】

理学療法士として、社会人・医療人として素質や人間性を磨き、職業人になるべく理学療法の基礎について理解し説明できる。

<具体的な目標>

- 目標① 理学療法の全体像を理解し説明できる
- 目標② 理学療法士の職業内容を理解し説明できる
- 目標③ 理学療法への関心を持ち、医療人としての責任感・倫理観などを説明できる

授業計画・内容

1回目	(目標①) 理学療法を構成する3つの柱について説明できる
2回目	(目標①②) 理学療法の歴史と理念について説明できる
3回目	(目標①②) チーム医療と関連職種について説明できる
4回目	(目標①②) 理学療法の社会的身分について関連法規から説明できる
5回目	(目標①②) 理学療法の業務に関連する関連法規について説明できる
6回目	(目標③) 理学療法士の職業倫理ガイドラインにおける倫理規定について説明できる
7回目	(目標①②) 臨床理学療法における運動療法について説明できる
8回目	(目標①②) 臨床理学療法における物理療法について説明できる
9回目	(目標①②) 臨床理学療法における装具療法について説明できる
10回目	(目標①②) 理学療法研究の目的・対象について説明できる
11回目	(目標①②) 理学療法研究の方法について説明できる
12回目	(目標①②) 理学療法教育の目的・意義について説明できる
13回目	(目標①②) 医療事故のインシデント・アクシデントについて説明できる
14回目	(目標③) 理学療法士に求められる職業倫理と職場管理について理解し説明できる
15回目	(目標③) 理学療法士を目指す学生に求められるものについて理解し説明できる

**準備学習
時間外学習**

(目標①)理学療法の理念・目的を理解するために、なぜ理学療法が必要とされるのかなど歴史を知ることが重要です。講義の中でその内容にも触れます。この中には、聞き慣れない用語なども多く含まれると言えます。しっかりと講義毎に復習を行うことが重要です。
(目標②)理学療法士の職域は少しずつ拡大しています。理学療法士がどのような場所で働き、どのような仕事をしているのか、理解するためにも、復習が重要です。
(目標③)理学療法士として知識・技術は必要ですが、医療従事者として、また社会人として働く上において、マナーやモラルも大切になってきます。学んだ内容を普段から意識して実践できるようにしていきましょう。

評価方法

定期試験結果による判定を行う。
判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。

**受講生への
メッセージ**

魅力：理学療法とは何か、理学療法士とは何かについて、広く学ぶ科目になります。4年間学ぶ内容を凝縮した内容になりますので、理学療法士について詳しく理解することができます。関連法規やガイドラインなど、難しい内容もありますが、実際の現場の例を出しながら、できるだけイメージしやすく講義をしていきたいと思います。

講義計画：講義は講義形式となります。使用教材もたくさんあるので、講義開始前5分前には必ず使用教材を教務室に取りに来てください。講義内容は理学療法全般についてになります。毎講義理解を深めることができるように、積極的な参加を期待しています。

【使用教科書・教材・参考書】

<教科書>

千住 秀明 監修;理学療法学テキスト1 理学療法概論 第4版 神陵文庫

<使用教材>

講義資料(毎講義前に提示)、AV教育機材(液晶プロジェクター、ビデオ装置など)

2024年度 授業概要

学科： 理学療法科

科目名 (英)	コミュニケーション論 (Communication Theory)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 実務経験	矢野 隆子 ○
コース		授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日・時限	前期 金曜・3限

【授業の学習内容】

理学療法士の患者様に対する関わりとしてコミュニケーション能力が重要である。信頼される援助者とはどのような者なのかを知る。そのために自己理解が出来、他者と違っていいという肯定的な感性とコミュニケーション手法としての傾聴姿勢の重要性を学習する。また、演習として実際にコミュニケーション場面を体験し、適切な対人行動を実践できる。更に社会人として、社外文書やFAXの作成スキルなども学ぶ。

※実務者経験：平成5年より、教育・行政機関、企業などの研修の社員教育講師に携る。

【到達目標】

社会人として、他者と適切なコミュニケーションを図ることができるために、自己理解ができる。演習を通じて基本的な社会的スキルを習得し、適切な対人行動を実践できる。また、社内外での適切な文書の送付の仕方やサービスマインドを持って対象者と接することが実践できる。以上の目標を実施できることで、社会化を図ることを到達目標とする。

<具体的な目標>

- 目標①自己理解をし、自分と他者が違う価値観で良い事を認め合うことで、肯定的で円滑なコミュニケーションを実践できる。
- 目標②セルフマネジメントを行いながらグループにおける自身の役割を知ることができる。
- 目標③社会的スキルを理解し、実践ができる。

授業計画・内容

1回目	信頼される援助者となるために(教科の目的と授業法)、構成的グループエンカウンター
2回目	(目標①)自己理解のための集団体験学習、価値観の違いを説明できる。エクササイズ「クルーザー」振り返り
3回目	(目標①)人とコミュニケーション、コミュニケーションの定義、種類について説明できる。
4回目	(目標①)基本的対話スキルが実施できる。コミュニケーションプロセス「聴くの基本」上手な質問の仕方が実施できる。話すの基本を説明できる。
5回目	(目標①)ノンバーバルコミュニケーションとは何か説明できる。グループでの会話が実施できる。
6回目	(目標①)自己表現スキルとは何か説明できる。人間関係を円滑にする表現技術、困った時の上手な頼み方、上手な断り方を実践できる。
7回目	(目標②)自分らしさを知り、交流分析による自己理解を実践できる。
8回目	(目標②)アンガーマネジメントを実践することができる。
9回目	(目標②)社会的スキルを習得し、適切な対人行動とは何か説明できる。
10回目	(目標②)仕事の上で必要とされる表現技術、仕事の基本、報告連絡相談、交渉、説得、プレゼンテーションを実践できる。
11回目	(目標②)電話対応、訪問、謝罪など対人行動における実践ができる。
12回目	(目標②)社内社外文書、手紙、メール、FAXを送ることができる。
13回目	(目標)サービスマインド、サービスとは何か説明できる。
14回目	(目標)サービスの基本的要素について説明できる。
15回目	(目標)まとめ

**準備学習
時間外学習**

(目標①)自己理解は他者を知る上で重要です。他者とコミュニケーションを図る際に意識的に自分自身を評することで、適切な対人行動とはどのようなものか理解できます。自己理解を意識的に取り組みましょう。
(目標②)怒りの感情などは特にコントロールが難しいものです。しかし、これらを含めた感情のセルフマネジメントを実践する事は、非常に重要とされています。交友関係などのコミュニケーション場面では特に意識して取り組む事で、理解し実践することができるようになります。
(目標③)実際に学習した内容(挨拶などのコミュニケーション手法)を学内や個々の生活状況に合わせて実践できることが重要です。演習内で取り組んで終わりにならないよう、継続して実践する事で今後の実習や臨床へ繋がっていきます。意識的に取り組んでいくことを推奨します。

評価方法

定期試験結果による判定を行う。
判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。

**受講生への
メッセージ**

魅力：現代社会においてコミュニケーション能力は、プライベートの関係性・仕事上の関係性問わず重要な技能となります。特に医療従事者においては、患者様の状況に寄り添ったきめ細やかな配慮が必要となり、それらを表現するためのツールとして必須なものがコミュニケーションであると言えます。そのため、理学療法士として今後仕事を行う上で、必要な技能と言えるでしょう。また、それだけに留まらず、自身のプライベートにも応用できるための学びが出来るという意味でも有意義な講義であると考えます。是非この機会に、コミュニケーションとは何か考えるきっかけを持ってもらえたらと思います。

講義計画：講義は講義演習形式となります。実際の場面を想定した演習なども行います。また、対人行動として表現技術やプレゼンテーションも行うため、講義によっては事前準備が多く必要な場合もあります。講義がスムーズに進められるように準備を怠らないように。

【使用教科書・教材・参考書】

<教科書>

コミュニケーション スキルアップ検定テキスト みつわ印刷

<使用教材>

講義資料(毎講義前に提示)、PC、マイク、プロジェクター

2024年度 授業概要

学科：理学療法科

科目名 (英)	リハビリテーション概論 (Introduction to Rehabilitation)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	小嶋 栄樹 朝妻恒法
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	水曜・3限

【授業の学習内容】
 理学療法士において、リハビリテーションとの関わりは深い。特に、医学的、職業的リハビリテーションの概念理解は必須と言える。そのために、リハビリテーションの定義と歴史、医療ならびに社会全体におけるリハビリテーション医療の位置づけ、障害に対して発症から社会復帰までのリハビリテーションの役割と責任を明確にする。

※実務者経験：小嶋栄樹：1993年より救急病院にて急性期・回復期・地域包括ケア病棟などを経験。現在、リハ科課長、リハ部門の教育担当次長を担う。
 朝妻恒法：1990年より5年間、老人病院にて臨床経験あり。平成7年より3年間、急性期病院にて、特に脳卒中・整形疾患等高齢者の疾患に携わる。

【到達目標】
 リハビリテーションの理念・目的と理学療法士との職務の関連性を理解し、障害の概念やリハビリテーションの概要について説明できる。

<具体的な目標>
 目標①リハビリテーションの理念・目的を説明できる。
 目標②障害の概念を説明できる。
 目標③リハビリテーションの概要について説明できる。

授業計画・内容	
1回目	(目標①)リハビリテーションの概念・理念・定義について説明できる。
2回目	(目標①)リハビリテーションの概念・理念・定義について説明できる。
3回目	(目標②)健康と障害の概念について説明できる。
4回目	(目標②)健康と障害の分類について説明できる。
5回目	(目標③)障害の心理、心理的・社会的問題と受容について説明できる。
6回目	(目標③)リハビリテーションの過程について説明できる。
7回目	(目標③)リハビリテーションの過程について説明できる。
8回目	(目標③)リハビリテーションの諸段階について説明できる。
9回目	(目標③)リハビリテーションの諸段階について説明できる。
10回目	(目標③)医療とリハビリテーション専門職種と役割について説明できる。
11回目	(目標③)チームアプローチについて説明できる。
12回目	(目標③)ADL、QOLの概念と評価法について説明できる。
13回目	(目標③)社会参加を支える法制度について説明できる。
14回目	(目標①②③)1～13回目の講義を振り返り、それぞれについて説明できる。
15回目	(目標①②③)まとめ
準備学習 時間外学習	(目標①)リハビリテーションの理念・目的を理解するためには障害とは何か、何故リハビリテーションが必要とされるのかなど歴史を知ることが重要です。講義の中でその内容にも触れます。この中には、聞き慣れない用語なども多く含まれると言えます。しっかりと講義毎に復習を行うことが重要です。 (目標②)目標①でもあるように障害の理解は重要です。特に理学療法士の職務に大きく関わるものと言えるので、健康と障害はどのように違いがあるのか、講義を行います。講義毎に復習を行うことは重要です。 (目標③)リハビリテーションの概念は理学療法士の職務と密接に関わりがあります。講義内容の理解が難しい場合は、復習が重要です。
評価方法	定期試験結果による判定を行う。 判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。
受講生への メッセージ	魅力：リハビリテーションはいくつかに分類されます。教育的リハビリテーション・医学的リハビリテーション・職業的リハビリテーション・社会的リハビリテーションなどが該当しますが、一般的に理学療法士と密接に関わりの深いものとして医学的・職業的リハビリテーションなどがこれに当たると言えるでしょう。リハビリテーションと理学療法士の職業的関わりを知ることや、その概念や理念・定義などを知ることで職業理解がより一層深まります。その上で医療とリハビリテーション専門職種とその役割や、チームアプローチを行う意義、社会参加をどのように支える方法があるのかを知ること、患者との関わり的重要性が理解できるといえます。この機会に是非理学療法士の職務の重要性や楽しさを知っていただきたいと思えます。 講義計画：講義は講義形式となります。使用教材もたくさんあるので、講義開始前5分前には必ず使用教材を教務室に取りに来てください。講義内容は解剖生理学の基礎的内容となっています。骨の構造など今まで学習した事のない内容が多く含まれると思います。毎講義理解を深めることができるよう積極的な参加を期待しています。
【使用教科書・教材・参考書】	
<教科書> 上好昭孝他:医学生・コメディカルのための手引書 リハビリテーション概論 改訂第3版.永井書店	
<使用教材> 講義資料(毎講義前に提示)、AV教育機材(液晶プロジェクター、ビデオ装置など)	

2024年度 授業概要

学 科 : 理学療法科

科目名 (英)	運動学 I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	田中大喜
	Kinesiology I	授業 形態	講義・実習	総時間 (単位)	30	実務経験	○
コース					1	開講区分	前期
						曜日・時限	月曜・1限

【授業の学習内容】

運動学とは、ヒトの身体運動の仕組みに関する学問です。その領域はきわめて広く、筋骨格系の構造・機能との関係、身体に加わる力との関わり、身体運動の発現とその制御機序、運動技能の獲得過程など、身体運動に関する諸問題について、解剖学、生理学、力学、運動学習の観点から究明していきます。

理学療法教育の中では、運動学は必要不可欠な基礎科目として位置づけられます。なぜなら、理学療法士は、さまざまな病態を起因とする異常な運動を治療対象としているからです。日常の臨床場面において、運動の異常を評価し、その原因を探り、治療方法を決定しています。この一連の臨床思考過程において、異常運動を見極める観察眼とその原因を分析する思考力が重要となります。運動学では、異常運動を見極め、その原因を分析できるようになるために、まず理解しておかなければならないヒトの正常な運動とその仕組みに関して学んでいきます。

※実務経験：2015年4月～2020年3月まで総合病院で理学療法士として勤務し、入院・外来リハビリテーション業務に携わる。

【到達目標】

運動学は身体運動の仕組みに関する学問であり、運動障害を治療対象とする理学療法士にとって、その理論的基盤をなす重要な基礎科目である。ここでは、正常な運動とその仕組みに関する基礎知識を身につけるために、以下の4つの目標について学習する。

目標①運動のとらえ方や人間の運動行動と姿勢、運動、動作、行為について説明ができる。目標②上肢の筋骨格系の構造・機能と関連運動との関係について説明できる。目標③力学原理に基づく運動の記述と解釈ができる。目標④運動を継続するためのエネルギー供給機構について説明できる。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション、身体運動学について、運動学、運動力学視点からそれぞれを説明できる。
2回目	(目標①)運動学の定義および領域について説明できる。理学療法士の基礎として解剖学、生理学、運動学の重要性について説明できる。
3回目	(目標①)運動行動、姿勢に関係する骨格筋や神経系の構造と機能について説明できる。(目標③)力学原理に基づく運動の記述と解釈ができる。
4回目	(目標④)運動を継続するためのエネルギー供給機構について説明できる。(目標②)上肢の筋骨格系の構造・機能と関連運動との関係について説明できる。
5回目	(目標②)筋を触察(伸張法など利用)して上肢帯と肩関節(肩複合体)の解剖学、特に骨格筋の走行について説明ができる。
6回目	(目標②)上肢帯と肩関節(肩複合体)の解剖学、特に関節、骨格筋、靭帯について説明ができる。
7回目	(目標②)上肢帯と肩関節(肩複合体)の運動について説明ができる。
8回目	(目標②)上肢帯と肩関節(肩複合体)の解剖学および運動について演習を交えながら理解を深め、その説明ができる。
9回目	(目標②)筋を触察(伸張法など利用)して肘関節および前腕部の解剖学、特に骨格筋について説明ができる。
10回目	(目標②)肘関節および前腕部の運動について説明ができる。
11回目	(目標②)肘関節および前腕部の解剖学および運動について演習を交えながら理解を深め、その説明ができる。
12回目	(目標②)筋を触察(伸張法など利用)して手関節および手指の解剖学、特に骨格筋について説明ができる。
13回目	(目標②)手関節および手指の運動について説明ができる。
14回目	(目標②)手関節および手指の解剖学および運動について演習を交えながら理解を深め、その説明ができる。
15回目	(目標①～④)まとめ(終講試験となる場合があります。)

準備学習
時間外学習

(目標①)ヒトの運動がどのような解剖学的要素と運動生理学的要素から成り立っているか予習が必要です。
(目標②)肩甲帯、自由上肢の解剖学(骨・筋・関節・靭帯・神経など)について予習が必要です。
(目標③)ベクトルの合成や分解、運動方程式、テコの種類、モーメントについて予習が必要です。
(目標④)運動時のエネルギー代謝について予習が必要です。

評価方法

- 授業態度・小テスト(30%)
- 定期試験(70%)

上記割合で評価いたします。

受講生への
メッセージ

講義の魅力：運動学という学問は大変難解な学問になりますが、知識が増え理解をすることにより、身体の不思議な部分に対して興味を持てるようになると思います。このことが将来理学療法士として業務を行ううえで、とても重要な知識となりますので、講義への積極的な参加を期待しております。
講義計画：理学療法士になるうえで、重要な基礎の分野になります。欠席をすることのないように体調管理を含む良い生活習慣を継続できるように努力してください。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：中村隆一、斉藤宏、長崎浩、基礎運動学 第6版補訂 医歯薬出版株式会社
参考書：Donald A. Neumann、嶋田智明、有馬慶美、筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版 医歯薬出版株式会社
機 材：AV教育教材(液晶プロジェクター、ビデオデッキなど)、色鉛筆

2024年度 授業概要

学科：理学療法科

科目名 (英)	運動機能学 I (Biomechanics I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	朝妻 光枝
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	火曜・1限

【授業の学習内容】

解剖学は人体の構造を知る学問として重要な位置づけであり、生理学は人体の作用または機能を学ぶ学問として重要である。理学療法士が治療を行うために、人の構造や生理的作用などを考慮し進めていく必要がある。その意味でも解剖生理学の理解は必要不可欠と言える。解剖生理学Ⅱ-1では、生物学と並行して解剖学で使用する用語や細胞・組織・器官・器官系などヒトを構成する要素としてどのようなものがあるのか、またその機能的役割は何かなどを中心に学習する。特に解剖生理学Ⅱ-1では全身における骨学や関節筋帯学の範囲を中心に学習する。

※実務者経験：2001年～2008年まで医療・福祉施設に所属。

精神科、整形外科、通所リハビリ、訪問リハビリ、介護老人保健施設など、様々な職種で勤務してきた。

【到達目標】

骨・関節・筋帯を中心としてその特徴を理解し、適切な解剖学・生理学用語を用いて説明できる。

<具体的な目標>

目標①生物学など他の基礎科目や臨床科目の学習に必要な基礎知識を用いて説明できる。

目標②運動器、感覚器について形態や機能を適切な解剖学・生理学用語を用いて説明できる。

授業計画・内容

1回目	(目標①) 骨の形態と構造及び血管と神経の基本的特徴について説明できる。
2回目	(目標①) 骨の機能・発生、リモデリングについて説明できる。
3回目	(目標②) 頭蓋の骨について説明できる。
4回目	(目標②) 脊柱1 頸椎・胸椎の基本的構造を理解し、その特徴について説明できる。
5回目	(目標②) 脊柱1 腰椎・仙椎・尾椎の基本的構造を理解し、その特徴について説明できる。
6回目	(目標②) 脊柱2 椎骨、胸郭の特徴について理解し、説明ができる。
7回目	(目標②) 上肢の骨1 上肢帯、上腕骨についてその特徴を理解し、説明できる。
8回目	(目標②) 上肢の骨2 上肢帯、上腕骨の骨についてその特徴を理解し、説明できる。
9回目	(目標②) 上肢の骨3 前腕部についてその特徴を理解し、説明できる。
10回目	(目標②) 上肢の骨4 手部についてその特徴を理解し、説明できる。
11回目	(目標②) 下肢の骨1 下肢帯についてその特徴を理解し、説明できる。
12回目	(目標②) 下肢の骨2 骨盤、大腿骨についてその特徴を理解し、説明できる。
13回目	(目標②) 下肢の骨3 骨盤、大腿骨の骨についてその特徴を理解し、説明できる。
14回目	(目標②) 下肢の骨4 下腿についてその特徴を理解し、説明できる。
15回目	(目標②) 下肢の骨5 足部についてその特徴を理解し、説明できる。

**準備学習
時間外学習**
(目標①) 前提条件として、生物学の理解が重要です。高校で学んだ経験がある方は高校の授業資料を参考にしながら復習する。また、学校内で実施している生物学も同様に参考にしながら復習することが重要です。この講義は解剖学の基礎です。この講義理解が困難となると、この後の解剖生理学Ⅱ-2以降の講義理解も難しくなります。復習の時間を十分に確保し臨むことが重要です。
(目標②) 理学療法士など医療従事者は解剖学のみならず、生理学との関連も重要です。人の構造的・機能的役割について考えながら講義を受講できるように準備して臨むことが重要です。分からない事があれば、そのままにせず確認し理解できるまで繰り返し学習することが必要です。

評価方法
定期試験結果による判定を行う。
判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。

**受講生への
メッセージ**
魅力：理学療法士において、解剖生理学の知識があれば、多くの可能性を考慮し治療に至ることができます。その意味でも、理学療法士になるためには学ばなければならない必須分野と言えます。解剖生理学分野だけ見ても過去国家試験問題は多くの出題がされています。この分野をしっかり理解できることは理学療法士に近づく大きな一歩とも言えるでしょう。みなさんが就きたい仕事である理学療法士に近づくために、まずこの解剖生理学から理解を始めることが大事だと言えます。
講義計画：講義は講義形式となります。使用教材もたくさんあるので、講義開始前5分前には必ず使用教材を教務室に取りに来てください。講義内容は解剖生理学の基礎的内容となっています。骨の構造など今まで学習した事のない内容が多く含まれると思います。毎講義理解を深めることができるよう積極的な参加を期待しています。

【使用教科書・教材・参考書】

<教科書>

野村 暲編：標準理学療法学-作業療法学専門基礎分野 解剖学第4版 医学書院

石澤光郎他：標準理学療法学-作業療法学専門基礎分野 生理学第5版 医学書院

<参考書>

尾上尚志他：病気がみえるvol7 脳・神経 第2版。メディックメディア

尾上尚志他：病気がみえるvol11 運動器・整形外科。メディックメディア

<使用教材>

講義資料(毎講義前に提示)、人体模型、AV教育機材(液晶プロジェクター、ビデオ装置など)

2024年度 授業概要

学科：理学療法科

科目名 (英)	運動機能学Ⅱ (Biomechanics Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	朝妻 光枝
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース						開講区分	後期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】
解剖学は人体の構造を知る学問として重要な位置づけであり、生理学は人体の作用または機能を学ぶ学問として重要である。理学療法士が治療を行うために、人の構造や生理的作用などを考慮し進めていく必要がある。その意味でも解剖生理学の理解は必要不可欠と言える。解剖生理学Ⅱ-1では、生物学と並行して解剖学で使用される用語や細胞・組織・器官・器官系などヒトを構成する要素としてどのようなものがあるのか、またその機能的役割は何かなどを中心に学習する。特に解剖生理学Ⅱ-1では全身における骨学や関節靭帯学の範囲を中心に学習する。

※実務者経験：2001年～2008年まで医療・福祉施設に所属。
精神科、整形外科、通所リハビリ、訪問リハビリ、介護老人保健施設など、様々な職種で勤務してきた。

【到達目標】
神経の区分やその特徴また、伝導路について理解し説明できる。

<具体的な目標>
目標①神経それぞれの特徴を説明できる。
目標②伝導路の仕組みやその特徴について説明できる。

授業計画・内容

1回目	(目標①)神経系の区分が出来る。
2回目	(目標①)神経系の構成や髄膜と脳室系について説明できる。
3回目	(目標①)神経系の発生について説明できる。
4回目	(目標①)神経線維の興奮伝達の方法や、変性と再生について説明できる。
5回目	(目標①)シナプスとは何か説明できる。
6回目	(目標①)脊髄の形態について説明できる。
7回目	(目標①)脳幹の形態について説明できる。
8回目	(目標①)小脳の形態について説明できる。
9回目	(目標①)大脳の形態1:間脳とは何か説明できる。
10回目	(目標①)大脳の形態2:大脳皮質について説明できる。
11回目	(目標①)大脳の形態3:大脳皮質について説明できる。基底核について説明できる。
12回目	(目標②)伝導路1:上行性伝導路について説明できる。
13回目	(目標②)伝導路2:上行性伝導路について説明できる。
14回目	(目標②)伝導路3:下行性伝導路について説明できる。
15回目	(目標①②)まとめ

**準備学習
時間外学習**
(目標①)前提条件として、生物学の理解が重要です。高校で学んだ経験がある方は高校の授業資料を参考にしながら復習する。また、学校内で実施している生物学も同様に参考にしながら復習することが重要です。この講義は解剖学の基礎です。この講義理解が困難となると、この後の解剖生理学Ⅱ-2以降の講義理解も難しくなります。復習の時間を十分に確保し臨むことが重要です。
(目標②)理学療法士など医療従事者は解剖学のみならず、生理学との関連も重要です。人の構造的・機能的役割について考えながら講義を受講できるように準備して臨むことが重要です。分からない事があれば、そのままにせず確認し理解できるまで繰り返し学習することが必要です。

評価方法
定期試験結果による判定を行う。
判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。

**受講生への
メッセージ**
魅力：理学療法士において、解剖生理学の知識があれば、多くの可能性を考慮し治療に至ることができます。その意味でも、理学療法士になるためには学ばなければならない必須分野と言えます。解剖生理学分野だけで見ても過去国家試験問題は多くの出題がされています。この分野をしっかり理解できることは理学療法士に近づく大きな一歩とも言えるでしょう。みなさんが就きたい仕事である理学療法士に近づくために、まずこの解剖生理学から理解を始めることが大事だと言えます。
講義計画：講義は講義形式となります。使用教材もたくさんあるので、講義開始前5分前には必ず使用教材を教務室に取りに来てください。講義内容は解剖生理学の基礎的内容となっています。骨の構造など今まで学習した事の無い内容が多く含まれると思います。毎講義理解を深めることができるよう積極的な参加を期待しています。

【使用教科書・教材・参考書】
<教科書>
野村嶺編：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学第4版 医学書院
石澤光郎他：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 生理学第5版 医学書院
<参考書>
尾上尚志他：病気がみえるvol7 脳・神経 第2版。メディックメディア
碓氷秀俊他：これは使える解剖ノートC&C 第8版。アイヒーリング研究所
碓氷秀俊他：これは使える生理ノートC&C 第10版。アイヒーリング研究所
碓氷秀俊他：これは使える臨床医学ノートC&C 第6版。アイヒーリング研究所
碓氷秀俊他：これは使える臨床医学各論ノート 第6版。アイヒーリング研究所
<使用教材>
講義資料(毎講義前に提示)、人体模型、AV教育機材(液晶プロジェクター、ビデオ装置など)

2024年度 授業概要

学科：理学療法科

科目名 (英)	機能解剖学 I (Functional Anatomy I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	藤崎 浩
		授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース						開講区分	後期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】
臨床現場、実習において解剖学的知識を理解する事は重要である。そのために、1年次で学習している解剖学の内容を整理していく必要がある。具体的手法として、骨・筋を実際に触察した上で体表に描出し、立体的に人体の骨・筋の位置関係を認識する。視覚的に認識する事で従来の学習形態に比べ解剖学を理解しやすく、その機能を深く考えることが出来る。これにより、解剖学的知識の整理に大きく役立つ。
また、骨・筋の知識を整理・理解できるとその後に考えるべき治療に繋がる。実際の治療場面を体験する事により、解剖学を理解する重要性を学ぶ。機能解剖学 I では、治療場面で主に用いる体幹や肩甲骨、上肢の骨指標・筋を触察し、実際の治療を体験する。

*実務者経験: 昭和63年～理学療法士として病院勤務を行い、多くの患者様の治療(MTAなど徒手療法)に関わった。平成12年～平成19年福岡市介護認定委員として活動を行う。

【到達目標】
MTA(マイオチューニングアプローチ)を治療手法として用いるために、解剖学的な基本的知識を習得する。患者様の触察ができるようになるために、まずは正常な身体が実際どのようになっているのかを理解し、本講義終了時には、それぞれの説明ができるようになる。

<具体的な目標>
目標①各講義で提示した筋がどの骨指標に付着しているか理解し、それぞれを触察することができる。
目標②教員が実施したデモ内容を模倣し、正しい立ち位置で描出することができる。
目標③関節の運動方向について説明できる。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション (目標①)肩甲骨の形状・各骨指標の高さを説明できる。MTA(マイオチューニングアプローチ)の基本的な流れについて説明で
2回目	(目標①)骨・筋の描出する際の注意点について説明できる。肩甲骨の触察～描出できる。
3回目	(目標①)肩甲骨の触察～描出できる。僧帽筋の起始・停止・作用・神経支配を説明できる。
4回目	(目標①)僧帽筋の触察～描出できる。肩甲挙筋の起始・停止・作用・神経支配を説明できる。
5回目	(目標②)治療体験を通して、僧帽筋、肩甲挙筋の触察～描出できる。
6回目	(目標①)棘上筋・棘下筋・小円筋の起始・停止・作用・神経支配を説明できる。各筋の特徴を把握し、説明できる。
7回目	(目標①～③)小テスト(1回目)。治療体験を通して、棘上筋・棘下筋・小円筋の触察～描出できる。
8回目	(目標①)広背筋、肩甲下筋、大円筋の起始・停止・作用・神経支配を説明できる。各筋の特徴を把握し、説明できる。
9回目	(目標②)治療体験を通して、広背筋、肩甲下筋、大円筋の触察～描出できる。
10回目	(目標①)上腕二頭筋、烏口腕筋、小胸筋の起始・停止・作用・神経支配を説明できる。各筋の特徴を把握し、説明できる。
11回目	(目標②)治療体験を通して、上腕二頭筋の触察～描出できる。
12回目	(目標①)上腕骨内側上顆、外側上顆に付着する筋の特徴の把握し、説明できる。
13回目	(目標①～③)小テスト(2回目)。治療体験を通して、長・短橈側手根伸筋の触察～描出ができる。
14回目	(目標①～③)1～13回講義までの振り返り。全体の触察～描出を再確認した上で説明できる。
15回目	(目標①～③)まとめ

**準備学習
時間外学習**
(目標①)前提として、解剖学の理解が不可欠です。各講義前に講義対象となる骨指標、筋名の予習が必要です。
(目標②)事前に動画で立ち位置などを確認したい場合は、動画撮影した教材を提供します。
(目標③)運動学と連携した学習が必要です。体幹・上肢帯・上肢が講義範囲のため、特に肩甲骨と肩甲骨上腕関節の運動の違いは重要です。
(目標①～③)小テストを2回実施予定です。それぞれのテスト対策として講義の復習が必要です。

評価方法
体表上に描出することが上手か下手かは評価対象にならない。触察時のポイントとなる内容を描出できるかどうか、解剖学的知識の到達評価を小テスト・定期試験によって行う。
●小テスト(20%)
●定期試験(80%)
割合で成績評価を行う。

**受講生への
メッセージ**
魅力: 患者様に信頼される理学療法士になるためには、治療者としての知識・技術は重要です。骨指標や、筋の触察が可能になると検査測定 of 正確性が向上するとともに、問題点の抽出～治療効果判定などに大いに役立ちます。また臨床で活躍をされ、経験豊富な講師の先生に実際の治療技術を交えながら受ける事の出来る講義は多くは無いと思います。講義への積極的な参加を期待します。
講義計画: 本講義は講義・演習形態となります。いつでも演習が出来るように、毎講義実習着を着用での参加となります。忘れずに着替えて参加下さい。また、用意する機材も多いので、講義直前に慌てて準備する事の無いよう事前準備をしっかりして臨んでください。

【使用教科書・教材・参考書】

使用教科書: 河上敬介 磯貝 香: 改訂第2版骨格筋の形と触察法. 大峰閣
使用教材: 体表上に描出するためのマーカー・実習着・タオル・枕・プロジェクター・デモ確認動画

2024年度 授業概要

学科：理学療法科

科目名 (英)	人間発達学 (Human Growth & Development)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 実務経験	古賀 寿々子 ○
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分 曜日・時限	後期
コース							
【授業の学習内容】 胎児期から老年期までの一生涯を一連の人間発達の過程として捉え、各期における身体的機能、運動機能、認知的機能、情緒・社会的機能を理解する。 また、社会、家庭といった環境との関連性についても理解し説明できるようになる。							
【到達目標】 各発達段階における特徴、正常値・異常値がわかる。正常発達と発達障害の基本的知識を修得する。 <具体的な目標> 目標①正常発達の各時期における特徴や、発達検査について説明できる。 目標②人の発達を機能と構造の視点から理解し、障害とリハビリテーションについて説明できる。							

授業計画・内容	
1回目	(目標①)人間発達の基本的事項や理論について説明できる。
2回目	(目標①)胎児期・新生児期の発達について説明できる。
3回目	(目標①)乳児期の発達について説明できる。
4回目	(目標①)幼児期の発達について説明できる。
5回目	(目標①)学童期の発達について説明できる。
6回目	(目標①)青年期の発達について説明できる。
7回目	(目標①)成人期の発達について説明できる。
8回目	(目標①)老年期の発達について説明できる。
9回目	(目標②)脳・神経系の発達と障害について説明できる。
10回目	(目標②)内部機能の発達と障害について説明できる。
11回目	(目標②)身体の運動機能と構造の発達と障害について説明できる。
12回目	(目標②)知覚・認知機能の発達と障害について説明できる。
13回目	(目標②)言語機能の発達と障害について説明できる。
14回目	(目標②)情緒・社会性の発達と障害について説明できる。
15回目	(目標②)発達評価と発達支援に実際について説明できる。
定期試験	
準備学習 時間外学 習	(目標①)正常発達の特徴を知るためには、個体差や発達理論を理解する必要があります。授業後の復習が重要となります。 (目標②)機能障害を理解するには、人体の構造を理解する必要があります。他の解剖生理学や運動学などの身体特性を理解した上で、障害とリハビリテーションについて学んでいきます。人間発達学だけではなく、他の科目との関連も考えて学ぶことが重要です。
評価方法	定期試験結果による判定を行う。 判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。
受講生へ のメッセ ジ	理学療法の対象者は、小児から老人まで様々で、リハビリテーションも多様化しています。また、心身の発達過程の中で、逸脱したものやその課題は何かを学ぶ必要があります。それらを踏まえてリハビリテーションの専門家は対象者のニーズに応じた適切なリハビリテーションを実施していきます。したがって、上記にあるように、この科目を勉強するには、他の科目との関連性を随時考えながら学んでいく必要があります。人間発達のみを考えて学ぶことはできません。学ばなければならないことが多いため、予習・復習が大切になる科目です。
【使用教科書・教材・参考書】 <教科書> 大城 昌平 著:リハビリテーションのための人間発達学 第3版. メディカルプレス <使用教材> 講義資料(毎講義前に提示)、PC、プロジェクター、マイクセット	

2024年度 授業概要

学科： 理学療法科

科目名 (英)	情報処理学 I (Information Processing I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	森田 道稔
		授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	30 2	実務経験	○
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	木曜・1限
【授業の学習内容】 インターネットの概要説明の後、使いやすいインターネットに隠れているマナーやそのリスクについて触れる。その上で、wordを使用して基本的な使い方から、効率の良い応用的使用方法まで講義演習にて学習する。また、理学療法士として、業務上必要である文書作成(レポート作成)も定型的な一般文書作成を通じて学ぶ。							
※実務者経験:株式会社豊隆体工業 経理事務、財務管理、税務関係の業務の担当							
【到達目標】 情報とは何かを正しく理解し、情報処理だけでなく情報通信・情報管理の基礎知識や実用的な基礎技術を身に付けるとともに、「情報を正しく役立てることができる社会人」として学びを深めていく事を目標とする。							
<具体的な目標> 目標①コンピュータやインターネットの仕組みを理解し、正しく活用できる。 目標②コンピュータメディアコミュニケーションの基礎知識を身に付ける。 目標③MicrosoftWordを使用して、効率的に的確な文書の作成ができる。							

授業計画・内容

1回目	(目標①)ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークを利用する上での注意点を理解し、実践することができる。
2回目	(目標①)Word第1章 パソコンとWordの基本を理解し操作できる。文字の入力ができる。ファイル管理の基礎知識を学び実践することができる。
3回目	(目標②)ITリテラシー・ソーシャルメディアを利用する上での正しい認識・知識・技術について理解し説明することができる。
4回目	(目標②)ITリテラシー・ソーシャルメディアを利用する上で注意点を理解し、実践することができる。
5回目	(目標③)Word第2章 文書を編集し、印刷ができる。
6回目	(目標②)文書作成課題を通じてITリテラシーについて確認することができる。
7回目	(目標③)Word第3章 ワード・アートや図形を使用し、表現力のある文書を作成することができる。
8回目	(目標③)Word第4章 図形を応用しさらに表現力のある文書を作成することができる。
9回目	(目標③)Word第5章 表を使用し、表現力のある文書を作成することができる。
10回目	(目標③)Word第6章Wordの便利な機能について理解し、操作することができる。
11回目	(目標③)Word第7章SmartArtグラフィックを活用し、文書を作成することができる。
12回目	(目標③)Word第8章Wordの文書作成サポート機能について理解し、操作することができる。レポートを作成することができる。
13回目	(目標③)Word第9章総合練習問題を実践することができる。
14回目	(目標①②③)情報処理学 I の模擬試験を実施し、正しく解答することができる。
15回目	(目標①②③)まとめ試験で不足していた部分を補い、情報処理学 I の目標を達成できる。
準備学習 時間外学習	(目標①) SNSなどインターネットは簡単に利用できる効果的・効率的ツールです。そのツールを使いこなすためには、仕組みを理解する必要があります。分からないまま使うことにならないよう、学んだ内容をしっかりと復習していただくことをお勧めします。 (目標②) コンピュータメディアコミュニケーションでは、コンピュータを介したコミュニケーションとなります。相手の表情などが窺えない状況だからこそ、相手を思いやる表現を日常から意識しておく必要があります。いつも使用しているSNSなどを通して、準備していただくことをお願いします。 (目標③) コンピュータ操作ができるようになることは作業効率向上に大きく寄与します。実習などでのレポート課題作成等、今後の事も踏まえてコンピュータ操作に慣れておく必要があります。
評価方法	ITリテラシーに関する文書作成課題(30%)、WORD実技試験(70%)で行います。課題の評価基準については、提出の遅延がない、内容が十分であるなどに基づいて行います。総合判定基準は、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。
受講生への メッセージ	魅力:現代社会においてコンピュータを使用できる技能は必須能力と言える。その中でも理学療法士はさまざまなプラン立案などを行う関係もあり、文書作成能力を問われ、文書作成ソフトを使用する機会は非常に多い。そのため、本講義では、MicrosoftWordを使用した作業を行う演習中心の講義を行い、実際に魅力的な文書を作成できるまでの過程を学習していただきます。是非この機会を有効に使い、技能習得に役立てていただけることを期待します。 講義計画:講義は講義演習形式となります。通常教室と異なりPC教室(コンピュータ使用教室)での行いますので、準備忘れや遅刻のないよう注意が必要です。また、実際にコンピュータを操作して、作業ができるようになることを目標としています。欠席が続くと作業が出来ないこととなりますので、注意してください。
【使用教科書・教材・参考書】 <教科書> COMPUTER BASIC WORD2019 .滋慶出版 <使用教材> 講義資料(毎講義前に提示)、コンピュータ、マイク、プリンタ、スキャナ、プロジェクター	

2024年度 授業概要

学科：理学療法科

科目名 (英)	情報処理学Ⅱ (Information Processing Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	森田 道稔
		授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	30 2	実務経験	○
コース						開講区分	後期
<p>【授業の学習内容】 情報処理学Ⅰで学んだ基本的なインターネットに関するマナーやリスク、そして文書作成能力を活かして、様々な情報に関する取扱いについて学習する。また、MicrosoftExcelや、MicrosoftPowerpointなどを用いてそれぞれの基本的操作を学習し、実際に使用して集計・統計を行い資料作成方法を学び、効果的なプレゼンテーションとはどのようなものかなどを学習する。</p> <p>※実務者経験：株式会社豊解体工業 経理事務、財務管理、税務関係の業務の担当</p>							
<p>【到達目標】 情報とは何かを正しく理解し、実用的な情報処理・情報発信・情報管理の基礎知識や基礎技術を身に付けるとともに、「情報を正しく役立てることができる社会人」として学習を深めていく事を目標とする。</p> <p><具体的な目標> 目標①MicrosoftPowerpointを用いて効果的なプレゼンテーションを行うことができる。 目標②MicrosoftExcelを用いて計算・集計・データベースなどの基本的操作ができる。 目標③実用的な集計や統計をMicrosoftExcelを用いて実践できる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	(目標①)PowerPoint 第1章 プレゼンテーションとは何か説明できる。/Powerpoint第2章 基本的操作を実施することができる。
2回目	(目標①)PowerPoint 第3章 スライドの作成を行うことができる。/Powerpoint第4章 図形やイラスト。写真を挿入することができる。
3回目	(目標①)PowerPoint 第5章 表とグラフを利用することができる。/Powerpoint第7章 特殊効果を設定することができる。
4回目	(目標①)PowerPoint 第8章 プレゼンテーションをサポートする機能を利用することができる。
5回目	(目標①)PowerPoint 課題を用いて復習問題を行い、正しく解答することができる。
6回目	(目標①)PowerPoint 課題を用いてプレゼンテーション資料を作成することができる。
7回目	(目標②)Excel 第1章 Excelの基本操作を実施することができる。/Excel第2章 数式や簡単な関数を理解し実践することができる。
8回目	(目標②)Excel 第3章 表を作成し、編集することができる。
9回目	(目標②)Excel第4章 グラフを作成することができる。/Excel第5章 作成したものを印刷することができる。/第6章 シートの操作ができる。
10回目	(目標③)Excel第7章 場面に応じて、いろいろな関数を理解し、活用することができる。(COUNTA,RANK,IFなど)
11回目	(目標③)Excel第8章 データベース機能を理解し実践することができる
12回目	(目標③)Excel第9章 Excelの便利な機能について使い分けすることができる。/第10章図や図形の挿入を理解し、説明できる。
13回目	(目標①②③)Excel第11章 総合練習問題を実施し、正しく解答することができる。
14回目	(目標①②③)情報処理学Ⅱの模擬試験を実施し、正しく解答することができる。
15回目	(目標①②③)まとめ試験で不足していた部分を補い、情報処理学Ⅱの目標を達成できる。
準備学習 時間外学習	(目標①)MicrosoftPowerpointは理学療法士として実施される説明場面においてプレゼンテーション資料に多く用いられます。そのため、資料作成のための準備では多く触れる機会があると思われれます。自身でパソコンを持っている方は、使い方の予習・復習は行っておくとよいでしょう。また、パソコンをお持ちでない方も、講義中に不明な点を把握し確認をしておくことをお勧めします。 (目標②)MicrosoftExcelはEBMの求められる医療従事者にとって可視化された資料作成に大いに役立つと言えます。そのため、基本的な操作方法や専門用語などを理解する必要があります。講義中に不明な点を把握した上で、インターネットや講師に確認するなど復習を行うことをお勧めします。 (目標③)MicrosoftExcelには関数など多くの便利な機能を備えています。それらの機能を使いこなすためには、事前学習や復習は重要です。
評価方法	プレゼンテーション資料作成課題(50%)、EXCEL実技試験(50%)で行います。課題の評価基準については、提出の遅延がない、内容が十分であるなどに基づいて行います。 総合判定基準は、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。
受講生への メッセージ	魅力：現代社会においてパソコンを使用できる技能は必須能力と言えます。その中でも理学療法士はさまざまなプラン立案などを行う関係もあり、文書作成能力を問われ、文書作成ソフトを使用する機会是非常に多いでしょう。このような便利なパソコンですが、最近では情報を適切に管理できなかったことによる問題が大きく取り扱われています。そこで、本講義では多くの方が使用されているSNSの適切な管理・運営方法についても理解を深める事で、より便利なツールとして利用できる事になると思います。是非この機会に、適切なツールの正しい使用ルールについて理解していただきたいと思います。 講義計画：講義は講義演習形式となります。通常教室と異なりPC教室で行いますので、準備忘れや遅刻のないよう注意が必要です。また、実際にPCを操作して、作業ができるようになることを目標としています。欠席が続くと作業が出来ないこととなりますので注意してください。
【使用教科書・教材・参考書】 <教科書> 首藤勝：COMPUTER BASIC Excel 2010.滋慶教育科学研究所 首藤勝：COMPUTER BASIC PowerPoint 2010.滋慶教育科学研究所 <使用教材> 講義資料(毎講義前に提示)、PC、マイク、プリンタ、スキャナ、プロジェクター	

2024年度 授業概要

学 科 : 理学療法科

科目名 (英)	運動学Ⅱ KinesiologyⅡ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	赤池 保之
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	実務経験	○
コース					1	開講区分	後期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】

運動学とは、ヒトの身体運動の仕組みに関する学問です。その領域はきわめて広く、筋骨格系の構造・機能との関係、身体に加わる力との関わり、身体運動の発現とその制御機序、運動技能の獲得過程など、身体運動に関する諸問題について、解剖学、生理学、力学、運動学習の観点から究明していきます。理学療法教育の中では、運動学は必要不可欠な基礎科目として位置づけられます。なぜなら、理学療法士は、さまざまな病態を起因とする異常な運動を治療対象としているからです。日常の臨床場面において、運動の異常を評価し、その原因を探り、治療方法を決定しています。この一連の臨床思考過程において、異常運動を見極める観察眼とその原因を分析する思考力が重要となります。運動学では、異常運動を見極め、その原因を分析できるようになるために、まず理解しておかなければならないヒトの正常な運動とその仕組みに関して学んでいきます。

※実務経験：赤池保之 平成14年4月～平成19年3月まで医療・福祉施設に所属(理学療法士及び准看護師・介護支援専門員の資格を修得し実務を行う。)主に運動器疾患の患者様の治療・訓練を行っていました。

【到達目標】

運動学は身体運動の仕組みに関する学問であり、運動障害を治療対象とする理学療法士にとって、その理論的基盤をなす重要な基礎科目である。ここでは、正常な運動とその仕組みに関する基礎知識を身につけるために、以下の3つの目標について学習する。
目標①関節構造と機能および骨格筋の構造と機能について説明できる。目標②下肢(股関節、膝関節、足関節)の筋骨格系の構造・機能と関連運動との関係について説明できる。目標③体幹(脊柱)の筋骨格系の構造・機能と関連運動との関係について説明できる。

授業計画・内容

1回目	(目標①)関節構造と機能について説明できる。(運動学Ⅰで行った基礎の復習および下肢の関節構造と機能について説明できる。)
2回目	(目標①)骨格筋の構造と機能について説明できる。(運動学Ⅰで行った基礎の復習および下肢の骨格筋の構造と機能について説明できる。)
3回目	(目標②)下肢帯と股関節の解剖学、特に関節、骨格筋、靭帯について説明ができる。
4回目	(目標②)下肢帯と股関節の運動について説明ができる。
5回目	(目標②)下肢帯と股関節の解剖学(特に関節、骨格筋、靭帯)および運動について理解し、演習形式で実践することができる。
6回目	(目標②)膝関節の解剖学、特に関節、骨格筋、靭帯について説明ができる。
7回目	(目標②)膝関節の運動について説明ができる。
8回目	(目標②)膝関節の解剖学(特に関節、骨格筋、靭帯)および運動について理解し、演習形式で実践することができる。
9回目	(目標②)足関節の股関節の解剖学、特に関節、骨格筋、靭帯について説明ができる。
10回目	(目標②)足関節の関節の運動について説明ができる。
11回目	(目標②)足関節の解剖学(特に関節、骨格筋、靭帯)および運動について理解し、演習形式で実践することができる。
12回目	(目標③)体幹(脊柱)の解剖学、特に関節、骨格筋、靭帯について説明ができる。
13回目	(目標③)体幹(脊柱)の運動について説明ができる。
14回目	(目標③)体幹(脊柱)の解剖学(特に関節、骨格筋、靭帯)および運動について理解し、演習形式で実践することができる。
15回目	(目標①～③)まとめ(終講試験となる場合があります。)

準備学習
時間外学習
習
(目標①)関節や骨格筋の名称、作用などの基本について予習が必要です。
(目標②)下肢の各関節の解剖学(骨・筋・関節・靭帯・神経など)について予習が必要です。
(目標③)体幹(脊柱)の各関節の解剖学(骨・筋・関節・靭帯・神経など)について予習が必要です。

評価方法
●授業態度・小テスト(30%)
●定期試験(70%)
上記割合で評価いたします。

受講生へのメッセージ
講義の魅力：運動学という学問は大変難解な学問になりますが、知識が増え理解をすることにより、身体の不思議な部分に対して興味を持てるようになります。このことが将来理学療法士として業務を行ううえで、とても重要な知識となりますので、講義への積極的な参加を期待しております。
講義計画：理学療法士になるうえで、重要な基礎の分野になります。欠席をすることのないように体調管理を含む良い生活習慣を継続できるように努力してください。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：中村隆一、斉藤宏、長崎浩、基礎運動学 第6版補訂 医歯薬出版株式会社
参考書：Donald A. Neumann、嶋田智明、有馬慶美、筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版 医歯薬出版株式会社
機 材：AV教育教材(液晶プロジェクター、ビデオデッキなど)

2024年度 授業概要

学 科 : 理学療法科

科目名 (英)	運動療法学	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	赤池 保之
	Therapeutic Exercise	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	実務経験	○
コース					1	開講区分	後期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】

運動療法とは、身体機能の障害をもつ者あるいは障害の予防に対して、その人がもつ能力を最も効果的な運動で高め回復させることである。この授業では以下の7つについて重点的に講義を進めていきたいと考えています。

①リラクゼーション: 運動時に不必要な筋活動や筋緊張亢進を抑制し、弛緩させることにより運動療法を円滑に実施することができる。②関節可動域の維持・改善: 短縮した皮膚、筋、腱、関節包に対する伸張や関節構成体の病変に対するアプローチにより関節可動域を拡大することができる。③筋力および筋持久力の維持・改善: 筋の活動性を高めることにより、筋力および筋持久力を増大することができる。④協調性の改善: 筋群相互の協調性を高めることができる。⑤バランス能力の獲得・改善: 適切な肢位や体位を保つため、神経・筋機能を改善し、再教育することができる。⑥呼吸循環器の維持・改善: 運動刺激を通して呼吸・循環・代謝機能の改善をはかることができる。⑦基本動作の獲得: 日常生活に必要な起居・移動動作や上肢機能、体力の獲得をはかることができる。

※実務経験: 赤池保之 平成1年4月～平成19年3月まで医療・福祉施設に所属(理学療法士及び准看護師・介護支援専門員の資格を修得し実務を行う。)主に運動器疾患の患者様の治療・訓練を行っていました。

【到達目標】

運動療法は、理学療法において中心的な治療手技であり、理学療法士が必ず習得していなければいけない基本的技術である。運動療法は対象となる疾患によりさまざまな方法があるが、基本的な技術としてコンディショニング、関節可動域制限、筋機能障害、協調運動障害、基本動作の指導、全身持久力の向上などに関する知識・技術を理解する。さらに各論で講義されている中枢神経疾患、運動器疾患、呼吸器疾患の各領域以外の、感覚障害、がん、腎機能障害、熱傷、産科領域、高齢者、健康増進分野の概略についても理解する。目標①関節可動域運動の理論について説明できる。目標②筋力増強運動の理論について説明できる。目標③全身調整運動・機能回復運動及びリラクゼーション運動について説明できる。目標④協調性訓練・バランス訓練・姿勢保持改善について説明できる。目標⑤神経筋再教育・神経生理学的アプローチについて説明できる。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション、運動療法とは何か? 運動療法の理念および歴史や定義などについて説明できる。
2回目	運動療法の位置付け、基本的運動や運動療法に必要な基礎(解剖生理学・病態生理など)、運動療法危機について説明できる。
3回目	(目標①)関節可動域運動の目的、適用、禁忌などを理解し説明ができ、可動域制限に対して制限因子を学び、具体的な方法について説明できる。
4回目	(目標①)ストレッチングの目的、適用、禁忌などを理解し説明ができる
5回目	(目標①)ストレッチングでは、伸張性の低下した個々の筋および弾性の低下した結合組織に対する手技であることについて説明できる。
6回目	(目標①)関節モビライゼーションの目的、適用、禁忌などを理解し説明ができる
7回目	(目標①)関節モビライゼーションでは、疼痛などによる可動域制限に対して、離開や滑り運動を用いて治療する手技であることを説明できる。
8回目	(目標②)筋力増強運動では、筋収縮の特性に合わせた運動について説明ができる。
9回目	(目標②)筋持久力増強運動では、エネルギー供給機構を理解した上で、全身持久力および筋持久力の運動について説明できる。
10回目	(目標③)全身調整運動・機能回復運動及びリラクゼーション運動の目的、適用、禁忌などを理解し説明ができる。
11回目	(目標④)協調性訓練・バランス訓練・姿勢保持改善の目的、適用、禁忌などを理解し説明ができる。
12回目	(目標④)協調性訓練・バランス訓練・姿勢保持改善では、運動神経系・感覚神経系・筋および骨関節系などに対する治療手技であることについて説明できる。
13回目	(目標⑤)神経筋再教育・神経生理学的アプローチの目的、適用、禁忌などを理解し説明ができる。
14回目	(目標⑤)神経筋再教育・神経生理学的アプローチでは、特にPNFについて説明できる。
15回目	(目標①～⑤)まとめ

準備学習 時間外学習

(目標①)可動域制限の因子や骨・筋・関節の解剖生理学(基礎知識)の予習が必要です。
(目標②)運動学(運動の種類、関節運動)、生理学(筋収縮機構・筋の種類)、解剖学(筋の起始停止、神経支配)の基礎知識の予習が必要です。
(目標③)全身調整運動・機能回復運動及びリラクゼーション運動の目的や方法について予習が必要です。
(目標④)協調性運動障害の原因について予習が必要です。
(目標⑤)神経筋再教育・神経生理学的アプローチに必要な基礎知識(解剖生理学)の予習が必要です。

評価方法

●授業態度・小テスト(30%)
●定期試験(70%)
上記割合で評価いたします。

受講生への メッセージ

講義の魅力: 将来、理学療法士として患者様に信頼され、感謝されるためには、治療者としての知識・技術は必要不可欠となります。その基礎となる部分を今回の講義でしっかりと伝えていきたいと考えております。
講義計画: 基本的に講義形式での授業となりますが、演習形式で自らの身体や他の学生の身体などを触って動かすなども行います。また、欠席などが多くならないように体調管理を含む、良い生活習慣に心掛ける様努力をしてください。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書: 千住秀明、運動療法 I 第2版 神陵文庫
機材: AV教育教材(液晶プロジェクター、ビデオデッキなど)

2024年度 授業概要

学 科 : 理学療法科

科目名 (英)	病理学 I Pathology I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 実務経験	角 静香 ○
コース		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分	後期 曜日・時限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

病理学は主に形態学的な観察に基づき、生体に発生する種々の疾患における形態と機能の変化を明らかにすることにより、疾患の本態(原因、発生機序、経過および結果)を科学的理論に基づき究明することを目的としている。疾患の本態を理解する事により、理学療法士、作業療法士として臨床に関連した種々の分野における理論的根拠となる医学的背景を洞察する能力を修得することが出来る。

【到達目標】

細胞や組織に起こる種々の病的変化が複雑に関連して、一つの疾患体系が構築されていることを理解し、疾病の原因と身体的変化について説明ができるようになる。

〈具体的な目標〉

目標①病理学の意義と概要について説明ができる。

目標②病因論(内因・外因)について説明ができる。

目標③病理学的変化(循環障害、進行性・退行性病変、代謝異常、老化)について説明ができる。

授業計画・内容

1回目	(目標①)病理学の意義と疾病・症候の分類について説明ができる。
2回目	(目標②)病因論:内因について説明ができる。
3回目	(目標②)病因論:外因(栄養障害)について説明ができる。
4回目	(目標②)病因論:外因(物理的因子)について説明ができる。
5回目	(目標②)病因論:外因(化学的因子、生物的因子)について説明ができる。
6回目	(目標③)退行性病変(変性)の病因・病態について説明ができる。
7回目	(目標③)退行性病変(萎縮)の病因・病態について説明ができる。
8回目	(目標③)退行性病変(壊死)の病因・病態について説明ができる。
9回目	(目標③)老化のメカニズムについて説明ができる。
10回目	(目標③)循環障害の病因・病態について説明ができる。
11回目	(目標③)代謝異常(アミノ酸代謝異常、脂質代謝異常、糖質代謝異常)の病因・病態について説明ができる。
12回目	(目標③)代謝異常(無機物質代謝異常、色素代謝異常)の病因・病態について説明ができる。
13回目	(目標③)進行性病変(肥大、過形成、再生、化生)の病因・病態について説明ができる。
14回目	(目標③)進行性病変(創傷治癒、移植)の病因・病態について説明ができる。
15回目	(目標①②③)まとめ

準備学習
時間外学習

●病因論や病理学的変化について理解するためには、病理学の教科書をもとに、それらの項目についての予習が必要です。
●授業の振り返りとして小テストを実施するため、毎回の授業の復習が必要です。

評価方法

定期試験にて知識の到達評価を行う。授業の振り返りとして小テストを行う(計3回)。
●定期試験(70%)
●小テスト(30%)
割合で成績評価を行う。

受講生への
メッセージ

理学療法士、作業療法士として対象者を治療するためには、疾患や障害について深く理解しておく必要があります。病理学は、疾患や障害について理解する上で基盤となる知識です。覚えなければならない医学用語が多いため、予習・復習を怠らず、記憶に定着させていきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書: 梶原博毅 著: 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 病理学. 医学書院

2024年度 授業概要

学科：理学療法科

科目名 (英)	理学療法総合演習 I (Physical Therapy General Practices I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	田中 俊光
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース						開講区分	後期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】
1年生から国家試験対策を行うことで、1年前期に学んだ内容と実際の国家試験過去問をリンクさせながら、基礎学力の知識の定着を図っていく。またグループ学習を通して、問題の解き方や考え方、理解度など、様々な視点で捉えることができるようにしていく。

※実務者経験：※実務者経験：2001年4月～2007年1月まで病院に所属する。2013年～現在、介護施設にて非常勤で勤務している。
主業務は脳血管障害、整形外科疾患などのリハビリテーションを行っていた。

【到達目標】
基礎の段階で弱点を見つけ出し、対策・改善していくことを目標に、1年前期で学習した、解剖学・生理学・運動学における基礎学力を向上し、各分野の国家試験問題を理解・解説できるようになる。

<具体的な目標>

- 目標① 課題の内容について、自分で解説を作成することができる(調べ学習)
- 目標② 課題の内容について、他者に解説をすることができる(シェア学習)
- 目標③ 課題の内容について、グループで討論することができる(グループ学習)

授業計画・内容

1回目	(目標①②③) オリエンテーションと骨についての調べ学習
2回目	(目標①②③) 骨について説明できる
3回目	(目標①②③) 関節について説明できる
4回目	(目標①②③) 肩関節について説明できる
5回目	(目標①②③) 肩関節について説明できる
6回目	(目標①②③) 肘関節について説明できる
7回目	(目標①②③) 肘関節について説明できる
8回目	(目標①②③) 手関節について説明できる
9回目	(目標①②③) 手関節について説明できる
10回目	(目標①②③) 血管について説明できる
11回目	(目標①②③) 血管について説明できる
12回目	(目標①②③) 心臓について説明できる
13回目	(目標①②③) 心臓について説明できる
14回目	(目標①②③) まとめ①
15回目	(目標①②③) まとめ②
準備学習 時間外学習	(目標①)グループ学習を行う上で、事前に調べ学習を行うことが大切です。複数の文献を読み、大切なポイントを押さえながら、理解ができるように心がけましょう。 (目標②)グループ学習では、事前に学習した内容を、他者に解説することでシェア学習を行うことが大切です。自分が理解できていなければ、他者に解説することが難しくなりますので、質問されても答えられるように準備をしておきましょう。 (目標③)グループ学習を通して、他者の考え方や解き方を学び、多角的に問題を捉えられるようにすることが重要です。「なぜそうなるのか、なぜそう考えたのか」という部分を大切に、グループで学び合っていきましょう。
評価方法	受講態度・課題の提出・口頭試問など:40% 終講試験(15回目の授業終了後に実施):60% にて成績判定を行う。
受講生への メッセージ	魅力:一人で学習するよりもグループで学習した方が、色々な意見を聞くことができ、理解も深まっていきます。教え合うことも大切ですが、他者がどのようにして答えを導き出したのか「考え方」を学ぶ場でもあります。学習時には否定的な考え方はせず、肯定的に捉えられるように柔軟に考えていきましょう。また言葉で理解するよりもイメージで理解できるように、上手にグループ学習を活用していきましょう。 講義計画:講義は演習形式となります。講義終了前に、次の学習内容の課題を配布しますので、調べ学習をしてきてください。その際にわからない所があれば、シェア学習の時にみんなで解決したいと思います。また必要に応じて、学習定着度を確認するための確認テストや口頭試問を行います。自分がどこが理解できて・できてないのかを知るツールとして活用してください。
【使用教科書・教材・参考書】	
<教科書>	課題の内容に応じて、必要な教本・教材を準備してください。

2024年度 授業概要

学 科 : 理学療法科

科目名 (英)	リハビリテーションセミナー (Overseas Fieldwork)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	朝妻恒法・田中 俊光・前田雄一
		実務経験					○
コース		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 1	開講区分	後期

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 海外研修に過去5回参加している教員が、大学やスポーツ施設で学んだ内容を動画や実技を通して、伝えていきます。Anatomy Trainの知識を導入しながら、マニュアルセラピー(筋膜リリース)、キネシオテーピングを行います。近年、アメリカから筋膜リリースの方法が日本に取り入れられ、臨床でも行われています。またアメリカのスポーツ選手によく使用されている運動機能評価法について、実技を行います。
 教育サポート校:カリフォルニア州立大学ノースリッジ校(理学療法科大学院) (アメリカ合衆国 カリフォルニア州 ロサンゼルス)

※実務者経験(田中):2001年4月~2007年1月まで病院に所属する。2013年~現在、介護施設にて非常勤で勤務している。主業務は脳血管障害、整形外科疾患などのリハビリテーションを行っていた。1~10期生中5回海外研修引率経験あり。
 (朝妻):平成2年より5年間、老人病院にて臨床経験あり。平成7年より3年間、急性期病院にて、特に脳卒中・整形疾患等高齢者の疾患に携わる。また、病院にてリハ室の開設、学校の開設準備室で2校の開設に携わる。
 (前田):2001年~2018年まで総合病院~整形外科クリニック(有床診療所・無床診療所)で外来・入院リハビリテーション業務に携わる。1回海外研修引率経験あり。

【到達目標】
 国際社会における理学療法の現状と課題について説明できる
 目標①:Anatomy Trainの知識・技術を理解し説明することができる。
 目標②:キネシオテーピングの知識・技術について説明することができる。
 目標③:アメリカのスポーツリハビリテーション・運動機能評価法について説明できる。
 目標④:日本とアメリカの理学療法の違いについて説明することができる。

授業計画・内容	
1回目	目標①Anatomy Trainについて説明できるようになる
2回目	目標①Anatomy Train Superficial Front Lineの知識とテクニックについて説明できるようになる
3回目	目標①Anatomy Train Superficial Back Lineの知識とテクニックについて説明できるようになる
4回目	目標①Anatomy Train Spiral Lineの知識とテクニックについて説明できるようになる
5回目	目標①Anatomy Train Deep Front Lineの知識とテクニックについて説明できるようになる
6回目	目標②キネシオテーピングについて説明できるようになる
7回目	目標②キネシオテーピングの基本について説明できるようになる
8回目	目標②キネシオテーピング(上肢)の技術について説明できるようになる
9回目	目標②キネシオテーピング(下肢)の技術について説明できるようになる
10回目	目標③FMS(スクワット・ステップング)について説明できるようになる
11回目	目標③FMS(ランジング・リーチング)について説明できるようになる
12回目	目標③FMS(レッグライズ・プッシュアップ)について説明できるようになる
13回目	目標③FMS(ロータリースラビリティ)について説明できるようになる
14回目	目標③FMSのまとめ
15回目	目標④アメリカの理学療法士について説明できるようになる
準備学習 時間外学習	各関節の講義や筋に関する解剖があるため、解剖学・運動学を予習しておくことで、理解がさらに深まる。
評価方法	レポート課題(100%)にて成績評価を行う
受講生への メッセージ	リハビリテーションの発祥の地・アメリカは、莫大な研究結果からEBMを出し、EBMを基に的確なりハビリテーションを行っている。アメリカの知識・技術が日本に輸入され、使われている。最先端のリハビリテーション技術を学ぶことにより、患者様に最良のリハビリテーションを提供できるようになる。またアメリカで学
【使用教科書・教材・参考書】	
参考書:アナトミートレイン―徒手運動療法のための筋筋膜経線 トーマス・マイヤー 訳:板場秀行 石井慎一郎 第3版 医学書院 用意するもの:動きやすい服装(半袖・短パン)	

2024年度 授業概要

学科：理学療法科

科目名 (英)	リハビリテーション医学 (Rehabilitation Medicine)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員 実務経験	山元 総勝 ○
コース		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分 曜日・時限	後期

【授業の学習内容】

リハビリテーション医学は、病気や外傷により生じた障がい医学的に診断・治療し、身体機能面だけではなく自宅復帰などを含めた社会活動参加への復帰を総合的に提供するために必要なものは何かを学びます。特に、最近の国家試験の出題傾向を知り、出題頻度の多くなっている高齢者の生理やそれぞれの疾患特徴、またEBMについてなど幅広く学びます。

※実務者経験：東京女子医科大学病院では、急性期リハを中心に従事され、その後リハ学院を2校経て、現在の熊本保健科学大学で教授をされている。その間、アメリカで、メディカルフィジカルセラピー(大学)を終了され、九州大学大学院医学系学府博士課程を修了され、リハ医学に関しては精通されている。現在でも、大学でリハ医学をご教授されている。

【到達目標】

リハビリテーション医学の基本的な知識を習得し、リハビリテーションに対する自分の考えを持つことができる。また、国家試験問題を踏まえた上でリハビリテーション医学分野の中で出題頻度の多いトピックスについて理解し、それぞれの項目について特徴を説明できる。

<具体的な目標>

目標①リハビリテーション医学分野において国家試験出題頻度の高い問題を理解し、特に高齢者生理現象について説明できる。

目標②リハビリテーション医学分野において国家試験で出題された問題について理解し、概要やEBMなどについて説明できる。

授業計画・内容

1回目	(目標①)オリエンテーション、廃用性症候群、老化現象、クリニカルパス
2回目	(目標①②)脳血管障害①
3回目	(目標①②)脳血管障害③
4回目	(目標①②)脳血管障害②
5回目	(目標①②)脊髄損傷
6回目	(目標①②)神経筋疾患(パーキンソン病・ALS)
7回目	(目標①②)関節リウマチ
8回目	(目標①②)循環器疾患
9回目	(目標①②)呼吸器疾患
10回目	(目標①②)骨折・骨粗鬆症
11回目	(目標①②)上肢・下肢・腰痛症
12回目	(目標①②)スポーツ外傷・障害
13回目	(目標①②)悪性腫瘍
14回目	(目標①②)予防医学
15回目	(目標①②)まとめ

**準備学習
時間外学習**
(目標①)理学療法士にとって、高齢者と関わる機会は非常に多いと言えます。そのため、治療対象として考える前に、高齢者の生理現象として特徴を理解し説明ができる必要があります。対応する科目として、解剖生理学ⅠⅡⅢそれぞれの成人と高齢者の特徴の違いを理解しておくことを強く勧めます。
(目標②)リハビリテーション医学講義前に教科書の該当箇所を予習しておくことをお勧めします。また、リハビリテーション概論で学んだ内容を再度見直ししておくによりイメージしやすくなると思います。

評価方法
定期試験結果による判定を行う。
判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。

受講生へのメッセージ
魅力：理学療法士として、リハビリテーション医学は非常に密接な関連のある学問と言えるでしょう。近年では、この分野における国家試験出題も多岐に渡っており理学療法士の関わる職務内容の難しさを感じさせます。これは、社会が求める理学療法士像に対する大きな期待の裏付けともいえます。専門家としてより高いレベルの知識・技術をこの機会に習得することは、今後の実習、臨床へと大きく役立つものと言えます。この科目を学んでいく事で、リハビリテーション関連職種の特任者を目指すための明確な動機付けができるように期待しています。この機会にぜひ多くの学びを得ていただき、臨床へ繋げていただければと思います。

講義計画：講義は講義形式となります。使用教材も多くあるので、講義開始前5分前には必ず使用教材を教務室に取りに来てください。講義は内科の専門的内容となっています。講義を遅刻・欠席すると内容理解が難しくなりますので、遅刻・欠席には十分に注意してください。

【使用教科書・教材・参考書】

<教科書>

安保雅博他:最新リハビリテーション医学第3版.医歯薬出版

<使用教材>

講義資料(毎講義前に提示)、PC、マイク、プロジェクター

2024年度 授業概要

学 科 : 理学療法科

科目名 (英)	医学英語	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	二田 正利
	Medical English					実務経験	○
コース		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	開講区分	前期
					2	曜日・時限	水曜・1限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

医学英語は一般的に使用される英語ではなく、医療現場で実際に使用される専門用語と医学論文などに使用される医学用語がある。臨床現場ではカルテなどに記載された医学英語で書かれた情報を読み解く必要がある。また医学論文から最新の知見を学ぶ際にも医学英語は必要となる。本授業終了時には医学英語を読み解くことができるようになる。

※実務経験:2006年4月～2013年1月まで総合病院、クリニックに所属する。中枢神経障害や整形外科疾患等に対するリハビリテーションを行っていた。またその間、学会発表を行い、医学英語を使用してきた。

【到達目標】

理学療法士として必要な英単語や略語の意味を理解し使用することができるようになる。

<具体的な目標>

目標①カルテに書かれている英語を理解できる。
 目標②基本的な英単語を理解できる。
 目標③基本的な略語を理解できる。

授業計画・内容	
1回目	(目標①)オリエンテーション。カルテを見る
2回目	(目標②)英単語(基本語、内臓、骨)を理解できる。
3回目	(目標②③)英単語(筋、神経)、略語(A～C)を理解できる。
4回目	(目標③)略語(D～M)を理解できる。
5回目	(目標③)略語(N～Z)を理解できる。
6回目	(目標②)心理用語を理解できる。
7回目	(目標②)歩行用語を理解できる。
8回目	(目標①②③)まとめ。
準備学習 時間外学習	音読や書写を通して、何度も復習をしてください。
評価方法	定期試験で成績評価を行う。
受講生への メッセージ	魅力:英語を学ぶことは容易ではありませんが、それ以上に英語を学ぶ楽しさを感じてほしいと思います。 授業計画:体調管理には気を付けて、欠席をしないようにしてください。
【使用教科書・教材・参考書】	
資料配布	

2024年度 授業概要

学 科 : 理学療法科

科目名 (英)	一般臨床医学 I	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	大久保史子・産業医科大学
	Physiotherppapy Maneuver I	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	実務経験	○
コース					1	開講区分	後期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

救急医療は医の原点とも言われており、救急患者は実に多種多様で、年齢をとってみても新生児から100歳を超える老人までいる。症状も多彩で、疾病もあれば外傷もあり、重症度も軽症から重篤なものまで幅が広い。このような中で、老年医療、救急救命医療は時間的制約の中、医師、看護師、臨床検査技師、放射線技師、理学療法士、作業療法士、また救急救命士を含む、その他コ・メディカルとの連携のとれたチーム医療により達成される。老年学及び救急医療・災害医療の概念を知り、心肺蘇生法を初めとする各種救命医療について知識を深め、コ・メディカルとしてのチーム医療における役割を説明できる。

* 実務経験: 2000年より研修医を経て、大学病院および関連の病院にて勤務。呼吸器内科専門医取得後、大学病院にて咳・喘息外来を担当。現在は在宅診療及び外来診療にて幅広く内科診療に関わる。

【到達目標】

救急患者の各種の特殊病態を理解し、それらをもたらす疾患と各々の症状、必要な処置などの知識について説明でき、コ・メディカルとしてのチーム医療における、理学療法士および作業療法士の役割を理解し説明できる。

目標①老年医学の病態や治療方法について学び説明できる。
目標②救急病態の総論・各論について学び説明できる。

授業計画・内容	
1回目	(目標①) 高齢者の一般的概念について理解し説明ができる。
2回目	(目標①) 高齢社会 ①(高齢者の健康増進に関わる理学療法について説明できる。)
3回目	(目標①) 高齢社会 ②(高齢者に多い疾病の病態について説明できる。)
4回目	(目標①) 介護保険制度における仕組みやサービス内容について理解し説明できる。
5回目	(目標①) 高齢者へのリハビリテーションについて説明できる。
6回目	(目標①) 高齢者に多くみられる疾患 ①(脳障害、骨関節疾患などについて理解し説明できる。)
7回目	(目標①) 高齢者に多くみられる疾患 ②(循環器疾患、肺疾患などについて理解し説明できる。)
8回目	(目標②) 心肺蘇生法の基本について説明できる。
9回目	(目標②) 救急病態について説明できる。
10回目	(目標②) 循環器疾患(心筋梗塞、心不全などについて理解し説明できる。)
11回目	(目標②) 呼吸器疾患(救急病態の呼吸不全・腎不全、救急疾患の呼吸器疾患について理解し説明できる。)
12回目	(目標②) 中枢神経疾患(脳血管障害、脳梗塞、脳出血、脳血栓などについて説明できる。)
13回目	(目標②) 消化器疾患の病態を理解し説明できる。
14回目	(目標②) 急性中毒などの病態を理解し説明できる。
15回目	(目標②) 心肺蘇生法の実施ができる。
準備学習 時間外学習	授業計画に沿ってすすめていきますので、事前学習を必要とします。 次回授業までに、前回の授業内容を復習しておいてください。
評価方法	定期試験の結果により判定を行う。 判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。
受講生への メッセージ	魅力: 理学療法士として一般臨床医学で学ぶ疾病単独での関わりは多いとは言えませんが、合併症として併発しているものと関わる機会が非常に多いと言えます。特に高齢者においては関わりが深い分野でしょう。超高齢社会となりつつある現代社会において、高齢者の健康増進に関わる理学療法士の役割は多く求められており、一般臨床医学で学ぶ多くの特徴的疾患を理解し、治療に活かせることで、患者様からの信頼を得ることができると言えます。 講義計画: 授業計画に沿ってすすめていきますので、遅刻・欠席などすると内容理解が難しくなりますので、遅刻・欠席が無いように体調管理に気を付けてください。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書: 北村諭/編集 石井裕正/編集 沖永功太/編集 鈴木正之/編集 各科に役立つ 救急処置・処方マニュアル 医歯薬出版 機 材: AV教育教材(液晶プロジェクター、ビデオデッキなど)	

2024年度 授業概要

学科：理学療法科

科目名 (英)	解剖生理学Ⅱ-3 (Anatomical Physiology Ⅱ-3)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	田中 輝男
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	不定期
<p>【授業の学習内容】 解剖学は人体の構造を知る学問として重要な位置づけであり、生理学は人体の作用または機能を学ぶ学問として重要である。理学療法士が治療を行うために、人の構造や生理的作用などを考慮し進めていく必要がある。その意味でも解剖生理学の理解は必要不可欠と言える。解剖生理学Ⅱ-3では、1年次に学習した生物学や解剖生理学Ⅰ-1、Ⅰ-2に基づいて、神経の機能やその特徴について学習する。</p> <p>※実務者経験：NewYork医科大学などの臨床経験や、大学歯学部解剖学教室で解剖生理実務に携わる。</p>							
<p>【到達目標】 神経の種類を理解し、それぞれの神経の特徴を適切な解剖学・生理学用語を用いて説明できる。</p> <p><具体的な目標> 目標①生物学など他の基礎科目や臨床科目の学習に必要な基礎知識を用いて説明できる。 目標②運動器、感覚器について形態や機能を適切な解剖学・生理学用語を用いて説明できる。</p>							
授業計画・内容							
1回目	(目標①) 脊髄の機能について説明できる。						
2回目	(目標①) 脳幹の機能について説明できる。						
3回目	(目標②) 小脳と大脳基底核の機能について説明できる。						
4回目	(目標②) 大脳皮質の機能について説明できる。						
5回目	(目標②) 大脳の高次脳とは何か説明できる。						
6回目	(目標②) 脊髄神経1 頸神経について説明できる。						
7回目	(目標②) 脊髄神経2 腕神経叢について説明できる。						
8回目	(目標②) 脊髄神経3 胸神経・腰神経叢について説明できる。						
9回目	(目標②) 脊髄神経4 仙骨神経叢・尾骨神経叢について説明できる。						
10回目	(目標②) 脳神経1 感覚神経について説明できる。						
11回目	(目標②) 脳神経2 運動神経について説明できる。						
12回目	(目標②) 脳神経3 錐弓(さいきゅう)神経について説明できる。						
13回目	(目標②) 自律神経1 その形態について説明できる。						
14回目	(目標②) 自律神経2 その機能について説明できる。						
15回目	(目標①②) まとめ						
準備学習 時間外学習	<p>(目標①) 前提条件として、生物学、解剖生理学Ⅱ-1、Ⅱ-2の理解が重要です。1年次に学習した解剖学の基礎的理解が出来ている必要があるため、内容を忘れている場合や、理解が出来ていない場合はしっかりと復習を行うことを薦めます。 (目標②) 理学療法士など医療従事者は解剖学のみならず、生理学との関連も重要です。人の構造的・機能的役割について考えながら講義を受講できるように準備して臨むことが重要です。分からない事があれば、そのままにせず確認し理解できるまで繰り返し学習することが必要です。</p>						
評価方法	<p>定期試験結果による判定を行う。 判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。</p>						
受講生への メッセージ	<p>魅力：理学療法士において、解剖生理学の知識があれば、多くの可能性を考慮し治療に至ることができます。その意味でも、理学療法士になるためには学ばなければならない必須分野と言えます。解剖生理学分野だけで見ても過去国家試験問題は多くの出題がされています。この分野をしっかり理解できることは理学療法士に近づく大きな一歩とも言えるでしょう。みなさんが就きたい仕事である理学療法士に近づくために、まずこの解剖生理学から理解を始めることが大事だと言えます。</p> <p>講義計画：講義は講義形式となります。使用教材もたくさんあるので、講義開始前5分前には必ず使用教材を教務室に取りに来てください。講義内容は解剖生理学の基礎的内容となっています。骨の構造など今まで学習した事の無い内容が多く含まれると思います。毎講義理解を深めることができるよう積極的な参加を期待しています。</p>						
<p><使用教科書> 野村織編：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学第4版 医学書院 石澤光郎他：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 生理学第4版 医学書院</p> <p><使用参考書> 尾上尚志他：病気がみえるvol7 脳・神経 第2版。メディックメディア 碓氷秀俊他：これは使える解剖ノートC&C 第8版。アイヒーリング研究所 碓氷秀俊他：これは使える生理ノートC&C 第9版。アイヒーリング研究所 碓氷秀俊他：これは使える臨床医学ノートC&C 第6版。アイヒーリング研究所 碓氷秀俊他：これは使える臨床医学各論ノート 第6版。アイヒーリング研究所</p> <p><使用教材> 講義資料(毎講義前に提示)、人体模型、AV教育機材(液晶プロジェクター、ビデオ装置など)</p>							

2024年度 授業概要

学科：理学療法科

科目名 (英)	機能解剖学Ⅱ (Functional AnatomyⅡ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	藤崎浩 ¹⁾
		授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース						開講区分	前期
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 臨床現場、実習において解剖学的知識を理解する事は重要です。そのために、1年次で学習している解剖学の内容を整理していく必要があります。具体的手法として、骨・筋を実際に触察した上で体表に描出し、立体的に人体の骨・筋の位置関係を認識していきます。視覚的に認識する事で従来の学習形態に比べ解剖学を理解しやすく、その機能を深く考えることが出来るものと思われれます。これにより、解剖学的知識の整理に大きく役立つと考えられます。 また、骨・筋の知識を整理・理解できるとその後考えるべき治療に繋がります。実際の治療場面で体験する事により、解剖学を理解する重要性を学びます。機能解剖学Ⅱでは、治療場面で主に用いる腰背部や骨盤、下肢の骨指標・筋を触察し、実際の治療を体験していきます。</p> <p>*実務者経験：昭和63年～理学療法士として病院勤務、一般臨床医学分野に関わった。平成12年～平成19年福岡市介護認定委員として活動を行う。¹⁾ *実務経験：</p>							
<p>【到達目標】 MTA(マイオチューニングアプローチ)を治療手法として用いるために、解剖学的な基本的知識を習得する。患者様の触察ができるようになるために、まずは正常な身体が実際どのようになっているのかを理解し、本講義終了時には、それぞれの説明ができるようになる。</p> <p><具体的な目標> 目標①各講義で提示した筋がどの骨指標に付着しているか理解し、それぞれに触察することができる。 目標②教員が実施したデモ内容を模倣し、正しい立ち位置で描出することができる。 目標③MTAアプローチの基礎となる流れを実施することができる。</p>							
授業計画・内容							
1回目	(目標①、③)オリエンテーション、脊椎棘突起・骨盤・大腿骨のランドマーク、脊柱起立筋、腰方形筋の特徴を説明できる。MTAの流れについて説明できる。						
2回目	(目標②)治療体験を通して、脊柱起立筋、腰方形筋に触察し描出ができる。						
3回目	(目標①)大殿筋、中殿筋に触察し描出ができる。						
4回目	(目標②)大殿筋、中殿筋の治療体験をおこなう。						
5回目	(目標①)大腿四頭筋、縫工筋に触察し、描出ができる。						
6回目	(目標②)大腿四頭筋、縫工筋の治療体験をおこなう。						
7回目	(目標①～③)小テスト(1回目)大腿二頭筋、半腱・半膜様筋に触察し、描出ができる。						
8回目	(目標②)大腿二頭筋、半腱・半膜様筋の治療体験をおこなう。						
9回目	(目標①)前脛骨筋、長趾伸筋、長母趾伸筋に触察し、描出ができる。						
10回目	(目標②)前脛骨筋、長趾伸筋、長母趾伸筋の治療体験をおこなう。						
11回目	(目標①)腓腹筋、ひらめ筋、後脛骨筋に触察し、描出ができる。						
12回目	(目標②)腓腹筋、ひらめ筋、後脛骨筋の治療体験をおこなう。						
13回目	(目標①～③)小テスト(2回目)1～12回講義までの振り返りを行い、全体の触察を行い描出ができる。各筋に対してMTAを実施できる。①						
14回目	(目標①～③)1～12回講義までの振り返りを行い、全体の触察を行い描出ができる。各筋に対してMTAを実施できる。②						
15回目	(目標①～③)まとめ						
準備学習 時間外学習	<p>(目標①)前提として、1年次の解剖学の理解が不可欠です。各講義前に講義対象となる骨指標、筋名の予習が必要です。 (目標②)事前に動画で立ち位置などを確認したい場合は、動画撮影した教材を提供します。 (目標③)MTAは一般理学療法関連書籍に記載の無い特別な技術となります。参考書籍等閲覧したい場合は、教材を提供します。 (目標①～③)小テストを2回実施予定です。それぞれのテスト対策として、講義の復習は必要です。</p>						
評価方法	<p>体表上に描出することが上手か下手かは評価対象にならない。触察時のポイントとなる内容を描出できるかどうか、解剖学的知識の到達評価を小テスト・定期試験によって行う。 ●小テスト(20%) ●定期試験(80%) 割合で成績評価を行う。</p>						
受講生への メッセージ	<p>魅力：患者様に信頼される理学療法士になるためには、治療者としての知識・技術は重要です。骨指標や、筋の触察が可能になると検査測定の高確率が向上するとともに、問題点の抽出～治療効果判定などに大いに役立ちます。また、臨床で活躍をされ経験豊富な講師の先生に実際に治療技術を交えながら、受ける事の出来る講義は多くは無いと思います。積極的な講義への参加を期待しています。 授業計画：本講義は講義・演習形態です。いつでも演習が出来るように毎講義実習着着用で参加してください。忘れずに持参してください。また、用意する機材も多いので、講義直前に慌てて準備する事にならないよう、事前準備をしっかりとって臨んでください。</p>						
<p>【使用教科書・教材・参考書】 <使用教科書> 河上敬介 磯貝 香：改訂第2版骨格筋の形と触察法、大峰剛</p> <p><使用教材> 体表上に描出するためのマーカー・実習着・タオル・枕・プロジェクター・デモ確認動画</p>							

2024年度 授業概要

学科：理学療法科

科目名 (英)	社会保障制度論 (Social Security System Theory)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	木塚 大成
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	火曜・3限

【授業の学習内容】
社会保障制度論では、1年次に学んだ社会福祉原論に基づいて社会福祉政策・制度と実践の体系と基礎を把握します。そこから、私たちにとって社会福祉がなぜ必要か、専門職である理学療法士として目指すべきものは何か、どのように取り組みればよいかを考えます。

※実務者経験：社会福祉士として、社会福祉法人身体障害者授産施設で10年勤務した経験から、社会保障制度に関する業務に携わる。

【到達目標】
1年次に学習した社会福祉原論より社会保障制度に関する知識・理解を発展させることで、生活支援の実践を通して社会資源をどのように活用すべきか想像することができる。
<具体的な目標>
目標①社会保障制度や、生活保護制度について成り立ちやその内容について説明できる。
目標②医療保険についてそのシステムや、他の保険制度との違いについて説明できる。
目標③介護保険や雇用保険・労災保険についてそのシステムや他の保険制度との違いについて説明できる。

授業計画・内容

1回目	(目標①)オリエンテーション、社会保障制度概要について説明できる。
2回目	(目標①)社会保障の定義や、社会扶助と社会保険とは何か説明できる。
3回目	(目標①)生活保護制度Ⅰ(原理と原則)について説明できる。
4回目	(目標①)生活保護制度Ⅱ(扶助の種類)について説明できる。
5回目	(目標①)年金保険制度Ⅰ(公的年金の種類)について説明できる。
6回目	(目標①)年金保険制度Ⅱ(給付の種類としくみ)について説明できる。
7回目	(目標②)医療保険制度Ⅰ(医療保険の種類)について説明できる。
8回目	(目標②)医療保険制度Ⅱ(給付の種類としくみ)について説明できる。
9回目	(目標③)介護保険制度Ⅰ(利用方法と認定審査)について説明できる。
10回目	(目標③)介護保険制度Ⅱ(給付の種類とケアマネジメント)について説明できる。
11回目	(目標③)介護保険制度Ⅲ(平成27年度改正点)について説明できる。
12回目	(目標③)雇用保険制度(給付の種類など)について説明できる。
13回目	(目標③)労災保険制度(給付の種類など)について説明できる。
14回目	(目標①②③)社会保障制度、生活保護制度、各種保険制度について説明できる。
15回目	(目標①②③) まとめ
準備学習 時間外学習	(目標①)社会保障に関する内容については、高校時社会で学んだ内容も含まれています。一般的な内容を復習した上で、医療的措置などの理解を深めていくことが重要です。 (目標②)医療保険に関する内容については、各種保険制度の違いなどをしっかりと理解する必要があります。年齢によって受給できる内容が違うなど、様々な内容がありますので、講義内容をしっかりと振り返る事は重要です。 (目標③)1年次に学習した社会福祉原論など、介護保険に関する学習科目は多くあります。それぞれの科目で学んだ内容を再度復習しておくことが重要です。
評価方法	定期試験結果による判定を行う。 判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。
受講生へのメッセージ	魅力：理学療法士は患者様の自宅復帰など生活基盤の調整に関わる役割もあります。そのため、社会制度に関する知識を持つことは、その調整に対する幅を意味します。基本的にはケアマネージャー等が行う役割になりますが、理学療法士がその専門性を活かしてアドバイスできる事も大いにあるでしょう。それ故、社会保障・社会制度に対する知識を持つことで身体機能面だけでなく、社会的資源の支援が出来てこそ本当の意味での生活支援となると言えます。この機会にぜひ多くの学びをすることで、理学療法士として働く時に活かせるよう努力されることを望んでいます。 講義計画：講義は講義形式となります。使用教材もあるので、講義開始前5分前には必ず使用教材を教務室に取りに来てください。講義は社会福祉の概要や保険制度に関する内容となっています。講義を遅刻・欠席すると内容理解が難しくなりますので、遅刻・欠席には十分に注意してください。
【使用教科書・教材・参考書】	<教科書> 島田美喜他：ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障③ 社会福祉と社会保障。メディカ出版 <使用教材> 教科書、講義資料プリント、PG、プロジェクター、ホワイトボード、ボードマーカー(黒・赤・青)

2024年度 授業概要

学科：理学療法科

科目名 (英)	整形外科学Ⅱ (Orthopedics Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員 実務経験	九大整形外科 ○
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分 曜日・時限	後期
コース							
<p>【授業の学習内容】 理学療法士の役割は、主に身体の治療的側面を中心に担うが、その対象として運動器疾患は関与することが多い。本講義では、2年前期で学んだ整形外科学Ⅰをさらに発展させ、整形外科疾患各論について学習する。特に骨折脱臼などの治療プロセスや各関節部位における疾患、障がいなどの特徴を学び、選択された治療に応じたリハビリテーション手法なども含めて学習する。</p> <p>※実務者経験：九州大学病院にて勤務。九州大学の整形外科教室にも所属し、医学生への教授も行っている。</p>							
<p>【到達目標】 理学療法士と運動器疾患の関わりを理解し、それぞれの疾患の好発年齢や性差などの特徴を理解することができる。</p> <p><具体的な目標> 目標①各関節の解剖学的特徴を説明できる。 目標②整形外科分野の代表的疾患を列挙し、その特徴について説明できる。</p>							

授業計画・内容

1回目	(目標①)肩関節解剖学的特徴について説明できる。
2回目	(目標②)肩関節でみられる代表的疾患を列挙し、その特徴について説明できる。
3回目	(目標①)肘関節の解剖学的特徴が説明できる。肘関節でみられる代表的疾患を列挙し、その特徴について説明できる。
4回目	(目標①)手関節および手指の解剖学的特徴が説明できる。手関節および手指でみられる代表的疾患を列挙し、その特徴について説明できる。
5回目	(目標①)頸椎部の解剖学的特徴が説明できる。頸椎部でみられる代表的疾患を列挙し、その特徴について説明できる。
6回目	(目標①)胸部、胸椎、腰椎の解剖学的特徴が説明できる。胸部、胸椎、腰椎でみられる代表的疾患を列挙し、その特徴について説明できる。
7回目	(目標①)股関節の解剖学的特徴が説明できる。股関節でみられる代表的疾患を列挙し、その特徴について説明できる。
8回目	(目標①)膝関節の解剖学的特徴が説明できる。
9回目	(目標②)膝関節でみられる代表的疾患を列挙し、その特徴について説明できる。
10回目	(目標②)足関節と足趾の特徴的疾患を列挙し、その特徴について説明できる。
11回目	(目標②)外傷総論、軟部組織損傷について説明できる。
12回目	(目標②)骨折と脱臼の違いと特徴について説明できる。
13回目	(目標②)脊椎・脊髄損傷について説明できる。
14回目	(目標②)末梢神経損傷をセドンの分類を用いて説明できる。さまざまなスポーツでおこる特徴的な障害について説明できる。
15回目	(目標①②) まとめ
準備学習 時間外学習	(目標①)1年次から運動学で学んだ各関節運動の理解が重要です。また、解剖生理学Ⅰ-3で学んだ骨格筋との関連についても理解が重要です。これらの科目の復習が必要です。 (目標②)整形外科分野には多くの疾患があり、特徴が似ているものも多いと言えます。そのため、好発年齢や性差といった疾患特徴を列挙するためには、それぞれの疾患特性についてはまず予習を行うことが重要です。講義前には必ず一度目を通すように心掛けてください。
評価方法	定期試験結果による判定を行う。 判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。
受講生への メッセージ	魅力：理学療法士として整形外科疾患の患者様と関わる機会が多いと言えます。病前と同様の生活が営めない状態に陥った方々に対し、医師を中心とした他職種との連携により、症状が軽快し生活状態の改善が見られることで、患者様の笑顔に繋がります。そのためには解剖学・生理学・運動学的知識に基づき、整形外科疾患の特徴を把握した上で適切な治療を選択していく必要があります。術後の理学療法など非常に難しい事も多いですが、成果が見られた時には喜びも大きくなります。この機会に整形外科疾患を理解し、多くの患者様の治療に役立てていただきたいと思います。 講義計画：講義は講義形式となります。使用教材もたくさんあるので、講義開始前5分前には必ず使用教材を教務室に取りに来てください。講義内容は運動器の専門的内容となっています。講義を遅刻・欠席すると内容理解が難しくなりますので、遅刻・欠席には十分に注意してください。
<p>【使用教科書・教材・参考書】 <教科書> 松野丈夫他：標準整形外科学第15版 医学書院</p> <p><使用教材> 講義資料(毎講義前に提示)、PC、マイク、プロジェクター</p>	

2024年度 授業概要

学 科 : 理学療法科

科目名 (英)	日常生活活動学	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	田中 俊光
	Activity of Daily Living	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	実務経験	○
コース					1	開講区分	後期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

日常生活活動学は病気や障がいを持った方たちの生活について学びます。病気や障がいがあっても生活を改善していくことで、社会参加し、QOLを改善していくことが可能です。そのためには日常生活を評価し、生活改善のための計画を立てることが必要です。また日常生活の基盤として寝返り、起き上がり、立ち上がりなどの基本動作の改善が重要となります。もし障がいによって生活活動が制限されていても福祉機器や福祉用具を使うことで、改善できる場合もあります。

※実務者経験: 2001年4月～2007年1月まで病院に所属する。

主業務は脳血管障害、整形外科疾患などのリハビリテーションを行っていた。

2008年～現在は、障がい者スポーツセンターにて片麻痺の方のリハビリ教室、介護施設にてリハビリテーションを行っている。

【到達目標】

リハビリテーション医学におけるADLの位置づけ及び評価、指導のための基本的な知識と方法論を修得する。基本動作指導、福祉機器・用具の種類や使用方法については実習を行う。

＜具体的な目標＞

目標①ADLの概念と評価法について説明できる

目標②基本動作(定義、種類、指導)について説明できるようになる

目標③福祉機器・用具(移動補助具、自助具含む)について説明できるようになる

授業計画・内容

1回目	(目標①)ADLの概念について説明できる①
2回目	(目標①)ADLの概念について説明できる②
3回目	(目標①)日常生活の代表的な評価Barthel Indexについて説明できるようになる
4回目	(目標①)日常生活の代表的な評価FIMについて説明できるようになる①
5回目	(目標①)日常生活の代表的な評価FIMについて説明できるようになる②
6回目	(目標①)日常生活の代表的な評価FIMについて説明できるようになる③
7回目	(目標②③)脳卒中片麻痺の基本動作・ADLについて説明できるようになる①
8回目	(目標②③)脳卒中片麻痺の基本動作・ADLについて説明できるようになる②
9回目	(目標②③)脳卒中片麻痺の基本動作・ADLについて説明できるようになる③
10回目	(目標②③)脳卒中片麻痺の基本動作・ADLについて説明できるようになる④
11回目	(目標②③)脊髄損傷の基本動作・ADLについて説明できるようになる①
12回目	(目標②③)脊髄損傷の基本動作・ADLについて説明できるようになる②
13回目	(目標②③)脊髄損傷の基本動作・ADLについて説明できるようになる③
14回目	(目標②③)脊髄損傷の基本動作・ADLについて説明できるようになる④
15回目	(目標②③)脊髄損傷の基本動作・ADLについて説明できるようになる⑤
準備学習 時間外学習	(目標①)この授業では、各評価方法毎にルールを理解する必要があります。配布された評価表をみて、復習してください。 (目標②)基本動作は病気や障がいを想定して行う事ができます。実際に片手で生活してみるなどの予習をすれば授業の理解が深まります。 (目標③)最新の福祉機器・用具が開発されています。インターネットに最新の情報がありますので、予習が必要です。
評価方法	定期テストにて知識・技能の到達評価を行う。 ●定期テスト(100%) 割合で成績評価を行う。
受講生への メッセージ	魅力:病気や障がいをもつ方々にとって日常生活活動の改善は、一人ひとりのQOLに大きな影響があります。そのために日常生活を評価し、指導していくための知識や方法論は、理学療法士が身につけるべき能力のひとつです。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:柴 喜崇 PT・OTビジュアルテキスト ADL第2版 羊土社

2024年度 授業概要

学 科 : 理学療法科

科目名 (英)	運動療法学実習	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	赤池 保之
	Therapeutic Exercise practice	授業 形態	実習	総時間 (単位)	60	実務経験	○
コース					2	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜・1限、2限

【授業の学習内容】

理学療法の大きな柱である運動療法の基礎を総論的に学習し、運動療法の背景となる基礎知識と技術を実習を通して習得する。運動療法とは、身体機能の障害をもつ者あるいは障害の予防に対して、その人がもつ能力を最も効果的な運動で高め回復させることである。運動療法学の授業で講義した内容を8つに分類し、実習形式で講義をすすめていきます。①②③関節可動域の維持・改善:短縮した皮膚、筋、腱、関節包に対する伸張や関節構成体の病変に対するアプローチにより関節可動域を拡大することができる。④筋力および筋持久力の維持・改善:筋の活動性を高めることにより、筋力および筋持久力を増大することができる。⑤バランス能力の獲得・改善、リラクゼーション:バランス能力の獲得・改善では適切な肢位や体位を保つため、神経・筋機能を改善し、再教育することができる。リラクゼーションでは、運動時に不必要な筋活動や筋緊張亢進を抑制し、弛緩させることにより運動療法を円滑に実施することができる。⑥協調性の改善:障害の程度に合わせて、筋群相互の協調性をはかることができる。⑦PNFの理論を理解し、特殊クニックを実践できる。⑧基本動作の獲得:日常生活に必要な起居・移動動作や上肢機能、体力の獲得をはかる運動ができる。
 ※実務経験:赤池保之 平成14年4月~平成19年3月まで医療・福祉施設に所属(理学療法士及び准看護師・介護支援専門員の資格を修得し実務を行う。) 主に運動器疾患の患者様の治療・訓練を行っていました。

【到達目標】

運動療法学実習では、運動療法の基本となる技術やリスク管理について実習を通して学習をします。運動療法は理学療法を中心とする治療法ですが、実施にあたっては、その背景となる理論や原理・原則などを理解しておく必要があります。この講義では、まず運動療法の定義や目的について再確認したのち、運動療法の実施に必要な運動力学について復習します。そして、運動療法のなかで最も実施する機会が多い①関節可動域運動、②ストレッチング、③関節モビライゼーション、④筋力維持増強運動、⑤全身調整・機能回復およびリラクゼーション運動、⑥疾患別治療体操、⑦神経筋再教育・神経生理学的アプローチ、⑧日常生活に必要な起居・移動動作訓練などを理解し実践できるように学習していきます。

授業計画・内容

1・2回目	オリエンテーション、
3・4回目	(目標①)関節可動域運動:他動的関節可動域運動による上肢(肩、肘、手関節、頸椎)への運動が実践できる。
5・6回目	(目標①)関節可動域運動:他動的関節可動域運動による下肢(股、膝、足関節、体幹)への運動が実践できる。
7・8回目	(目標②)短縮筋が原因の関節可動域制限に対する頸部・上肢筋へのストレッチングが実践できる。
9・10回目	(目標②)短縮筋が原因の関節可動域制限に対する体幹・下肢筋へのストレッチングが実践できる。
11・12回目	(目標③)疼痛を伴う関節可動域制限に対する関節モビライゼーションが実践できる。(頸椎、上肢関節)
13・14回目	(目標③)疼痛を伴う関節可動域制限に対する関節モビライゼーションが実践できる。(胸腰椎、下肢関節)
15・16回目	(目標⑦)神経筋再教育・神経生理学的アプローチ:上肢に対してPNFを実践できる。
17・18回目	(目標⑦)神経筋再教育・神経生理学的アプローチ:下肢に対してPNFを実践できる。
19・20回目	(目標④)筋力増強維持増強運動:等張性運動による筋力維持増強が実践できる。
21・22回目	(目標④)筋力増強維持増強運動:等尺性運動による筋力維持増強が実践できる。
23・24回目	(目標⑤)全身調整・機能回復およびリラクゼーション運動について実践できる。
25・26回目	(目標⑥)疾患別運動療法では治療体操(コッドマン体操、ウィリアムス体操、フレンケル体操、ペーラー体操、クラップ体操)を実践できる。
27・28回目	(目標⑧)日常生活に必要な起居・移動動作訓練を実践できる。
29・30回目	(目標①~⑧)まとめ(終講試験となる場合があります。)

準備学習
時間外学習 (目標①~③)可動域制限の因子や骨・筋・関節の解剖生理学(基礎知識)の予習が必要です。
 (目標④)筋収縮に必要なエネルギー供給機構について予習が必要です。
 (目標⑤~⑥)教科書などを読んでおく事前学習が必要です。
 (目標⑦)神経筋再教育について教科書などを読んでおく事前学習が必要です。

評価方法 ●授業態度・実技テスト(30%)
 ●定期試験(70%) ※終講試験実施の場合あり。
 上記割合で評価いたします。

受講生への
メッセージ 講義の魅力:将来、理学療法士として患者様に信頼され、感謝されるためには、治療者としての知識・技術は必要不可欠となります。今回の講義では、実習形式で実際に治療手技を行っていただきます。
 講義計画:授業計画に沿って、実習形式でペアを組んで自らの身体や他の学生の身体などを触って動かすなどを行います。また、欠席などが多くならないように体調管理を含む、良い生活習慣に心掛ける様努力をしてください。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:千住秀明、運動療法I 第2版 神陵文庫
 機 材:AV教育教材(液晶プロジェクター、ビデオデッキなど)

2024年度 授業概要

学 科 : 理学療法科

科目名 (英)	理学療法評価演習 I (Physiotherapy Evaluation Practice I)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	田中 大喜
	コース	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
						開講区分	後期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

理学療法評価では、検査・測定を行って問題点を抽出する必要がある。さらに評価実習、臨床実習に向けて、これまで修得した知識、技能を応用し、信頼性・再現性の高い評価を実施できるようになる必要がある。本授業では、バイタルサインと形態測定、関節可動域測定、徒手筋力検査、脳神経検査等について理解し、本授業終了時には各種検査・測定の説明ができ、適切に実施できるようになる。

* 実務経験: 2015年～2020年3月まで総合病院で理学療法士として勤務し、入院・外来リハビリテーション業務に携わる。

【到達目標】

各種検査・測定に対する基本的な知識と方法論を修得する。

<具体的な目標>

- (目標①) バイタルサインについて説明し、実施することができる。
- (目標②) 形態測定について説明し、実施することができる。
- (目標③) 関節可動域測定について説明し、実施することができる。
- (目標④) 徒手筋力検査について説明し、実施することができる。
- (目標⑤) 脳神経検査について説明し、実施することができる。

授業計画・内容

1回目	(目標①) バイタルサインについて説明できる。
2回目	(目標①) バイタルサインの実習を行う。
3回目	(目標①) バイタルサインの実習を行う。
4回目	(目標②) 形態測定の目的を説明できる。
5回目	(目標②) 形態測定の実習を行う。
6回目	(目標③) 関節可動域測定の目的を説明できる。
7回目	(目標③) 関節可動域測定の実習を行う(上肢)。
8回目	(目標③) 関節可動域測定の実習を行う(下肢、体幹)。
9回目	(目標④) 徒手筋力検査の目的を説明できる。
10回目	(目標④) 徒手筋力検査の実習を行う(上肢)。
11回目	(目標④) 徒手筋力検査の実習を行う(下肢、体幹)。
12回目	(目標⑤) 脳神経の機能を説明できる。
13回目	(目標⑤) 脳神経検査の実習を行う。
14回目	(目標⑤) 脳神経検査の実習を行う。
15回目	(目標①～⑤)まとめ。
16回目	定期テスト
準備学習 時間外学習	(目標①) 血圧計の使用法等についての予習が必要です。 (目標②) 測定部位、測定点等の予習が必要です。 (目標③) 基本軸、移動軸等の予習が必要です。 (目標④) 段階付け、検査法についての予習が必要です。 (目標⑤) 脳神経の機能についての予習が必要です。 (目標①②③④⑤) 学生間での実技指導が行えるよう、事前練習が必要です。
評価方法	試験およびグループ発表にて知識・技能の到達評価を行う。 ● 定期試験 (70%) ● 確認テスト (20%) ● グループ発表 (10%) 上記の割合で成績評価を行う。
受講生への メッセージ	魅力: 患者のさまざまな情報を分析して、日常生活を困難にしている原因を明らかにしていく過程が理学療法評価と言えます。そのためにも、本授業を通して、正確に検査・測定ができるように努めてください。また、各評価においてグループで取り組み、他学生にアウトプットできるようにしてください。 授業計画: 実習では積極的な姿勢が大切になります。しっかりと取り組んでください。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書

- 松澤正、江口勝彦著: 理学療法評価学 第6版. 金原出版
- H. J. Hislop, D. Avers et al.: 新・徒手筋力検査法 第10版. 協同医学出版社
- 田崎義昭、斎藤佳雄他著: ベッドサイドの神経の診かた 改訂第18版. 南山堂

2024年度 授業概要

学 科 : 理学療法科

科目名 (英)	理学療法評価学Ⅱ	必修 選択	必須	年次	2	担当教員	江島 智子 ¹⁾ ・二田 正利 ²⁾
	Phylotherapy Evaluation Ⅱ	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60	実務経験	○
コース					2	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜日 1・2限目

【授業の学習内容】〔※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する〕
 理学療法評価は患者の現状を知ること、そして治療に繋げ、また治療効果を判定するためにとても大切なものです。これから、臨床に出て患者と接していく上で必要となってきます。そのため、理学療法評価学Ⅱでは理学療法を行うための検査・測定技術とその方法論を習得する科目です。授業では、徒手筋力検査法、脳神経検査法、筋緊張検査法について、それぞれ講義と演習を通して修得し、実技試験を実施し、臨床実習で実施できるレベルに到達することを目標とします。
 ※¹⁾ 実務者経験:2001年～2007年8月まで総合病院・老人保健施設で理学療法士として勤務し、入院・入所・外来リハビリテーション業務に携わる。
 ※²⁾ 実務者経験:2006年～2013年1月まで総合病院、クリニックに所属する。中枢神経障害や整形外科疾患等に対するリハビリテーション業務に携わる。

【到達目標】
 徒手筋力検査法、脳神経検査法、筋緊張検査法の意義・目的を説明することができ、且つ基本的な検査方法を実施することができるようになるために各々の実習を行う。
 <具体的な目標>
 ①徒手筋力検査法の意義・目的を説明することができる
 ②筋の走行をイメージしながら、徒手筋力検査法を実施することができる
 ③脳神経検査の意義・目的を理解しながら、検査を実施することができる
 ④筋緊張検査の意義・目的を理解しながら、検査を実施することができる

授業計画・内容	
1回目	(目標①)徒手筋力検査法の意義・目的・概要について説明ができる
2回目	(目標②)徒手筋力検査法(肩甲帯)の実習を行う
3回目	(目標②)徒手筋力検査法(肩甲帯)の実習を行う
4回目	(目標②)徒手筋力検査法(肩甲帯)の実習を行う
5回目	(目標②)徒手筋力検査法(上肢)の実習を行う
6回目	(目標②)徒手筋力検査法(上肢)の実習を行う
7回目	(目標②)徒手筋力検査法(上肢)の実習を行う
8回目	(目標②)徒手筋力検査法(上肢)の実習を行う
9回目	(目標②)徒手筋力検査法(肩関節～手関節)の復習を行う
10回目	(目標②)徒手筋力検査法(肩関節～手関節)の復習を行う
11回目	(目標②)徒手筋力検査法(手指)の実習を行う
12回目	(目標②)徒手筋力検査法(手指)の実習を行う
13回目	(目標②)徒手筋力検査法(下肢)の実習を行う
14回目	(目標②)徒手筋力検査法(下肢)の実習を行う
15回目	(目標②)徒手筋力検査法(下肢)の実習を行う
16回目	(目標②)徒手筋力検査法(下肢)の実習を行う
17回目	(目標②)徒手筋力検査法(股関節～足関節)の復習を行う
18回目	(目標②)徒手筋力検査法(頭頸部～体幹)の実技を行う
19回目	(目標②)徒手筋力検査法(頭頸部～体幹)の実技を行う
20回目	(目標①②)徒手筋力検査法(頭頸部～体幹)の復習を行う
21回目	(目標③)脳神経検査法の意義・目的を説明できる
22回目	(目標③)脳神経検査法(I～III)の実習を行う
23回目	(目標③)脳神経検査法(IV～VI)の実習を行う
24回目	(目標③)脳神経検査法(VII～IX)の実習を行う
25回目	(目標③)脳神経検査法(X～XII)の実習を行う
26回目	(目標③)脳神経検査法(検査チャート記録)の実習を行う
27回目	(目標④)筋緊張検査法の意義・目的について説明できる
28回目	(目標④)筋緊張のメカニズムについて説明できる。
29回目	(目標④)筋緊張検査法(上肢)の実習を行う
30回目	(目標④)筋緊張検査法(下肢)の実習を行う
準備学習 時間外学習	(目標①)徒手筋力検査法や脳神経検査法を学習していく上で、筋の走行や脳の解剖などの知識が必要となります。そのため、事前に復習をしておくことが必要です。 (目標②)徒手筋力検査法では2回の実技・知識確認を実施しますので、講義の復習が必要です。 (目標③)種々の検査とそれに関連する疾患の知識が繋がるように、講義の復習が必要です。
評価方法	基本的な実技を修得できているかを確認するために、徒手筋力検査法では2回の実技試験を行う。定期試験にて、知識の到達評価を行う。 ●徒手筋力テスト(江島分):70点 (実技試験 15点×2回) ●脳神経検査と筋緊張検査(二田分):30点
受講生への メッセージ	評価は理学療法を実施していくために、とても大切なものとなります。各々の評価の意義・目的をきちんと理解した上で、基本的な評価技術を身につけていきましょう。臨床で実際に実施していくために、まずは学生同士で確実にできるように実技の復習をしていきましょう。また、授業や実技試験では実習のできる服装で参加してください。

【使用教科書・教材・参考書】
 教科書:①Helen J.Hislop,Dale Avera,Marybeth Brown著:新・徒手筋力検査法 原著第10版、協同医学出版
 ②田崎鶴明 著:ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版 南山堂
 ③松澤 正 著:理学療法評価学 第6版補訂版、金原出版
 ④尾上尚志他(編):病気がみえる vol.7、脳・神経 第2版、MEDIC MEDIA

2024年度 授業概要

学 科 : 理学療法科

科目名 (英)	理学療法評価学実習 I Physiotherapy Evaluation Practice I	必修 選択	必須	年次	2	担当教員	田中 大喜 ¹⁾ 、江島 智子 ²⁾
		授業 形態	実習	総時間 (単位)	60	実務経験	○
コース					2	開講区分	後期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 理学療法評価は患者の現状を知ること、そして治療に繋げ、また治療効果を判定するためにとても大切なものです。これから、臨床に出て患者を診ていく上で必要となってきます。そのため、理学療法評価実習 I では理学療法に必要な検査・測定の目的や意義、方法について基礎的な知識を理解し、協調性検査、高次脳機能検査、痛みの検査、電気生理検査、運動発達検査の技術を修得し、臨床実習で実施できるレベルに到達することを目標とします。

※実務者経験: 2015年~2020年3月まで総合病院で理学療法士として勤務し、入院・外来リハビリテーション業務に携わる。¹⁾
 2001年~2008年まで医療・福祉施設に所属。²⁾

【到達目標】
 各検査の意義・目的を理学療法の視点から正しく理解し、各測定の基本的方法で検査・測定を実施することができるようになる。
 <具体的な目標>
 ①各検査の意義・目的を説明することができる
 ②安全かつ迅速に実施できるようになる
 ③各検査について適切な判別ができる

1回目	(目標①) 協調運動の仕組みを説明できる
2回目	(目標①) 協調性検査の意義・目的を説明できる
3回目	(目標①②③) 協調性検査の実習を行う
4回目	(目標①②③) 協調性検査の実習を行う
5回目	(目標①) 高次脳機能障害の概要を説明できる
6回目	(目標①②③) 失認について説明・異常を判別でき、実習を行う
7回目	(目標①②③) 失行について説明・異常を判別でき、実習を行う
8回目	(目標①) 失語について説明でき、判別ができる
9回目	(目標①②③) 認知障害について説明でき、実習を行う
10回目	(目標①②③) 意識障害について説明ができる
11回目	(目標①) 痛みの種類・原理について説明できる
12回目	(目標①) 痛みの評価方法を説明できる
13回目	(目標①②③) 痛みの評価を実施できる。
14回目	(目標①) 知覚の種類・検査の目的を説明できる
15回目	(目標①②③) 知覚検査(表在感覚)の方法を説明し、実施・判定できる
16回目	(目標①②③) 知覚検査(表在感覚)の方法を説明し、実施・判定できる
17回目	(目標①②③) 知覚検査(深部感覚)の方法を説明し、実施・判定できる
18回目	(目標①②③) 知覚検査(複合感覚)の方法を説明し、実施・判定できる
19回目	(目標①) 電気生理検査を説明できる
20回目	(目標①②③) 電気生理検査を実施し、正常と異常所見などを説明できる
21回目	(目標①) 神経の発達と反射について説明ができる
22回目	(目標①) 神経の発達と反射について説明ができる
23回目	(目標①②③) 原始反射(脊髄レベル)について説明と実施ができる
24回目	(目標①②③) 原始反射(脊髄レベル)について説明と実施ができる
25回目	(目標①②③) 原始反射(脳幹レベル)について説明と実施ができる
26回目	(目標①②③) 立ち直り反応について説明と実施ができる
27回目	(目標①②③) 立ち直り反応について説明と実施ができる
28回目	(目標①②③) 平衡反応について説明と実施ができる
29回目	(目標①②③) 平衡反応について説明と実施ができる
30回目	発達と反射についてのまとめ
準備学習 時間外学習	(目標①) この授業を受けるには、神経系の解剖学・生理学を理解しておく必要があります。 (目標②) 様々な検査があるため、各検査の意義・目的を説明出来るように復習が必要です。 (目標③) 安全かつ迅速に実施できるように練習をしていく必要があります。
評価方法	確認テストにおいて知識・技能の到達評価を行う。 ●20回目の講義後に確認テスト①(1回目~20回目:60点)と小テスト(10点) ●30回目の講義後に確認テスト②(21回目~30回目:30点) 確認テスト①とポートフォリオ、確認テスト②の合計で成績判定を行う。
受講生への メッセージ	患者の全体像を把握し、治療に繋げていくために理学療法評価は大切なものです。それぞれの評価の意義・目的を理解した上で、基本的な評価技術を身につけていきましょう。臨床で安全かつ迅速に実施できるように練習をしていきましょう。また、授業では実習のできる服装で参加してください。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書: ①田崎義昭 著: ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版. 南山堂 ②松澤 正 著: 理学療法評価学 改訂第6版. 金原出版	

2024年度 授業概要

学科：理学療法科

科目名 (英)	病理学Ⅱ (Pathology Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	清島 保
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース						開講区分	後期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】
理学療法士にとって職務上、疾患を抱えた患者と接する機会は非常に多い。またその疾患も多様であり、各疾患の病態を理解する必要度は高いと言える。そのため、本講義においては、人体の各臓器における特徴的な病態像を理解する事により、疾患の本態を学びその成り立ちについて学習する。また、疾患の病理形態学的な特徴や、臨床との関連事項についても学習する。

※実務者経験：2014年より大学教授として歯学研究院にて多くの研究に携わる。また、大学病院にて診断業務や病理解剖に携わっている。

【到達目標】
病理学Ⅰで学んだ内容に基づいて、各病態の特徴を学ぶことで、人体の各臓器における疾患の特徴的概要を自分の言葉に置き換えて説明することができる。

<具体的な目標>
目標①口腔～胸腹部の疾患を理解し、その特徴について説明できる。
目標②神経系の疾患を理解し、その特徴について説明できる。
目標③運動器疾患を理解し、その特徴について説明できる。
目標④内分泌疾患を理解し、その特徴について説明できる。

授業計画・内容

1回目	(目標①)イントロダクション 心臓・血管の疾患について説明できる。
2回目	(目標①)心臓・血管の疾患について説明できる。
3回目	(目標①)上気道(鼻腔・咽頭・喉頭)の疾患について説明できる。
4回目	(目標①)気管・気管支・肺の疾患について説明できる。
5回目	(目標①)口腔・食道の疾患について説明できる。
6回目	(目標①)胃の疾患について説明できる。
7回目	(目標①)小腸・大腸の疾患について説明できる。
8回目	(目標①)肝臓・胆嚢の疾患について説明できる。
9回目	(目標①)胆道系および膵臓の疾患について説明できる。
10回目	(目標①)腎臓・尿路(尿管・膀胱)の疾患について説明できる。
11回目	(目標①)泌尿器・生殖器の疾患について説明できる。
12回目	(目標②)神経系の疾患について説明できる。
13回目	(目標③)運動器(骨・筋肉など)の疾患について説明できる。
14回目	(目標④)内分泌臓器の疾患について説明できる。
15回目	(目標①②③④)まとめ

準備学習
時間外学習
(目標①)各臓器の病態を理解する必要があるため、基本的な人の構造や生理学的理解が必要です。そのため、解剖生理学ⅠⅡで学んだ内容についての理解は必要不可欠です。また、病理学Ⅰを発展させ、各疾患について取り組むため再度病理学Ⅰの復習が推奨されます。
(目標②③④)新たに、病理学分野を広げていくため各講義前には事前学習を行うことを推奨します。特に、各疾患の特徴で言えば、性差や好発年齢などは国家試験的にも聞かれやすい傾向にあります。そのような特徴は特に記憶すべきものと言えますので、予習は重要です。

評価方法
定期試験結果による判定を行う。
判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。

受講生へのメッセージ
魅力：理学療法士は、様々な疾患を持つ患者様と関わる機会が多いと言えます。病気に苦しむ患者様の問題を解決するためには、まず病態を理解する必要があります。病理学は「病気の原因とメカニズムを明らかにすることを目的とする学問」として定義されており、まさに病態を理解するという点では重要な学問といえるでしょう。病気の原因とメカニズムが理解出来ればその後、解決手法としての治療へ展開する事ができます。治療が出来て生活状態の改善が見られることは、患者様の笑顔に繋がります。これはまさに、理学療法士にとって大きなやりがいにつながると言えます。この機会に病理学を理解し、患者様の治療に役立ててられるような講義への取り組みを期待します。
講義計画：講義は講義形式となります。使用教材も多くあるので、講義開始前5分前には必ず使用教材を教務室に取りに来てください。講義は内科の専門的内容となっています。講義を遅刻・欠席すると内容理解が難しくなりますので、遅刻・欠席には十分に注意してください。

【使用教科書・教材・参考書】
<教科書>
笹野公伸他:シンプル病理学改訂第6版.南江堂

<使用教材>
講義資料(毎講義前に提示)、PC、マイク、プロジェクター

2024年度 授業概要

学科：理学療法科

科目名 (英)	物理療法学 (ELECTROPHYSICAL AGENTS)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	前田 雄一
		授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	火曜・1限

【授業の学習内容】

理学療法分野における物理療法学は治療的側面を担い、日々の臨床で広く用いられるため、安全かつ効果的に種々の物理的刺激を選択しうる知識が要求される。本講義では各種治療法の目的・適用・禁忌について生理学的知見から解釈することで、目的に見合った物理療法が選択できることを目標とする。講義前半では温熱療法、寒冷療法、水治療法、光線療法、牽引療法の4手法、講義後半はエネルギー変換療法、電気刺激療法、超音波療法、牽引療法の4手法について生理学的知見から解釈し、ケーススタディを通してグループワークを行う。

※実務者経験：2001年～2018年まで総合病院～整形外科クリニック(有床診療所・無床診療所)で外来・入院リハビリテーション業務に携わる。

【到達目標】

種々の物理的刺激がもたらす生理学的効果を理解するための基本的な知識と方法論を習得する。またグループワーク形式でケーススタディを行い、目的に見合った物理療法について説明できる。

<具体的な目標>

【目標①】温熱療法、寒冷療法、水治療法、光線療法の生理学的効果、適応、禁忌について述べる事が出来る。

【目標②】エネルギー変換療法、電気刺激療法、超音波療法、牽引療法の生理学的効果、適応、禁忌について述べる事が出来る。

【目標③】ケーススタディを通して、目的に見合った物理療法を選択できる。

※グループワークは1グループ(5～6)人とし、課題ごとにリーダーを変えること。リーダーは与えられた課題に対し、簡潔かつ明瞭に発言すること。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション：理学療法分野における物理療法の位置づけについて
2回目	【目標①③】温熱療法の特性と作用を説明できる①(ホットパック・パラフィン浴のケーススタディ)
3回目	【目標①③】温熱療法の特性と作用を説明できる②(ホットパック・パラフィン浴のケーススタディ)
4回目	【目標①③】寒冷療法の特性と作用を説明できる①(アイスパック、クリッカーのケーススタディ)
5回目	【目標①③】水治療法の特性と作用を説明できる(小テスト、ハーバードタンク・過流浴のケーススタディ)
6回目	【目標①③】光線療法の特性と作用を説明できる①(赤外線・紫外線・レーザーのケーススタディ)
7回目	【目標①③】光線療法の特性と作用を説明できる②(赤外線・紫外線・レーザーのケーススタディ)
8回目	【目標②③】エネルギー変換療法の特性と作用を説明できる①(極超短波療法・超短波療法のケーススタディ)
9回目	【目標②③】エネルギー変換療法の特性と作用を説明できる②(極超短波療法・超短波療法のケーススタディ)
10回目	【目標②③】電気刺激療法の特性と作用を説明できる①(TENS・NMESのケーススタディ)
11回目	【目標②③】電気刺激療法の特性と作用を説明できる②(TENS・NMESのケーススタディ)
12回目	【目標②③】超音波療法の特性と作用を説明できる①(ケーススタディ)
13回目	【目標②③】超音波療法の特性と作用を説明できる②(ケーススタディ)
14回目	【目標②③】牽引療法の特性と作用を説明できる(頸椎牽引と腰椎牽引のケーススタディ)
15回目	【目標①②③】まとめ

準備学習
時間外学習

【目標①②】受講にあたり、1・2年時の生理学的知識が必要となるため復習が必要です。
【目標③】疾患や症状に見合った物理療法が選択できることを本講義の目標としているため、主に運動器疾患について復習をしておく。

評価方法

1)定期テスト(100%) の割合で成績評価を行う。

受講生へのメッセージ

本講義では、各種物理療法がもたらす生理学的特性を理解し、症例に適した物理療法が選択できることを目的としています。毎回必ず予習をして講義に参加してください。グループワークでは積極的に参加し、活発な意見交換をしてください。
※各自メモ用紙(B4サイズのノート1冊)を必ず準備すること。
※必要に応じてICT(スマートフォンもしくはタブレット)を活用するため、可能な限り準備しておくこと。

【使用教科書・教材・参考書】

<教科書>

細田多穂：物理療法学テキスト改訂第2版、南江堂

<参考書>

Michelle H.Cameron：EBM物理療法 原著第3版、医歯薬出版株式会社、庄本康治：エビデンスから身につける物理療法、羊土社

2024年度 授業概要

学科: 理学療法科

科目名 (英)	物理療法学実習 (PRACTICE OF ELECTROPHYSICAL AGENTS)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	前田 雄一
		授業 形態	実技	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース						開講区分	後期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】

理学療法分野における物理療法学は治療的側面を担い、日々の臨床で広く用いられるため、安全かつ効果的に種々の物理的刺激を選択しうる知識が要求される。本講義では各種治療法の目的・適用・禁忌について生理学的知見から解釈した上で、物理療法を適切に機器(器具)を使用できることを目標とする。講義前半では温熱療法、寒冷療法、水治療法、光線療法の4手法、講義後半はエネルギー変換療法、電気刺激療法、超音波療法、牽引療法の4手法についてグループワーク形式で、ケーススタディに即した物理療法実習を行う。

※実務者経験:2001年~2018年まで総合病院~整形外科クリニック(有床診療所・無床診療所)で外来・入院リハビリテーション業務に携わる。

【到達目標】

種々の物理的刺激がもたらす生理学的効果を理解した上で、症例に見合った物理療法を実践できる。また、各種物理療法機器(器具)の取り扱いについてはケーススタディをグループワーク形式で実習する。

<具体的な目標>

【目標①】温熱療法、寒冷療法、水治療法、光線療法の機器(器具)を適切に取り扱うことができる。

【目標②】エネルギー変換療法、電気刺激療法、超音波療法、牽引療法の機器(器具)を適切に取り扱うことができる。

【目標③】ケーススタディを通して、目的に見合った物理療法を実施できる。

※グループワークは1グループ(5~6)人とし、課題ごとにリーダーを変えること。リーダーは与えられた課題に対し、簡潔かつ明瞭に発言すること。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション:理学療法分野における物理療法の位置づけについて
2回目	【目標①③】温熱療法実習①(ホットパック・パラフィン浴のケーススタディ)
3回目	【目標①③】温熱療法実習②(小テスト、ホットパック・パラフィン浴のケーススタディ)
4回目	【目標①③】寒冷療法実習(小テスト、アイスパック、クリッカーのケーススタディ)
5回目	【目標①③】水治療法実習(小テスト、ハーバードタンク・過流浴のケーススタディ)
6回目	【目標①③】光線療法実習①(小テスト、赤外線・紫外線・レーザーのケーススタディ)
7回目	【目標①③】光線療法実習②(小テスト、赤外線・紫外線・レーザーの生理学的効果とケーススタディ)
8回目	【目標②③】エネルギー変換療法実習①(小テスト、極超短波療法・超短波療法のケーススタディ)
9回目	【目標②③】エネルギー変換療法実習②(小テスト、極超短波療法・超短波療法のケーススタディ)
10回目	【目標②③】電気刺激療法実習①(小テスト、TENS・NMESのケーススタディ)
11回目	【目標②③】電気刺激療法実習②(小テスト、TENS・NMESのケーススタディ)
12回目	【目標②③】超音波療法実習①(小テスト、ケーススタディ)
13回目	【目標②③】超音波療法実習②(小テスト、ケーススタディ)
14回目	【目標②③】牽引療法実習(小テスト、頸椎牽引と腰椎牽引のケーススタディ)
15回目	【目標①②③】まとめ

準備学習
時間外学習

【目標①②】受講にあたり、物理療法学(前期)の知識が必要となるため復習が必要です。
【目標③】目的に見合った物理療法を選択できることを本講義の目標としているため、主に運動器疾患について復習をしておく。

評価方法

1)定期テスト(100%) の割合で成績評価を行う。

受講生へのメッセージ

本講義では、各種物理療法がもたらす生理学的特性を理解し、症例に見合う適切な物理療法を実施できることを目的としています。グループワークでは積極的に参加し、活発な意見交換をしてください。
※各自メモ用紙(B4サイズのノートを1冊)を必ず準備すること。

【使用教科書・教材・参考書】

<教科書>

細田多穂:物理療法学テキスト改訂第2版. 南江堂

<参考書>

Michelle H.Cameron:EBM物理療法 原著第3版. 医歯薬出版株式会社、庄本康治:エビデンスから身につける物理療法.羊土社

2024年度 授業概要

学科：理学療法科

科目名 (英)	理学療法総合演習Ⅱ (Physical Therapy General Practices I)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	田中 利昭
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	月曜・3限

【授業の学習内容】
1年次から継続して国家試験対策を行うことで、今まで学んだ内容と実際の国家試験過去問をリンクさせながら、基礎学力の知識の定着を図っていく。またグループ学習を通して、問題の解き方や考え方、理解度など、様々な視点で捉えることができるようにしていく。

※実務者経験：2001年～2007年8月まで総合病院・老人保健施設で理学療法士として勤務し、入院・入所・外来リハビリテーション業務に携わる。

【到達目標】
基礎の段階で弱点を見つけ出し、対策・改善していくことを目標に、1年前期・後期で学習した、解剖学・生理学・運動学における基礎学力を向上し、各分野の国家試験問題を理解・解説できるようになる。

<具体的な目標>
目標① 課題の内容について、自分で資料を作成することができる(調べ学習)
目標② 課題の内容について、他者に解説をすることができる(シェア学習)
目標③ 課題の内容について、グループで討論することができる(グループ学習)

授業計画・内容	
1回目	(目標①②③) 骨・関節、上肢帯、循環器系の復習①
2回目	(目標①②③) 骨・関節、上肢帯、循環器系の復習②
3回目	(目標①②③) 中枢神経系の解剖について説明できる①
4回目	(目標①②③) 中枢神経系の解剖について説明できる②
5回目	(目標①②③) 大脳の機能局在について説明できる①
6回目	(目標①②③) 大脳の機能局在について説明できる②
7回目	(目標①②③) 伝導路について説明できる①
8回目	(目標①②③) 伝導路について説明できる②
9回目	(目標①②③) 股関節について説明できる①
10回目	(目標①②③) 股関節について説明できる②
11回目	(目標①②③) 膝関節について説明できる
12回目	(目標①②③) 足関節について説明できる①
13回目	(目標①②③) 足関節について説明できる②
14回目	(目標①②③) 呼吸器系について説明できる①
15回目	(目標①②③) 呼吸器系について説明できる②
準備学習 時間外学習	(目標①)グループ学習を行う上で、事前に調べ学習を行うことが大切です。複数の文献を読み、大切なポイントを押さえながら、理解ができるように心がけましょう。 (目標②)グループ学習では、事前に学習した内容を、他者に解説することでシェア学習を行うことが大切です。自分が理解できていなければ、他者に解説することが難しくなりますので、質問されても答えられるように準備をしておきましょう。 (目標③)グループ学習を通して、他者の考え方や解き方を学び、多角的に問題を捉えられるようにすることが重要です。「なぜそうなるのか、なぜそう考えたのか」という部分を大切に、グループで学び合ってください。
評価方法	受講態度・課題の提出・口頭試問など：40% 総講試験(15回目の授業終了後に実施)：60% にて成績判定を行う。
受講生への メッセージ	魅力：一人で学習するよりもグループで学習した方が、色々な意見を聞くことができ、理解も深まっていきます。教え合うことも大切ですが、他者がどのようにして答えを導き出したのか「考え方」を学ぶ場でもあります。学習時には否定的な考え方はせず、肯定的に捉えられるように柔軟に考えていきましょう。また言葉で理解するよりもイメージで理解できるように、上手にグループ学習を活用していきましょう。 講義計画：講義は演習形式となります。講義終了前に、次の学習内容の課題を配布しますので、調べ学習をしてきてください。その際にわからない所があれば、シェア学習の時にみんなで解決したいと思います。また必要に応じて、学習定着度を確認するための確認テストや口頭試問を行います。自分がどこが理解できて、できていないのかを知るツールとして活用してください。
【使用教科書・教材・参考書】 <教科書> 課題の内容に応じて、必要な教本・教材を準備してください。	

2024年度 授業概要

学科：理学療法科

科目名 (英)	小児科学 (Pediatrics)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	古賀 寿々子
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	月曜 1限・2限
【授業の学習内容】 小児科学では、作業療法と関連する小児科学の基礎について、また小児期によく見られる疾患の知識を中心に学習する。中でも特に成長と発達、小児の栄養・保健、アレルギー疾患、感染症、循環器、呼吸器、血液・造血器、代謝・内分泌、腎・泌尿器、神経系の疾患に関する基礎的知識を習得する。							
【到達目標】 成長と発達とはどういったものかを理解し、各疾患の特徴が説明できる。特に小児特有の病態について説明ができる。							
<具体的な目標> 目標①小児の成長・発達や特徴について説明できる。 目標②小児の各疾患の特徴について説明できる。							

授業計画・内容	
1回目	(目標①)小児とは(子どもとは)どんな存在か自分の考えを述べるができる。
2回目	(目標①)小児の成長、発達、栄養などの特徴について説明できる。
3回目	(目標①)小児の保健、診断と治療の概要について説明できる。
4回目	(目標②)新生児・未熟児の疾患について説明できる。
5回目	(目標②)先天異常と遺伝病について説明できる。
6回目	(目標②)小児の骨・筋・神経系疾患について説明できる。
7回目	(目標②)小児の循環器系疾患・呼吸器系疾患について説明できる。
8回目	(目標②)小児の感染症と消化器疾患について説明できる。
9回目	(目標②)内分泌・代謝疾患、血液疾患について説明できる。
10回目	(目標②)小児の免疫、アレルギー疾患について説明できる。
11回目	(目標②)腎・泌尿器、生殖器疾患、悪性腫瘍について説明できる。
12回目	(目標②)幼小児期の習癖、睡眠関連病態、心身医学的疾患、重症心身障害児について説明できる。
13回目	(目標②)児童虐待の分類や対応について説明できる。
14回目	(目標②)視機能・聴覚機能の障害や耳鼻科的疾患について説明できる。
15回目	学習内容全体の確認とまとめ
準備学習 時間外学習	(目標①)小児の特徴を知るためには成人との違いを理解する必要があります。人の構造を理解するために解剖生理学の復習が重要です。 (目標②)小児の疾患は成人に起こる症状とは異なる場合もあります。他の整形外科、内科学などの疾患特性を理解した上で、小児特有の症状などを学習する為、他の学問の復習と本科目の予習が重要です。
評価方法	定期試験結果(80%)とレポート課題(20%)による判定を行う。 判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。
受講生への メッセージ	魅力:理学療法士は、小児～高齢者まで幅広く関わる職種です。特に生まれながらにして障がいを持つ子どもたちの問題や、成長期に起こりうる障がいなどを知ることは、我々の職種とは切り離せないと言えます。人は他の動物と比べ、2足歩行を獲得する必要があるなど成長過程が非常に複雑です。また、乳幼児～小児期の発達には身体面だけでなく心理的な成長発達も大きく関与します。このような身体・心理面での成長とはどういったものか、またその過程を知ることで思春期から成人へと理解が深まる事でしょう。この機会に是非、小児分野に興味を持っていただき積極的に学習していただくことを期待します。
【使用教科書・教材・参考書】 <教科書> 富田 豊著:標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児学 第6版. 医学書院 <使用教材> 講義資料(毎講義前に提示)、PC、プロジェクター、マイク&スピーカー	

2024年度 授業概要

学 科 : 理学療法科

科目名 (英)	理学療法技術論 I-1	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	吉浦 勇次
	Technology Theory of Physiotherapy I-1	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30	実務経験	○
コース					1	開講区分	前期
						曜日・時限	水曜・5限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

理学療法技術論 I-1では運動器障害の理学療法について学習します。四肢、体幹の運動器障害に対する運動療法の理論と実際について学習し、これらの疾患構造を理解し、疾患に対する評価、運動療法について修得します。四肢、体幹に起こる運動器障害は機能的な原因と運動の障害が密接につながっています。それらに対して、臨床的に推論し、原因を明確にすることができるようになります。

実務経験:2001年～現在まで運動器障害に対する理学療法業務に従事。主な業務は病院や診療所の整形外科で、四肢、体幹への物理療法、運動療法を行い、外傷後や手術後などの疼痛改善や運動機能改善のリハビリテーションを行っている。

【到達目標】

運動器障害にたいする理学療法を行うための基本的な知識と方法論を修得する。運動器障害に対する評価と運動療法について説明できるようになる。それらをまとめてグループで発表する。また運動療法の効果を高める技術について実習を行う。

<具体的な目標>

目標①運動器障害の基礎知識及び対象疾患について説明できるようになる

目標②運動器障害の課題となる症例について発表し、問題点抽出、プログラム立案、ゴール設定、考察を説明できるようになる。

目標③筋肉に対する操作を行う実習を行い、運動療法の効果を高めることができるようになる。

授業計画・内容

1回目	(目標①)運動器系障害学総論について説明できる
2回目	(目標①)問診のポイントについて説明できる
3回目	(目標①)筋力増強の原則について説明できる
4回目	(目標①)骨折総論・X線について説明できる
5回目	(目標①)術前・術後プログラムの考え方について説明できる
6回目	(目標①)変形性股関節症について説明できる
7回目	(目標①)股関節疾患について説明できる①
8回目	(目標①)股関節疾患について説明できる②
9回目	(目標①)末梢神経障害について説明できる
10回目	(目標①)切断・脱臼について説明できる
11回目	(目標②)グループ発表(症例を通して、問題点抽出、仮説(統合と解釈)、プログラム立案、ゴール設定、考察を作成)
12回目	(目標③)実技①安心、不快感を感じさせないような接触の方法
13回目	(目標③)実技②筋肉の緊張状態を体系的に弛緩させ、関節可動域訓練、筋力増強訓練の効果増大を図る
14回目	(目標③)実技③筋肉の緊張状態を体系的に弛緩させ、関節可動域訓練、筋力増強訓練の効果増大を図る
15回目	(目標①②③)まとめ
準備学習 時間外学習	(目標①)前提として、この授業を受けるには、整形が科学の理解が不可欠です。さらに解剖生理学、運動学について予習が必要です。 (目標②)発表を行うには、理学療法評価の知識が不可欠です。さらに理学療法概論で学んだ障害学について予習が必要です。 (目標③)筋肉の触診を行いますので、機能解剖学の予習が必要です。
評価方法	定期テストにて知識・技能の到達評価を行う。 ●定期テスト(100%)
受講生への メッセージ	魅力:運動器障害は障害の原因を明確にすることで、治療計画を組み立てることができます。症例が障害を克服し、社会復帰していく支援を行うことができます。 授業計画:グループでの課題発表を行いますので、体調管理に気をつけて欠席しないようにしてください。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:細田多穂監修:シンプル理学療法シリーズ運動器障害理学療法テキスト、南江堂

2024年度 授業概要

学 科 : 理学療法科

科目名 (英)	理学療法技術論 I-2	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	吉浦 勇次
	Technology Theory of Physiotherapy I-2	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース						開講区分	後期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

理学療法技術論 I-2では運動器障害の理学療法について学習します。四肢、体幹の運動器障害に対する運動療法の理論と実際について学習し、これらの疾患構造を理解し、疾患に対する評価、運動療法について修得します。四肢、体幹に起こる運動器障害は機能的な原因と運動の障害が密接につながっています。それらに対して、臨床的に推論し、原因を明確にすることができますようになります。評価結果から統合と解釈、プログラム立案、ゴール設定、考察までをまとめることができますようになります。

実務経験:2001年～現在まで運動器障害に対する理学療法業務に従事。主な業務は病院や診療所の整形外科で、四肢、体幹への物理療法、運動療法を行い、外傷後や手術後などの疼痛改善や運動機能改善のリハビリテーションを行っている。

【到達目標】

運動器障害にたいする理学療法を行うための基本的な知識と方法論を修得する。運動器障害に対しての評価と運動療法について説明できるようになる。またそれらをまとめてグループで発表する。

<具体的な目標>

目標①運動器障害の対象疾患について説明できるようになる

目標②運動器障害の課題となる症例について発表し、問題点抽出、プログラム立案、ゴール設定、考察を説明できるようになる。

授業計画・内容

1回目	(目標①) 上肢疾患について説明できる
2回目	(目標①) 下肢疾患について説明できる
3回目	(目標①) 臨床推論について説明できる
4回目	(目標①) リウマチについて説明できる
5回目	(目標①) 膝関節疾患について説明できる
6回目	(目標①) 切断・脱臼について説明できる
7回目	(目標②) 課題発表①課題となる症例の問題点抽出、統合と解釈、プログラム立案、ゴール設定、考察をグループで作成し、発表する
8回目	(目標②) 課題発表②課題となる症例の問題点抽出、統合と解釈、プログラム立案、ゴール設定、考察をグループで作成し、発表する
9回目	(目標①) 腰部疾患について説明できる①
10回目	(目標①) 腰部疾患について説明できる②
11回目	(目標①) 肩関節疾患について説明できる①
12回目	(目標①) 肩関節疾患について説明できる②
13回目	(目標②) 課題発表①課題となる症例の問題点抽出、統合と解釈、プログラム立案、ゴール設定、考察をグループで作成し、発表する
14回目	(目標②) 課題発表②課題となる症例の問題点抽出、統合と解釈、プログラム立案、ゴール設定、考察をグループで作成し、発表する
15回目	(目標①②)まとめ
準備学習 時間外学習	(目標①) 前提として、この授業を受けるには、整形が科学の理解が不可欠です。さらに解剖生理学、運動学について予習が必要です。 (目標②) 発表を行うには、理学療法評価の知識が不可欠です。さらに理学療法概論で学んだ障害学について予習が必要です。
評価方法	定期テストにて知識・技能の到達評価を行う。 ●定期テスト(100%)
受講生への メッセージ	魅力: 運動器障害は障害の原因を明確にすることで、治療計画を組み立てることができます。症例が障害を克服し、社会復帰していく支援を行うことができます。 授業計画: グループでの課題発表を行いますので、体調管理に気をつけて欠席しないようにしてください。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書: 細田多穂監修: シンプル理学療法シリーズ運動器障害理学療法テキスト 南江堂

2024年度 授業概要

学 科 : 理学療法科

科目名 (英)	理学療法技術論Ⅱ-1	必修 選択	必須	年次	3	担当教員	田中 俊光
	Technology Theory of Physiotherapy Ⅱ-1	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	水曜日・2限目

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

脳血管疾患は、臨床では最も多い疾患であり、損傷部位、病期において症状が千差万別である。急性期、回復期、維持期における評価、理学療法の介入方法、リスク管理等の対応が必要です。脳血管障害の理学療法は、病態に応じて急性期、回復期、維持期への介入に際しては、評価、運動療法、ADLアプローチ等の理学療法について理解し、本授業修了後には各々の説明が出来るようになる。また画像読影から症状を説明が出来るようになる。

※実務者経験: 2001年4月～2007年1月まで病院に所属する。2008年4月～2020年3月において障がい者スポーツセンターにて非常勤として所属し、片麻痺の障がい者スポーツ指導やエクササイズ指導を行っていた。2013年～現在、介護施設にて非常勤で片麻痺の方のリハビリを行っている。主業務は脳血管障害などのリハビリテーションを行っている。

【到達目標】

中枢神経の構造と機能、損傷の原因や諸症状など多岐にわたる知識を学習し、理学療法との関係や意義を理解し、方法論を習得する。脳血管障害の各時期における評価、介入について実習を行う。

〈具体的な目標〉

- 目標①脳血管障害について説明できる。
- 目標②各時期における評価、介入について説明できる。
- 目標③片麻痺者にみられる合併症、高次脳機能障害、嚥下障害について説明できる。

授業計画・内容

1回目	目標① 中枢神経の全容を説明できる。
2回目	目標① 片麻痺の原因、脳血管障害について説明できる。
3回目	目標② 脳血管障害の急性期理学療法について説明できる。
4回目	目標② 片麻痺患者の評価について説明できる。
5回目	目標② 脳血管障害の回復期(重症)理学療法について説明できる。
6回目	目標② 脳血管障害の回復期(重症)理学療法について説明できる。
7回目	目標② 脳血管障害の回復期(軽症)理学療法について説明できる。
8回目	目標② 脳血管障害の回復期(軽症)理学療法について説明できる。
9回目	目標② 日常生活における身体機能の活用(生活機能の向上)について説明できる。
10回目	目標② 基本動作、トランスファーテクニック、装具、三角巾について説明できる。
11回目	目標③ 片麻痺者にみられる合併症について説明できる。
12回目	目標③ 高次脳機能障害・嚥下障害について説明できる。
13回目	目標③ 高次脳機能障害・嚥下障害について説明できる。
14回目	目標① 運動失調について説明できる。
15回目	目標② 小脳性運動失調の理学療法について説明できる。

準備学習
時間外学習 (目標①)本授業を受けるには脳血管疾患の理解が不可欠です。解剖生理学、運動学、神経内科学について予習が必要です。
(目標②)各時期における評価・介入では、理学療法評価学、運動療法学について予習が必要です。
(目標③)高次脳機能障害では、脳構造の解剖学の予習が必要です。
(目標③)嚥下障害では、口腔機能の解剖学の予習が必要です。

評価方法
定期試験にて知識・技術の到達評価を行う。
判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。

受講生への
メッセージ
魅力:脳血管障害の理学療法は標準的算定日数が180日間と一番長く、長い期間患者と関わっていく疾患である。また臨床現場において関わる機会の多い疾患でもある。理学療法士の介入次第で予後が大きく変わってくるため、知識・技術を習得することにより、患者に大きく貢献することができる。
授業計画:臨床実習や卒後に即実践できるように、実技を交えながら授業を行います。体調管理には気を付けて欠席をしないようにしてください。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:
細田多穂、植松光俊他(編):シンプル理学療法学シリーズ、神経筋障害理学療法学テキスト、南江堂
尾上尚志他(編):病気がみえる vol.7、脳・神経 第2版、MEDIC MEDIA
松澤正、江口勝彦:理学療法評価学、第5版、金原出版

2024年度 授業概要

学 科 : 理学療法科

科目名 (英)	理学療法技術論Ⅱ-2	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	田中 俊光
	Technology Theory of Physiotherapy Ⅱ-2	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース						開講区分	後期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 神経筋障害は原因不明や進行性の疾患も多く、病態が複雑です。特に進行性の場合、予後予測して障害レベルにあたりリハビリテーションの提供が必要となる。また外傷性の神経疾患では、びまん性に症状がみられる特徴があり、包括的な評価を行い治療訓練を行う能力が必要がある。

※実務経験: 2006年4月～2013年1月まで総合病院、クリニックに所属する。中枢神経障害や整形外科疾患等に対するリハビリテーションを行っていた。

【到達目標】

神経筋障害の構造と機能、損傷の原因や諸症状など多岐にわたる知識を学習し、理学療法との関係や意義を理解し、方法論を習得する。

<具体的な目標>

目標①神経筋障害について説明できる。

目標②評価、介入について説明できる。

授業計画・内容

1回目	(目標①)運動失調について説明できる。
2回目	(目標②)小脳性運動失調の理学療法について説明できる。
3回目	(目標②)小脳性運動失調の理学療法について説明できる(演習)。
4回目	(目標①)パーキンソン病について説明できる。
5回目	(目標②)パーキンソン病の理学療法について説明できる。
6回目	(目標②)パーキンソン病の理学療法について説明できる(演習)。
7回目	(目標①②)頭部外傷、低酸素性脳症について説明できる。
8回目	(目標①②)多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症について説明できる。
9回目	(目標①②)筋ジストロフィー、多発性筋炎、重症筋無力症、ギラン・バレー症候群について説明できる。
10回目	(目標①)脊髄損傷の原因、脊髄の解剖・機能について説明できる。
11回目	(目標①)自律神経と脊髄損傷の随伴・合併症について説明できる。
12回目	(目標②)脊髄損傷の評価について説明できる。
13回目	(目標②)脊髄損傷の理学療法について説明できる。
14回目	(目標②)脊髄損傷の理学療法について説明できる(演習)。
15回目	(目標①②)まとめ
準備学習 時間外学習	(目標①)本授業を受けるには神経内科学の理解が不可欠です。また解剖生理学、運動学についても予習が必要です。 (目標②)評価、介入では、理学療法評価学、運動療法学について予習が必要です。
評価方法	定期試験にて知識・技術の到達評価を行う。 判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。
受講生への メッセージ	魅力: 神経系疾患は原因不明なことが多く、患者様も不安を抱えていらっしゃる方が多くみられます。そのような方々の生活に即したリハビリテーションの提供は心身両面において生活の支えとなります。 授業計画: 臨床実習や卒後に即実践できるように、実技を交えながら授業を行います。体調管理には気を付けて欠席をしないようにしてください。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:

細田多穂、植松光俊他(編): シンプル理学療法学シリーズ、神経筋障害理学療法学テキスト、南江堂

尾上尚志他(編): 病気がみえる vol.7、脳・神経 第2版、MEDIC MEDIA

松澤正、江口勝彦: 理学療法評価学、第5版、金原出版

2024年度 授業概要

学 科 : 理学療法科

科目名 (英)	理学療法技術論Ⅲ-1	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	若菜 理
	Technology Theory of Physiotherapy Ⅲ-1	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30	実務経験	○
コース					1	開講区分	後期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

理学療法技術論Ⅲ-1では呼吸器系疾患及びがんの理学療法について学ぶ。呼吸器系疾患は内科系・外科系疾患に大別される。そのため、呼吸困難に対する改善と廃用予防のみならず、周術期での呼吸リハビリテーションやICU全身管理、在宅酸素療法及び在宅人工呼吸などの理解が必要である。呼吸理学療法は評価に基づいたコンディショニングを行い、呼吸器系の機能を整え、運動療法と併用することで、全身機能改善を行う。それらによって、日常生活活動能力改善へとつなげ、また包括的呼吸リハビリテーションを理解し、本授業終了時には各々の説明ができるようになる。さらに呼吸理学療法技術の実習及び気道クリアランスの実習を行い、呼吸困難の改善ができるようになる。

がんの理学療法では、様々ながんの特徴を理解し、発症から緩和ケアまでのリハビリテーションについて説明できるようにする。またリンパ節廓清後に合併する可能性のあるリンパ浮腫などに対して、ドレナージなどの実習を行い、浮腫の改善ができるようになる。

*実務経験者:2014年から総合病院にて心臓リハビリテーションに従事。主な業務として、集中治療室などでの急性期心臓リハビリテーションを行う。

【到達目標】

呼吸器系疾患及びがんのリハビリテーションを行うための基本的な知識と方法論を修得する。実習を通して呼吸困難を改善するための技術を学び、呼吸器系の解剖生理と呼吸機能をつなげることができ、急性期から在宅呼吸リハに対する理学療法的介入ができるようになる。

がんの特徴を学び、発症直後のショック状態から終末期の緩和ケアまで一貫してリハビリテーションを行うことができるようになる。またリンパドレナージなどの実習を通して、がんによって続発的に起こる合併症に対して理学療法的介入ができるようになる。

(具体的な目標)目標①呼吸器系疾患における呼吸理学療法的評価(スパイロメトリ、血液ガス、フィジカルアセスメント)について説明できる。

目標②内科系呼吸器疾患(慢性閉塞性肺疾患など)及び周術期における呼吸理学療法(コンディショニングを行うことができる)。

目標③がんに対する理学療法について説明でき、二次的合併症(リンパ浮腫など)の改善ができるようになる。

授業計画・内容

1回目	包括的呼吸リハビリテーションについて説明できるようになり、その中で呼吸理学療法の役割を説明できるようになる。
2回目	目標①呼吸器の構造と呼吸調節機能(必要な解剖学、呼吸生理学、呼吸運動学)について説明できる
3回目	目標①呼吸機能評価(スパイロメトリ、フィジカルアセスメント)と胸部単純X線写真及び胸部CTについて説明ができる
4回目	目標①呼吸機能検査(血液ガスと呼吸機能、肺音聴診)について説明ができる
5回目	目標①フィジカルアセスメントの実習を行う
6回目	目標②内科系呼吸器疾患(慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎など)について説明ができる
7回目	目標②周術期及びICUの呼吸管理について説明ができる
8回目	目標②コンディショニング(呼吸助法など)及び運動療法の実習を行う
9回目	目標②在宅呼吸リハビリテーションについて説明ができる
10回目	目標②気道クリアランス改善のための、体位排痰療法及びスクイーミングと応用手技の実習を行う
11回目	目標②気道クリアランス改善のための、気道内分泌物吸引操作の実習を行う
12回目	呼吸器系疾患の薬物療法及び栄養療法について説明ができる
13回目	目標③様々ながんの特徴及び発症後から緩和ケアに至るリハビリテーション介入について説明できる
14回目	目標③様々ながんの、経過及び治療過程によって起こる合併症及び障害について説明でき、また理学療法的介入の為の実習を行う
15回目	目標①②③1~14回目講義の内容を説明できる
準備学習 時間外学習	(目標①)フィジカルアセスメントでは肺の構造と触診に必要な解剖生理学の復習および血液ガスなどの予習が必要です (目標②)実習を行いますので、コンディショニングの種類及び注意点などの予習が必要です (目標③)様々ながんの特徴を復習しておく必要があります
評価方法	グループで調べた内容を発表し、発表内容を評価対象とする。定期テストにて知識・技能の到達評価を行う。 ●グループ発表(10%) ●定期テスト(90%) 割合で成績評価を行う。
受講生への メッセージ	魅力:呼吸理学療法介入によって、呼吸困難が改善し、症例のQOLが向上していくことは、現場では明確にわかります。呼吸器系疾患の方々のお声は、息苦しさです。呼吸助法、気道クリアランスの技術は予防理学療法を含め、健康寿命の延伸に寄与します。 日本人の死亡原因の1位は男女ともに「がん」です。がんに対して介入ができることは理学療法士が身に付けるべき重要な能力の一つです。 授業計画:実技を交えながら、解剖生理学で学んできた基礎と、実際の身体の反応を確認しながら進めていきます。体調を整えて、集中できるようにしておいてください。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書:	高橋仁美、宮川哲夫他著:動画でわかる呼吸リハビリテーション第4版。中山書店
参考書:	米丸亮:ナースのためのCDによる呼吸音聴診トレーニング。南江堂

2023年度 授業概要

学 科 : 理学療法科

科目名 (英)	理学療法技術論Ⅲ-2	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	若菜 理、塩塚 順
	Technology Theory of PhysiotherapyⅢ-2	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	不定期

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

理学療法技術論Ⅲ-2では循環器系及び糖尿病の理学療法について学びます。循環器系は解剖生理の理解から検査(心電図など)について学び、リハビリテーションの治療訓練をどのように行えばよいかを修得します。また循環器系の各疾患についてその特徴と実際のリハビリテーションの関連性を説明できることが必要です。糖尿病は食事の欧米化により今後も増加していく生活習慣病といわれています。糖尿病の理学療法評価、治療、訓練をどのように行っていくかを修得することは重要です。

* 実務経験: 若菜 理: 2014年4月から総合病院にて心臓リハビリテーションに従事。主な業務として、集中治療室などでの急性期心臓リハビリテーションを行う。
塩塚 順: 1982年4月から臨床現場にてリハビリテーション業務に従事。糖尿病に対する理学療法、生活指導など、糖尿病のリハビリテーションを包括的に行う。

【到達目標】

循環器系における心臓リハビリテーションを行うための基本的な知識と方法論を修得する。また糖尿病の生活指導を含めた理学療法士の関わり方を説明できるようになる。

〈具体的な目標〉

目標①循環器系の基礎(解剖生理、検査)を説明できる
目標②循環器系の各疾患の特徴及び理学療法を説明できる
目標③糖尿病の理学療法(評価、治療、訓練)を説明できる

授業計画・内容	
1回目	(目標①)循環器の解剖について説明できる
2回目	(目標①)循環器の生理について説明できる
3回目	(目標①)循環器の検査について説明できる
4回目	(目標①)心電図について説明できる①
5回目	(目標①)心電図について説明できる②
6回目	(目標②)動脈疾患・静脈疾患について説明できる
7回目	(目標②)心不全について説明できる
8回目	(目標②)虚血性心疾患について説明できる
9回目	(目標②)スポーツと循環器系について説明できる
10回目	(目標②)心臓リハビリテーションについて説明できる
11回目	(目標③)糖尿病のリハビリテーション概論について説明できる
12回目	(目標③)糖尿病のリハビリテーションの実際について説明できる
13回目	(目標③)糖尿病の理学療法について(評価)について説明できる
14回目	(目標③)糖尿病の理学療法について(治療・訓練)について説明できる
15回目	(目標①②③)まとめ
準備学習 時間外学習	(目標①)この授業では、循環器系の解剖生理について復習が必要です。 (目標②)各疾患について内科学の復習が必要です。 (目標③)この授業では糖尿病に対する基礎知識が必要であり、内科学の復習をお願いします。
評価方法	定期テストにて知識・技能の到達評価を行う。 定期テスト(100%)
受講生への メッセージ	魅力: 食事の欧米化により高脂血症や糖尿病は増加しています。そのため循環器や糖尿病のリハビリテーションは重要となっています。症例のQOLを改善し、今後の地域包括ケアシステムには、身に付けるべき能力となります。 授業計画: この授業ではこれまでの基礎知識と、実際の理学療法を結びつける授業となります。授業の前にはしっかりと復習を行いましょ。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書: 高橋哲也編著: ビジュアルレクチャー内部障害理学療法学. 医歯薬出版株式会社	

2024年度 授業概要

学 科 : 理学療法学科

科目名 (英)	理学療法技術論Ⅳ Technology Theory of Physiotherapy Ⅳ	必修 選択	必須	年次	3	担当教員	江島 智子
	コース	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
						開講区分	後期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

小児分野では、さまざまな疾患の子どもに理学療法を実施し、発達を促していきます。そのためには、正常な小児の発達や疾患の特徴について理解しておく必要があります。小児理学療法では、正常発達を理解することをはじめ、脳性麻痺・Down症・二分脊椎・筋ジストロフィーなどの疾患を理解し、理学療法アプローチについて考え、説明することができるようになります。

※実務者経験：2001年～2007年8月まで総合病院・老人保健施設で理学療法士として勤務し、入院・入所・外来リハビリテーション業務に携わる。
2008年～2016年8月まで専門学校にて小児分野の講義を行う。

【到達目標】

小児疾患に対する理学療法を行うための基本的な知識(反射や正常発達)と方法を修得する。また、疾患の特徴とともに理解し、疾患別のアプローチ方法を説明できる。

<具体的な目標>

- ①正常発達を反射を含めて説明できる
- ②脳性麻痺について類型別の特徴を説明できる
- ③小児疾患の特徴について理解し、アプローチ方法を説明できる

授業計画・内容

1回目	(目標①)正常児の発達について説明ができる
2回目	(目標①)出生～生後4ヶ月までの発達について説明ができる
3回目	(目標①)生後5ヶ月～1歳までの発達について説明ができる
4回目	(目標②)脳性麻痺の概要について説明できる
5回目	(目標②)脳性麻痺の概要について説明できる
6回目	(目標②)痙直型四肢麻痺の特徴を説明できる
7回目	(目標②)痙直型両麻痺の特徴を説明できる
8回目	(目標②)痙直型片麻痺の特徴を説明できる。
9回目	(目標②)アテトーゼ型についての特徴を説明できる
10回目	(目標②)脳性麻痺に対する理学療法アプローチを説明できる
11回目	(目標③)Duchenne型筋ジストロフィーの特徴を説明できる
12回目	(目標③)Duchenne型筋ジストロフィーへのアプローチ方法を説明できる
13回目	(目標③)二分脊椎の特徴とアプローチ方法を説明できる
14回目	(目標③)Downの特徴とアプローチ方法を説明できる
15回目	(目標③)Perthes病・Post-Polio Syndrome の特徴とアプローチ方法を説明できる
準備学習 時間外学習	(目標①)正常発達を学ぶ上で、反射が多く関与してきます。そのため、2年次で学んだ反射を復習しておく必要があります。 (目標②)脳性麻痺の概要に入る前に、正常発達と反射についての知識が必要です。講義の復習が必要です。 (目標③)脳性麻痺や小児疾患の概要を理解し、国家試験問題が解けるように復習をしていきましょう。
評価方法	終講試験(15回の授業が終了後)100点。
受講生への メッセージ	疾患の理解をする前に、正常発達と反射を理解しておく必要があります。丸暗記ではなくイメージしながら自分なりに説明できるようになってほしいと思います。そうすると、アプローチの方法を考えやすくなってきます。また、脳性麻痺についてはそれぞれの特徴をきちんと押さえておきましょう。覚えることがたくさんあると思いますので、意味合いを考えながら身につけて行ってほしいと思います。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書： 織田多穂(監)：小児理学療法学テキスト 改訂第3版. 南江堂

参考書： ①Berta&Kaarel Bobath(著)：脳性麻痺の類型別運動発達. 医歯薬出版

②上杉雅之：イラストでわかる 小児理学療法. 医歯薬出版 ③千住秀明(監)：こどもの理学療法 第2版. 神陵文庫

2024年度授業概要

学 科 : 理学療法学科

科目名 (英)	理学療法技術論Ⅴ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	福田 智
	Technology Theory of Physiotherapy Ⅴ	授業 形態	講義・実技	総時間 (単位)		実務経験	○
コース						開講区分	後期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】 ※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する

理学療法技術論Ⅴは、スポーツ外傷と障害を中心とした授業となる。
 スポーツ現場で対応できる外傷と障害について学ぶ教科となる。
 スポーツ外傷では応急処置を把握し、スポーツ障害では予防やケアができるようになる。

*実務者経験:医療の臨床現場で27年間、理学療法をする。
 プロスポーツ現場やスポーツドクターとのカンファレンスにて、スポーツ外傷や障害を学ぶ。

【到達目標】

目標①全身の筋肉、腱、骨、関節などの名称や部位を説明できる。
 目標②スポーツ外傷と障害について現場の説明ができる。

授業計画・内容	
1回目	(目標①②) スポーツ現場における外傷と障害について説明できる
2回目	(目標①②) 熱中症について説明できる
3回目	(目標①②) アスリートのスポーツ外傷と障害について説明できる
4回目	(目標①②) 足周囲のスポーツ外傷と障害について説明できる
5回目	(目標①②) 膝周囲のスポーツ外傷と障害について説明できる
6回目	(目標①②) 股周囲のスポーツ外傷と障害について説明できる
7回目	(目標②) 下肢のコンディショニングについて実技ができる
8回目	(目標①②) 肩周囲のスポーツ外傷と障害について説明できる
9回目	(目標①②) 肘・手周囲のスポーツ外傷と障害について説明できる
10回目	(目標②) 上肢のコンディショニングについて実技ができる
11回目	(目標①②) 頸部・体幹のスポーツ外傷と障害について説明できる
12回目	(目標①②) 障がい者のスポーツ外傷と障害について説明できる
13回目	(目標②) 頸部・体幹のコンディショニングについて実技ができる
14回目	(目標①②) スポーツ現場における外傷と障害のまとめについて説明できる
15回目	筆記試験
準備学習 時間外学習	主な骨・筋肉の解剖学と、動作・姿勢に繋がる運動学について予習が必要です。
評価方法	各疾患にて応急処置やケアに繋がるように、筋肉・腱の名称と働きを把握する。 骨・関節・靭帯などの名称・部位を把握する。
受講生へのメッセージ	運動指導をする上で基本となる機能的解剖学は、1つ1つ地道に覚える事が大切です。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:スポーツ理学療法学—動作に基づく外傷・障害の理解と評価・治療の進め方 改訂第2版
 参考書:教科書で分かりにくい部位を参考資料として、毎回配布

2024年度 授業概要

学科：理学療法科

科目名 (英)	理学療法技術論VI (Technology Theory of Physiotherapy VI)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員 実務経験	朝妻 恒法 ○
		授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	30 1	開講区分 曜日・時限	前期 火曜・2限(A)、水曜・2限(B)

【授業の学習内容】

本講義においては、高齢者の心身の変化やそれに伴う疾患・症状を理解し、さらに理学療法士として加齢に伴う症候をどのように捉え、対応すべきかを理解できる。また、演習を通して、基本的技術の習得と臨床的感性を持って、より明確な理学療法を意識することが出来る。

※実務者経験：朝妻恒法：平成2年より5年間、老人病院にて臨床経験あり。平成7年より3年間、急性期病院にて、特に脳卒中・整形疾患等高齢者の疾患に携わる。

【到達目標】

高齢者リハビリテーションのあるべき方向性について理解を深め、加齢に伴う心身の変化を理解する。また、高齢者への理学療法の留意点を理解し基本的対応を習得できる。

<具体的な目標>

- 目標①加齢における心身機能について理解し、説明できる。
- 目標②高齢者の機能評価、予防医学、介護予防、高齢者に対する理学療法を行う上での留意点を説明できる。
- 目標③高齢者が生じやすい疾患と理学療法について説明できる。

授業計画・内容

1回目	(目標①)ライフステージと高齢者像について説明できる。
2回目	(目標①)加齢に伴う身体機能の変化について説明できる。①
3回目	(目標①)加齢に伴う身体機能の変化について説明できる。②
4回目	(目標①)加齢に伴う精神機能の変化について説明できる。
5回目	(目標①)老年症候群①について説明できる。
6回目	(目標①)老年症候群②について説明できる。
7回目	(目標①)老年症候群③について説明できる。
8回目	(目標②)高齢者の生活機能評価について説明できる。①
9回目	(目標②)高齢者の生活機能評価について説明できる。②
10回目	(目標②)高齢者の生活機能評価実技ができる。
11回目	(目標②)高齢者の理学療法を実施する上での留意事項について説明できる。
12回目	(目標③)高齢者の骨・関節障害と理学療法について説明できる。①
13回目	(目標③)高齢者の骨・関節障害と理学療法について説明できる。②
14回目	(目標③)高齢者の中枢神経障害と理学療法について説明できる。①
15回目	(目標③)高齢者の中枢神経障害と理学療法について説明できる。②
準備学習 時間外学習	(目標①)一般的な高齢者と高齢障害者の身体機能の違いを、事前に調べておくこと良い。 (目標②)高齢者の評価や理学療法の留意点について、また、転倒や介護予防についてしっかり復習をする必要がある。 (目標③)高齢者が生じやすい疾患を、老年学の教科書などを参考にしておくこと良い。
評価方法	各単元の課題20%、定期試験80%の合算による判定を行う。授業の進行状況により、定期試験を終講試験とする場合がある。 判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。
受講生への メッセージ	魅力：将来見るであろう患者さんの多くは高齢者であり、その高齢者のことを理解し、治療などの対応がスムーズに出来るようになると、患者さんの満足度は上がり、また、我々理学療法士の達成感、自己肯定感も上がり、双方にとっても良い結果となる。その中でも、病院ではなく、自治体等で行われている転倒予防教室などへの参加も出来るようになり、仕事の幅が広がっていくでしょう。 講義計画：講義は講義演習形式となります。実際の評価場面を想定した演習なども行います。したがって、その時々によって必要となる備品があります。事前準備をお願いいたします。講義開始5分前には機材準備が整うことが出来るようお願いいたします。
【使用教科書・教材・参考書】	
<教科書> 細田多穂監修 シンプル理学療法シリーズ「高齢者理学療法学テキスト」南江堂 講義資料(毎講義前に提示)、プロジェクター	

2024年度 授業概要

学科：理学療法科

科目名 (英)	一般臨床医学Ⅱ (Physiotherppapy Maneuver Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員 実務経験	田中輝男、荒川優子、岡優作、朝妻(恒) ○
コース		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分 曜日・時限	前期 不定期
【授業の学習内容】							
<p>一般臨床医学Ⅱでは、臨床において必要なその他の知識に対する理解を深める。主に臨床薬学、栄養学、予防の基礎において、理学療法の現場に必要な知識を学ぶ。</p> <p>※実務者経験：田中輝男：薬剤師、歯科医師、NewYork医科大学などで臨床経験あり。荒川優子：管理栄養士。フィットネス施設にて運動・栄養指導。健康予防管理専門誌も取得。岡優作：救急救命士。福岡医健・スポーツ専門学校で、学生・教職員へのBLS指導。</p>							
【到達目標】							
<p>理学療法士に必要な、薬剤の知識、運動と栄養、救急処置及び、予防の基礎において学び説明できる。</p> <p><具体的な目標></p> <p>目標①救急救命処置の手順を理解し、実施できる。</p> <p>目標②運動と栄養について説明できる。</p> <p>目標③薬剤の効果・副作用について理解し説明できる。</p> <p>目標④予防の基礎について説明できる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	(目標①)救命救急処置の手順を理解し、説明できる。
2回目	(目標①)救命救急処置を正しく実施できる。
3回目	(目標②)栄養素の基礎知識と消化吸収について説明できる。
4回目	(目標②)エネルギー代謝、運動と栄養について説明できる。
5回目	(目標②)リハビリテーションと栄養について説明できる。
6回目	(目標③)理学療法士に薬の知識が必要な理由を説明できる。整形疾患(大腿骨頭部骨折、ヘルニア、腰椎損傷)に使用する薬剤について説明できる。
7回目	(目標③)脳卒中(脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血)に使用する薬剤について説明できる。
8回目	(目標③)認知症、パーキンソン病に使用する薬剤について説明できる。
9回目	(目標③)心不全、糖尿病に使用する薬剤について説明できる。
10回目	(目標③)精神疾患に使用する薬剤について説明できる。
11回目	(目標④)一次予防、二次予防、三次予防について説明できる。
12回目	(目標④)虚弱予防(フレイル予防)について説明できる。
13回目	(目標④)疾病予防について説明できる。
14回目	(目標④)再発予防、感染予防について説明できる。
15回目	(目標④)障害予防、重症化予防について説明できる。
準備学習 時間外学習	(目標①)救急医学の知識を復習しておく。 (目標②)2年次までに学習してきた解剖学・生理学の復習が重要です。 (目標③)資料をみて復習することが重要です。 (目標④)資料をみて復習することが重要です。
評価方法	定期試験結果による判定を行う。各分野を合算して60点以上を合格とする。 判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。
受講生への メッセージ	魅力：薬学・栄養・救急・予防などは、理学療法士が仕事をしていく上で、必要不可欠のものである。特に高齢者においては関わりの深い分野でしょう。超高齢社会となりつつある現代社会において、高齢者の健康増進に関わる理学療法士の役割は多く求められています。一般臨床医学で学ぶ多くの特微的ものを理解し、治療に活かせることで、患者様からの信頼を得る事ができるといえます。 講義計画：講義は講義形式となります。使用教材も多くあるので、講義開始前5分前には必ず使用教材を教務室に取りに来てください。講義は臨床で診ることの多い一般的内容となっていますが、講義範囲が広いため遅刻・欠席すると内容理解が難しくなります。遅刻・欠席には十分に注意してください。
【使用教科書・教材・参考書】	
<p><教科書></p> <p>特になし。各分野資料を配付。</p> <p><使用教材></p> <p>講義資料(毎講義前に提示)、PC、マイク、プロジェクター</p>	

2024年度 授業概要

学 科 : 理学療法科

科目名 (英)	義肢装具学実習	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	長倉 裕二
	Prosthesis & Orthosis Practice					実務経験	○
コース		授業 形態	実習	総時間 (単位)	30 1	開講区分	前期
						曜日・時限	不定期

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

本講義では、臨床において適切に義肢装具を処方・調整する能力を養うことを目的とする。義肢装具学で学習したことを基に、疾患別適応や異常歩行の原因を学習することで、より実践的な場面で必要な知識や考え方を習得する。さらに、グループ学習を通して、実際の異常歩行や疾患を想定しながら適切な義肢装具についてお互いに議論することで、適切な処方や調整に必要な思考過程を学習する。

※実務経験：昭和59年5月～理学療法士の資格取得。
昭和59年7月～平成20年3月まで総合リハビリテーションセンターに所属し、主に義肢・装具に関係するリハビリテーションを行う。

【到達目標】

目標①:義肢装具の種類、構造と機能について説明できる。
 目標②:各種義肢の適応について説明でき、その評価についても実践できる。
 目標③:切断の特徴・障害後について説明できる。
 目標④:切断部位に対する義肢の適応について説明できる。
 目標⑤:義肢装着による特徴的な歩行について説明できる。

授業計画・内容	
1回目	(目標①)義肢の歴史および種類、構造と機能について説明できる。
2回目	(目標①・③・④・⑤)切断術、部位について説明できる。
3回目	(目標②・③・④)下腿切断について説明できる。
4回目	(目標②・③・④・⑤)下腿切断歩行について説明できる。
5回目	(目標①)大腿切断について説明できる。
6回目	(目標②・③・④・⑤)大腿切断歩行について説明できる。
7回目	(目標⑤)異常歩行について説明できる。
8回目	(目標⑤)義足歩行練習について実践し説明できる。
9回目	(目標①、②)PTBソケット採型について説明できる。
10回目	(目標①、②)QLソケット採型について説明できる。
11回目	(目標②)切断者評価について説明できる。
12回目	(目標②)切断者評価について実践できる。
13回目	(目標④・⑤)グループ学習で学習した内容を症例報告として発表できる。
14回目	(目標①、②)下肢装具トピックについて説明できる。
15回目	(目標①～⑤)まとめ
準備学習 時間外学習	授業計画に沿ってすすめていきますので、事前学習を必要とします。 次回授業までに、前回の授業内容を復習しておいてください。
評価方法	定期試験の結果により判定を行う。 判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。
受講生への メッセージ	魅力:義肢装具実習では実際に採型などを行うことを通じて、理学療法士に必要とされる義肢装具のチェックポイントが学ぶことができます。採型を行う必要性は、業務として実際に理学療法士が採型を行うことはなく、この役割は義肢装具士の業務となりますが他職種との業務連携を必要とする理学療法士にとって他職種の業務を体験し、知ることができる機会は重要と言えます。是非この機会に義肢装具についての理解を深め、患者様の治療に活かすことができるように努めてほしいと思います。 講義計画:授業計画に沿ってすすめていきますので、遅刻・欠席などすると内容理解が難しくなりますので、遅刻・欠席が無いように体調管理に気を付けてください。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書:細田 多穂(監修),磯崎 弘司(編集),両角 昌実(編集),横山 茂樹(編集) シンプル理学療法学シリーズ 義肢装具学テキスト 南江堂 機 材:AV教育教材(液晶プロジェクター、ビデオデッキなど)、義肢装具各種	

2024年度 授業概要

学科：理学療法科

科目名 (英)	国家試験演習Ⅲ-1 (State Examination Seminar Ⅲ-1)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	江島 智子
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	月曜日2限目

【授業の学習内容】

1年次から継続して国家試験対策を行うことで、今まで学んだ内容と実際の国家試験過去問をリンクさせながら、基礎学力の知識の定着を図っていく。またグループ学習を通して、問題の解き方や考え方、理解度など、様々な視点で捉えることができるようにしていく。

※ 実務者経験：2001年～2007年8月まで総合病院・老人保健施設で理学療法士として勤務し、入院・入所・外来リハビリテーション業務に携わる。

【到達目標】

基礎の段階で弱点を見つけ出し、対策・改善していくことを目標に、1・2年次に学習した、基礎3科目・臨床医学・評価学における学力を向上させ、各分野の国家試験問題を理解・解説できるようになる。

<具体的な目標>

- 目標① 課題の内容について、自分で資料を作成することができる(調べ学習)
- 目標② 課題の内容について、他者に解説をすることができる(シェア学習)
- 目標③ 課題の内容について、グループで討論することができる(グループ学習)

授業計画・内容

1回目	(目標①②③)オリエンテーション/1・2年次の振り返り
2回目	(目標①②③) ROMについて説明できる①
3回目	(目標①②③) ROMについて説明できる②
4回目	(目標①②③) ROMについて説明できる③
5回目	(目標①②③) MMTについて説明できる①
6回目	(目標①②③) MMTについて説明できる②
7回目	(目標①②③) MMTについて説明できる③
8回目	(目標①②③) 感覚検査・脳神経検査について説明できる①
9回目	(目標①②③) 感覚検査・脳神経検査について説明できる②
10回目	(目標①②③) 脳卒中疾患の病態と評価について説明できる①
11回目	(目標①②③) 脳卒中疾患の病態と評価について説明できる②
12回目	(目標①②③) 脳卒中疾患の病態と評価について説明できる③
13回目	(目標①②③) 脳卒中疾患の病態と評価について説明できる④
14回目	(目標①②③) 脳卒中疾患の病態と評価について説明できる⑤
15回目	(目標①②③) 泌尿器系について説明できる
準備学習 時間外学習	(目標①)グループ学習を行う上で、事前に調べ学習を行うことが大切です。複数の文献を読み、大切なポイントを押さえながら、理解ができるように心がけましょう。 (目標②)グループ学習では、事前に学習した内容を、他者に解説することでシェア学習を行うことが大切です。自分が理解できていなければ、他者に解説することが難しくなりますので、質問されても答えられるように準備をしておきましょう。 (目標③)グループ学習を通して、他者の考え方や解き方を学び、多角的に問題を捉えられるようにすることが重要です。「なぜそうなのか、なぜそう考えたのか」という部分を大切に、グループで学び合っていきましょう。
評価方法	受講態度・課題の提出など：30% 終講試験(15回目の授業終了後に実施)：70% にて成績判定を行う。
受講生への メッセージ	魅力：一人で学習するよりもグループで学習した方が、色々な意見を聞くことができ、理解も深まっていきます。教え合うことも大切ですが、他者がどのようにして答えを導き出したのか「考え方」を学ぶ場でもあります。学習時には否定的な考え方はせず、肯定的に捉えられるように柔軟に考えていきましょう。また言葉で理解するよりもイメージで理解できるように、上手にグループ学習を活用していきましょう。 講義計画：講義は演習形式となります。講義終了前に、次の学習内容の課題を配布しますので、調べ学習をしてきてください。その際にわからない所があれば、シェア学習の時にみんなで解決したいと思います。また必要に応じて、学習定着度を確認するための確認テストや口頭試問を行います。自分がどこが理解できて、できてないのかを知るツールとして活用してください。
【使用教科書・教材・参考書】 <教科書> 課題の内容に応じて、必要な教本・教材を準備してください。	

2024年度 授業概要

学科：理学療法科

科目名 (英)	国家試験演習Ⅲ-2 (State Examination Seminar Ⅲ-2)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	江島 智子
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース						開講区分	後期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】

1年次から継続して国家試験対策を行うことで、今まで学んだ内容と実際の国家試験過去問をリンクさせながら、基礎学力の知識の定着を図っていく。またグループ学習を通して、問題の解き方や考え方、理解度など、様々な視点で捉えることができるようにしていく。

※ 実務者経験：2001年～2007年8月まで総合病院・老人保健施設で理学療法士として勤務し、入院・入所・外来リハビリテーション業務に携わる。

【到達目標】

基礎の段階で弱点を見つけ出し、対策・改善していくことを目標に、1・2年次に学習した、基礎3科目、臨床医学、評価学における学力を向上させ、各分野の国家試験問題を理解・解説できるようになる。

<具体的な目標>

- 目標① 課題の内容について、自分で調べ学習をすることができる
- 目標② 課題の内容について、他者に解説をすることができる(シェア学習)
- 目標③ 課題の内容について、グループで討論することができる(グループ学習)

授業計画・内容

1回目	(目標①②③) 消化器系について説明できる①
2回目	(目標①②③) 消化器系について説明できる②
3回目	(目標①②③) 消化器系について説明できる③
4回目	(目標①②③) 神経筋疾患の病態について説明できる①
5回目	(目標①②③) 神経筋疾患の病態について説明できる②
6回目	(目標①②③) 神経筋疾患の病態について説明できる③
7回目	(目標①②③) 整形外科的疾患の病態と評価について説明できる①
8回目	(目標①②③) 整形外科的疾患の病態と評価について説明できる②
9回目	(目標①②③) 整形外科的疾患の病態と評価について説明できる③
10回目	(目標①②③) 整形外科的疾患の病態と評価について説明できる④
11回目	(目標①②③) 整形外科的疾患の病態と評価について説明できる⑤
12回目	(目標①②③) 呼吸器疾患の病態と評価について説明できる①
13回目	(目標①②③) 呼吸器疾患の病態と評価について説明できる②
14回目	(目標①②③) 循環器疾患について説明できる①
15回目	(目標①②③) 循環器疾患について説明できる②
準備学習 時間外学習	(目標①)グループ学習を行う上で、事前に調べ学習を行うことが大切です。複数の文献を読み、大切なポイントを押さえながら、理解ができるように心がけましょう。 (目標②)グループ学習では、事前に学習した内容を、他者に解説することでシェア学習を行うことが大切です。自分が理解できていなければ、他者に解説することが難しくなりますので、質問されても答えられるように準備をしておきましょう。 (目標③)グループ学習を通して、他者の考え方や解き方を学び、多角的に問題を捉えられるようにすることが重要です。「なぜそうなのか、なぜそう考えたのか」という部分を大切に、グループで学び合っていきましょう。
評価方法	受講態度・課題の提出・口頭試問など:40% 終講試験(15回目の授業終了後に実施):60% にて成績判定を行う。
受講生への メッセージ	魅力:一人で学習するよりもグループで学習した方が、色々な意見を聞くことができ、理解も深まっています。教え合うことも大切ですが、他者がどのようにして答えを導き出したのか「考え方」を学ぶ場でもあります。学習時には否定的な考え方はせず、肯定的に捉えられるように柔軟に考えていきましょう。また言葉で理解するよりもイメージで理解できるように、上手にグループ学習を活用していきましょう。 講義計画:講義は演習形式となります。講義終了前に、次の学習内容の課題を配布しますので、調べ学習をしてきてください。その際にわからない所があれば、シェア学習の時にみんなで解決したいと思います。また必要に応じて、学習定着度を確認するための確認テストや口頭試問を行います。自分がどこが理解できて、できてないのかを知るツールとして活用してください。
【使用教科書・教材・参考書】	
<教科書>	課題の内容に応じて、必要な教本・教材を準備してください。

2024年度 授業概要

学科：理学療法科

科目名 (英)	社会保障制度論 (Social Security System Theory)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員 実務経験	木塚 大成 ○
コース		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分 曜日・時限	後期
<p>【授業の学習内容】 社会保障制度論では、1年次に学んだ社会福祉原論に基づいて社会福祉政策・制度と実践の体系と基礎を把握します。そこから、私たちにとって社会福祉がなぜ必要か、専門職である理学療法士として目指すべきものは何か、どのように取り組めばよいかを考えます。</p> <p>※実務者経験：社会福祉士として、社会福祉法人身体障害者授産施設で10年勤務した経験から、社会保障制度に関する業務に携わる。</p>							
<p>【到達目標】 1年次に学習した社会福祉原論より社会保障制度に関する知識・理解を発展させることで、生活支援の実践を通して社会資源をどのように活用すべきか想像することができる。</p> <p><具体的な目標> 目標①社会保障制度や、生活保護制度について成り立ちやその内容について説明できる。 目標②医療保険についてそのシステムや、他の保険制度との違いについて説明できる。 目標③介護保険や雇用保険・労災保険についてそのシステムや他の保険制度との違いについて説明できる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	(目標①)オリエンテーション、社会保障制度概要について説明できる。
2回目	(目標①)社会保障の定義や、社会扶助と社会保険とは何か説明できる。
3回目	(目標①)生活保護制度Ⅰ(原理と原則)について説明できる。
4回目	(目標①)生活保護制度Ⅱ(扶助の種類)について説明できる。
5回目	(目標①)年金保険制度Ⅰ(公的年金の種類)について説明できる。
6回目	(目標①)年金保険制度Ⅱ(給付の種類としくみ)について説明できる。
7回目	(目標②)医療保険制度Ⅰ(医療保険の種類)について説明できる。
8回目	(目標②)医療保険制度Ⅱ(給付の種類としくみ)について説明できる。
9回目	(目標③)介護保険制度Ⅰ(利用方法と認定審査)について説明できる。
10回目	(目標③)介護保険制度Ⅱ(給付の種類とケアマネジメント)について説明できる。
11回目	(目標③)介護保険制度Ⅲ(平成27年度改正点)について説明できる。
12回目	(目標③)雇用保険制度(給付の種類など)について説明できる。
13回目	(目標③)労災保険制度(給付の種類など)について説明できる。
14回目	(目標①②③)社会保障制度、生活保護制度、各種保険制度について説明できる。
15回目	(目標①②③) まとめ
準備学習 時間外学習	(目標①)社会保障に関する内容については、高校時社会で学んだ内容も含まれています。一般的な内容を復習した上で、医療的措置などの理解を深めていくことが重要です。 (目標②)医療保険に関する内容については、各種保険制度の違いなどをしっかりと理解する必要があります。年齢によって受給できる内容が違うなど、様々な内容がありますので、講義内容をしっかりと振り返る事は重要です。 (目標③)1年次に学習した社会福祉原論など、介護保険に関する学習科目は多くあります。それぞれの科目で学んだ内容を再度復習しておくことが重要です。
評価方法	定期試験結果による判定を行う。 判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。
受講生への メッセージ	魅力：理学療法士は患者様の自宅復帰など生活基盤の調整に関わる役割もあります。そのため、社会制度に関する知識を持つことは、その調整に対する幅を意味します。基本的にはケアマネージャー等が行う役割になりますが、理学療法士がその専門性を活かしてアドバイスできる事も大いにあるでしょう。それ故、社会保障・社会制度に対する知識を持つことで身体機能面だけでなく、社会的資源の支援が出来てこそ本当の意味での生活支援となると言えます。この機会にぜひ多くの学びをすることで、理学療法士として働く時に活かせるよう努力されることを望んでいます。 講義計画：講義は講義形式となります。使用教材もあるので、講義開始前5分前には必ず使用教材を教務室に取りに来てください。講義は社会福祉の概要や保険制度に関する内容となっています。講義を遅刻・欠席すると内容理解が難しくなりますので、遅刻・欠席には十分に注意してください。
<p>【使用教科書・教材・参考書】 <教科書> 島田美喜他：ナースング・グラフィカ 健康支援と社会保障③ 社会福祉と社会保障。メディカ出版</p> <p><使用教材> 教科書、講義資料プリント、PC、プロジェクター、ホワイトボード、ボードマーカー(黒・赤・青)</p>	

2024年度 授業概要

学科：理学療法科

科目名 (英)	地域福祉論 (Regional Welfare Theory)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	二田 正利 ¹⁾ 前田 雄一 ²⁾
		授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	木曜・1限

【授業の学習内容】

理学療法士の役割は、身体の治療的側面だけではなく環境面の改善も担う。そのため、講義前半では個人・家庭・地域社会における福祉の実状を知り、社会における種々な保険制度を学習する。また、それらの保険制度がどのような経緯から成り立っているのかなど歴史的背景を知る事で、社会がどのように福祉事業を展開しているのかを説明できることを目標とする。講義後半では、特に介護保険分野で働く理学療法士にとって関わりの深いケアマネージャーの役割について説明できることを目標とする。このため、本講義では介護保険制度の目的とその仕組みから学習し、ケアマネジメントの業務プロセスについて理解を深める。
 ※実務者経験：2006年4月から2013年1月まで総合病院、クリニックに所属する。理学療法士として勤務し、生活期リハビリテーション業務を行う。1)
 2016年3月より非常勤で訪問看護ステーションに所属し、訪問リハビリテーション業務を行う。2)

【到達目標】

地域福祉、障害者福祉について説明できる。介護保険制度の仕組みとケアマネージャーの役割について説明できる。

<具体的な目標>

目標①地域福祉、障害者福祉について理解し、その内容について述べる事が出来る。

目標②ケアマネージャーの役割と機能について説明できる。理学療法士として適切な保険給付サービスを提供するために必要な知識とは何か説明できる。

目標③講義内で決められたルールを順守し、学生として適切な態度で講義に臨む事が出来る。

*適切な、ふさわしい態度とは「止むを得ず講義に遅刻・欠席する場合は必ず事前連絡が出来る。グループでの活動には積極的に参加し、自身の役割を果たすことができる」などを指す。

授業計画・内容

1回目	【講義前半1～7回目】オリエンテーション。福祉について理解する。
2回目	(目標①③)地域福祉の問題(合理的配慮等)について理解する。
3回目	(目標①③)地域福祉の問題(老々介護等)について理解する。
4回目	(目標①③)地域福祉の問題(災害等)について理解する。
5回目	(目標①③)地域福祉の問題(その他の時事問題)について理解する。
6回目	(目標①③)社会福祉協議会について理解する。
7回目	(目標①③)障害者総合支援法について理解する。
8回目	【講義後半8～14回目】オリエンテーション。我が国の今後の人口推移について
9回目	(目標②③)ケアマネジメント論① 社会保障制度について説明できる。
10回目	(目標②③)ケアマネジメント論② 介護保険制度について説明できる。
11回目	(目標②③)ケアマネジメント論③ 要介護認定までの過程について説明できる。
12回目	(目標②③)ケアマネジメント論④ 保険給付サービスについて説明できる。
13回目	(目標②③)ケアマネジメント論⑤ ケアマネジメントの理念と過程について説明できる。
14回目	(目標②③)ケアマネジメント論⑥ ケアマネージャーとその役割について説明できる。
15回目	(目標①②③)定期試験対策
準備学習 時間外学 習	・さまざまな媒体を利用して、地域福祉障について理解してください。 ・介護保険制度とケアマネージャーの役割を理解することで、適切な保険給付サービスを検討するための一助となります。
評価方法	【講義前半】定期テスト(70%)と発表(30%)の割合で講義前半の成績評価を行う。 【講義後半】定期テスト(100%)の割合で講義後半の成績評価を行う。 *本講義の成績は、講義前半の成績(50%)と講義後半の成績(50%)の合計で判定するものとする。
受講生へ のメッセ ージ	魅力:本講義では、社会の情勢の変化などに合わせて、障害者や高齢者、若年者に対してのサポート事業をどのように考えているのか理解し、理学療法士としてどのように関わることができるのか考えてほしいと望みます。またケアマネージャーという職種は介護保険分野で働く理学療法士にとって特にかかわりが深く、適切な介護保険サービスを提供するための役割を認識できます。条件を満たせば取得可能な認定資格になるので、興味をもって学んでみることを薦めます。
【使用教科書・教材・参考書】	
<教科書>	
必要に応じてプリントを配布	

2024年度 授業概要

学科：理学療法科

科目名 (英)	地域理学療法学 (Regional Physiotherapy Study)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	二田 正利
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	実務経歴	○
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	火曜・3限

【授業の学習内容】
現代社会において、高齢者は独居生活が増えており、個人・家族・地域間の関係性は希薄になっていると言える。個人と家族、地域との繋がりを強固なものとし、一人ひとりが幸せな暮らしを継続するために必要なものは何かを考え、地域の中での理学療法士の役割を理解する。

※実務者経験：2006年～2013年まで総合病院、クリニックに所属する。理学療法士として勤務し、生活期リハビリテーション業務を行う。

【到達目標】
地域の中で専門職として、理学療法士が求められるものを理解し、他職種との関わりの中で、より専門性を生かすための知識を学ぶ。

<具体的な目標>
目標①地域における理学療法士の役割を説明できる。
目標②具体的な症例を通して、患者の置かれている状況を説明できる。
目標③地域理学療法に関連する関連機器やリスク管理等を説明できる。

授業計画・内容	
1回目	(目標①)オリエンテーション、地域理学療法の考え方について説明できる。
2回目	(目標①)地域理学療法の理念、目標について説明できる。
3回目	(目標①)地域理学療法と地域リハビリテーション等について説明できる。
4回目	(目標①)ニーズ把握について説明できる。
5回目	(目標①)地域理学療法の内容について説明できる。
6回目	(目標①)効果判定について説明できる。
7回目	(目標②)生活環境学の捉え方について説明できる。
8回目	(目標②)症例(骨、中枢)のもつ問題点の考え方について説明できる。
9回目	(目標②)症例(神経筋、運動発達)のもつ問題点の考え方について説明できる。
10回目	(目標③)コミュニケーション機器について説明できる。
11回目	(目標③)スポーツ・レクリエーション機器について説明できる。
12回目	(目標③)行動変容について説明できる。
13回目	(目標③)緊急時について説明できる。
14回目	(目標③)リスク管理について説明できる。
15回目	(目標①②③)1～14回目講義の内容を説明できる。
準備学習 時間外学習	(目標①)1年次に学習した理学療法概論で学習した理学療法士の役割や理学療法士として行われる一般業務などについて復習してください。 (目標②)患者、利用者の疾患をイメージできるように、関連する内容を復習してください。 (目標③)リスク管理は医療に携わる者として必須です。しっかり理解してください。
評価方法	定期試験(70%)およびレポート(30%)により判定を行う。
受講生への メッセージ	地域理学療法学は、個人・家族・地域といった関わりの中で理学療法士の役割を理解していく必要があります。高齢化社会において、健康増進に関わる理学療法士には多くの役割が求められています。リハビリテーション技術だけではなく、生活環境の支援をどのように行うかなど多角的視点を理解し実施しなければならないことを学んでほしいと思います。
【使用教科書・教材・参考書】 <教科書> 柳沢健他：理学療法学 ゴールド・マスター・テキスト7 地域理学療法学 メジカルビュー社	

2024年度 授業概要

学 科 : 理学療法科

科目名 (英)	地域理学療法実習 (Regional Physiotherapy Study Practice)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	二田 正利
	コース	授業 形態	実習	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
						開講区分	後期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 理学療法士が関わる地域の分野の中で、実際に直面する状況を的確に判断し、正確な対応ができることが求められる。生活基盤の基礎となる住環境整備をさまざまな疾患を通して理解する必要がある。本授業終了時には、具体的にどのように対応するべきか説明ができ、実技を通して実施することができるようになる。
 * 実務経験: 2006年4月から2013年1月まで総合病院、クリニックに所属する。通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションを行っていた。

地域における理学療法士の係わり方の基本的な知識と方法論を修得する。具体的な疾患を通して介入について実習を行う。
 <具体的な目標>
 (目標①) 地域における理学療法士の役割について説明することができる。
 (目標②) 疾患から住環境を説明することができる。
 (目標③) 自助具について説明することができる。
 (目標④) 国家試験問題を理解し説明することができる。

授業計画・内容	
1回目	(目標①) 地域の捉え方について考えることができる。
2回目	(目標①) 地域における理学療法士の関わりについて説明することができる。
3回目	(目標①) 高齢者の生活・外出特性について説明することができる。
4回目	(目標②) 住宅部位への配慮について説明することができる。
5回目	(目標②) アプローチ、玄関、廊下、階段について説明することができる。
6回目	(目標②) トイレ、浴室、移動用福祉用具について説明することができる。
7回目	(目標②、③) 疾患から住環境を説明することができる(脳血管障害)。
8回目	(目標②、③) 疾患から住環境を説明することができる(関節リウマチ)。
9回目	(目標②、③) 疾患から住環境を説明することができる(脳性麻痺)。
10回目	(目標②、③) 福祉施設において学外実習を行う。
11回目	(目標②、③) 福祉施設において学外実習を行う。
12回目	(目標②、③) 住環境を考慮した介助について実施することができる。
13回目	(目標②、③) 住環境を考慮した介助について実施することができる。
14回目	(目標④) 国家試験問題を理解し説明することができる。
15回目	(目標④) 国家試験問題を理解し説明することができる。
準備学習 時間外学習	(目標①) 地域における理学療法士の役割についての予習が必要です。 (目標②) 各疾患についての予習が必要です。 (目標③) 学外実習にて、多くの自助具に触れてください。
評価方法	レポートおよび発表において知識・技能の到達評価を行う。 ●レポート(70%) ●発表(30%) 上記の割合で成績評価を行う。
受講生への メッセージ	魅力: 患者が病院を退院し自宅等に戻った際、どのようなことを考えなければならないのかしっかりと考えてみてください。今後、実習で患者と接したときに、本授業の内容が非常に大切になってきます。 授業計画: 本授業では学外実習を予定しています。積極的に学習してください。

【使用教科書・教材・参考書】
 教科書: 野村 敬、橋本美芽著: OT・PTのための住環境整備論 第2版、三輪書店

2024年度 授業概要

学科：理学療法科

科目名 (英)	徒手理学療法学 (Empty Hand Physiotherapy)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	藤崎 浩 ¹⁾
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	木曜・3, 4限
<p>【授業の学習内容】 臨床現場、臨床長期実習Ⅰ、Ⅱでは治療に関わるため、実施できる治療技術の習得は重要です。そのために、整理された解剖学知識・触察技術に基づいて、治療技術を習得していくための演習として位置付けています。機能解剖学で習得した触察技術に基づいて、必要な骨指標、筋を正しく触れることができた上で、MTAを実施するための具体的方法論、実践法について学びます。また、各疾患特性に合わせた治療技術の展開については、講師によるデモを通して模倣する事から学びます。</p> <p>実務経験…昭和63年より総合病院にて勤務。多くの患者様の治療(MTAなど徒手療法)に関わった。¹⁾</p>							
<p>【到達目標】 機能解剖学Ⅰ、Ⅱで学んだ基本的知識に基づき、マイオチューニングアプローチ(以下、MTAとする)技術を用いることができる。MTA基礎理論であるゲートコントロールセオリーについて説明できる。MTA技術を各疾患特性に合わせて実施し、効果的な治療がどのようなものなのか説明できる。</p> <p><具体的な目標> 目標①治療を行う上で、適切な筋の触察を実施する。 目標②各筋に対するMTAの手順を説明し、実施できる。 目標③疾患に合わせてMTAを実施できる。 目標④決められたルールを遵守し、社会人(実習生)としてふさわしい態度を担当教員に示すことができる。 * ふさわしい態度とは、止むを得ず講義に遅刻・欠席する場合は必ず事前連絡が出来る。デモ・演習に、積極的姿勢で臨むことができる。などを指す。</p>							
授業計画・内容							
1回目	オリエンテーション、触察方法を説明できる。MTAの実施の流れを説明できる。						
2回目	(目標②④)MTAの理論と治療の流れを説明できる。						
3回目	(目標①④)肩関節疾患の治療を行う上で、適切な筋を触察することができる。						
4回目	(目標②④)肩関節疾患の治療を行う筋を選択し、MTAの手順を説明できる。						
5回目	(目標③④)肩関節疾患に対してMTAを実施できる。						
6回目	(目標①④)頸部・腰部の治療を行う上で、適切な筋を触察することができる。						
7回目	(目標②④)頸部・腰部の治療を行う筋を選択し、MTAの手順を説明できる。						
8回目	(目標①②④)頸部・腰部の治療を行う上で、適切な筋を触察しMTAの手順を説明出来る。						
9回目	(目標③④)頸部・腰部に対してMTAを実施できる。						
10回目	(目標①④)膝関節疾患の治療を行う上で、適切な筋を触察する事ができる。						
11回目	(目標②④)膝関節疾患の治療を行う筋を選択しMTAの手順を説明できる。						
12回目	(目標③④)膝関節疾患に対してMTAを実施できる。						
13回目	(目標①④)片麻痺の治療を行う上で適切な筋を触察することができる。						
14回目	(目標②④)片麻痺の治療を行う筋を選択し、MTAの手順を説明できる。						
15回目	(目標③④)片麻痺の治療としてMTAを実施できる。						
準備学習 時間外学習	<p>(目標①)1-2年次の機能解剖学ⅠⅡの理解が不可欠です。各講義前に講義対象となる骨指標、筋の触察が可能となるよう復習が必要です。 (目標②)1-2年次の機能解剖学ⅠⅡの理解が不可欠です。MTAの基本的な手順について復習が必要です。 (目標③)2年次の解剖学、整形外科学などの理解が不可欠です。様々な疾患の特徴の復習が必要です。 (目標④)1年次のコミュニケーション論で学習した社会規範や適切な対人関係の構築に必要なものは何か復習が必要です。</p>						
評価方法	<p>定期試験結果による判定を行う。 判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。</p>						
受講生への メッセージ	<p>魅力:MTAの治療は本校独自の教育プログラムです。他では学ぶことのできない多くの体験が出来ます。1年から学んできた機能解剖学ⅠⅡの基本的知識・技術を、実際の患者様にどのように実施するのかを講師の経験なども踏まえて学ぶことができる機会です。積極的に学んで、臨床評価実習や4年次の臨床長期実習ⅠⅡに活かせるよう取り組むことを望みます。</p> <p>受講態度:3年後期になると臨床実習が控えています。今後医療従事者として働く意識を持ち、遅刻・欠席が無いよう心掛けてください。本講義は講義・演習形態です。いつでも演習が出来るように毎講義実習着着用で参加してください。また、用意する機材も多いので、講義直前に慌てて準備する事にならないよう、事前準備をしっかりと臨んでください。</p>						
<p>【使用教科書・教材・参考書】 <使用教科書> 河上敬介 磯貝 香:改訂A30:H33第2版骨格筋の形と触察法 大峰閣</p> <p><使用教材> 体表上に描出するためのマーカー・実習着・タオル・枕・プロジェクター・デモ確認動画</p>							

2024年度 授業概要

学 科 : 理学療法科

科目名 (英)	日常生活活動学実習	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	田中利昭
	Activity of Daily Living Practice	授業 形態	実習	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	火曜・3限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 日常生活活動学実習では、各疾患に即した評価、指導方法について学習します。障がいがあったとしても、その障がいに合わせて工夫や福祉用具を使用することで、日常生活を改善することができます。そのために各疾患に対する知識の習得はもちろんのこと、特徴的な病態に合わせて生活指導について学習します。

* 実務経験者:

【到達目標】
 疾患別の日常生活活動に対する評価及び指導について基本的な知識と方法論を修得する。日常生活活動の基盤となる基本動作の特徴と指導方法について、各疾患別に実習を行う。

〈具体的な目標〉
 目標①疾患別のADLについて説明できる
 目標②疾患別のADL指導について実習を行い、説明できる
 目標③疾患別のADLの基盤となる基本動作について実習を行い、説明できる

授業計画・内容	
1回目	(目標①)片麻痺のADLについて説明できる
2回目	(目標②)片麻痺のADL指導について実習を行う
3回目	(目標③)片麻痺の日常生活における基本動作について実習を行う
4回目	(目標①)パーキンソン病のADLについて説明できる
5回目	(目標②③)パーキンソン病のADL指導、基本動作について実習を行う
6回目	(目標①)頭部外傷のADLについて説明できる
7回目	(目標②)脊髄損傷のADL指導について実習を行う
8回目	(目標②③)脊髄損傷の基本動作について実習を行う
9回目	(目標①)脳幹障害、その他の神経疾患に関するADLについて説明できる
10回目	(目標②③)脳幹障害、その他の神経疾患に関するADL指導、基本動作について実習を行う
11回目	(目標①)呼吸・循環障害のADLについて説明できる
12回目	(目標①)関節リウマチのADLについて説明できる
13回目	(目標①)慢性腰痛症のADLについて説明できる
14回目	(目標①)高齢者及び認知症のADLについて説明できる
15回目	(目標①②③)まとめ
準備学習 時間外学習	(目標①)前提:各疾患に関する基礎知識が不可欠です。臨床医学(内科学、神経内科学など)の復習が必要です。 (目標②)ADL指導のポイントについて、確認テストを行いますので、実習で行った内容の復習が必要です。 (目標③)基本動作について、確認テストを行いますので、実習で行った内容の復習が必要です。
評価方法	定期テストにて知識・技能の到達評価を行う。 ●定期テスト(100%) で成績評価を行う。
受講生への メッセージ	魅力:病氣や障がいをもつ方々にとって日常生活活動の改善は、一人ひとりのQOLに大きな影響があります。そのために各疾患に合わせてADL指導ができるようになります。 授業計画:授業が單元ごとに疾患が変わってきますので、体調管理に気を付けて必ず出席するようにお願いします。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書:千住秀明監修:日常生活活動学(ADL)。神陵文庫 参考書:飛松好子編著、岩崎洋他著:新イラストによる安全な動作介助のてびき。医歯薬出版株式会社	

2024年度 授業概要

学 科 : 理学療法科

科目名 (英)	病態運動学 I	必修 選択	必須	年次	3	担当教員	田中 俊光
	Clinical Kinesiology I	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	金曜・1限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

理学療法士は、患者の基本動作を診て、正常動作と逸脱している点を分析する動作分析が必要です。
姿勢、寝返り、起き上がり、立ち上がり、立位の起居動作のメカニズムについて理解し、各動作の説明ができるようになる。
実際に学生や症例ビデオで起居動作を診て、動作分析を行い、説明ができるようになる。
分析の結果から治療への展開について理解し、本授業修了後には各々の説明ができるようになる。

※実務者経験:2001年4月～2007年1月まで病院に所属する。今現在、介護施設にて非常勤として所属している。
主業務は脳血管障害、整形外科疾患などのリハビリテーションを行っていた。

【到達目標】

姿勢、寝返り、起き上がり、立ち上がり、立位の起居動作のバイオメカニクスとハンドリングを修得する。実際に生体の動きを見て、動作観察、動作分析を実習で行う。異常動作に対する介入について理学療法の実習を行う。

〈具体的な目標〉

- 目標①姿勢、起居動作のバイオメカニクスについて説明ができる。
- 目標②姿勢分析、動作分析ができ、逸脱点を説明できる。
- 目標③起居動作のハンドリングや異常動作に対する介入について説明ができる。

授業計画・内容	
1回目	目標① 正常姿勢、異常姿勢について説明できる
2回目	目標② 姿勢分析を行い、逸脱点を説明できる
3回目	目標① 寝返りのバイオメカニクスを理解して説明できる
4回目	目標② 寝返りの動作分析を行い、逸脱点を説明できる
5回目	目標③ 寝返りのハンドリングや異常動作に対する介入について説明できる
6回目	目標① 起き上がりのバイオメカニクスを理解して説明できる
7回目	目標② 起き上がりの動作分析を行い、逸脱点を説明できる
8回目	目標③ 起き上がりのハンドリングや異常動作に対する介入について説明できる
9回目	目標① 椅子からの立ち上がりのバイオメカニクスを理解して説明できる
10回目	目標②③ 椅子からの立ち上がりの動作分析を行い、逸脱点を説明できる。椅子からの立ち上がりのハンドリングや異常動作に対する介入について説明できる。
11回目	目標① 着座のバイオメカニクスを理解して説明できる
12回目	目標②③ 着座の動作分析を行い、逸脱点を説明できる。着座のハンドリングや異常動作に対する介入について説明できる。
13回目	目標① 床からの立ち上がりのバイオメカニクスを理解して説明できる
14回目	目標②③ 床からの立ち上がりの動作分析を行い、逸脱点を説明できる。床からの立ち上がりのハンドリングや異常動作に対する介入について説明できる。
15回目	目標①②③ まとめ
準備学習 時間外学習	(目標①)前提:この授業を受けるには、関節、筋の理解が不可欠です。解剖生理学、運動学について予習が必要です。 (目標②)姿勢、起居動作について、事前に姿勢や動作を見たり体験しておく必要があります。 (目標③)講義後、各動作の確認や復習をしておく必要があります。 (目標④)講義後、各動作のハンドリングや介入の復習をしておく必要があります。
評価方法	定期試験にて知識・技能の到達評価を行う。さらに各関節の病態運動学に基づくレポート作成を行う。 ●定期試験(90%) ●レポート(10%) 割合で成績評価を行う。 判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。
受講生への メッセージ	魅力:普段無意識に行っている起居動作ですが、各動作のバイオメカニクスを学習することにより、さらに起居動作の大切さを知ることが出来ます。正常だと思っていたことが、異常動作と認識することも今回の講義で知ることが出来ます。動作分析を行うことにより、動作を診るだけで異常部位を抽出することが出来、評価を円滑にすることが出来ます。起居動作のハンドリングを習得することにより、コメディカルスタッフに指導できる技能を身につけることが出来ます。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書:石井慎一郎:動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践.メジカルビュー社	

2024年度 授業概要

学 科 : 理学療法学科

科目名 (英)	病態運動学Ⅱ	必修 選択	必須	年次	3	担当教員	田中 俊光
	Clinical KinesiologyⅡ	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30	実務経験	○
コース					1	開講区分	後期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

理学療法士は、患者の歩行動作を診て、正常歩行動作と逸脱している点を分析する歩行分析が必要です。歩行動作のメカニズムについて理解し、歩行動作の説明ができるようになる。実際に学生や症例ビデオで歩行動作を診て、歩行分析を行い、説明ができるようになる。分析の結果から治療への展開について理解し、本授業修了後には各々の説明ができるようになる。各疾患の特徴的な動作を理解し、本授業修了後には各々の説明ができるようになる。
 ※実務者経験:2001年4月～2007年1月まで病院に所属する。2013年～現在、介護施設にて非常勤で勤務している。主業務は脳血管障害、整形外科疾患などのリハビリテーションを行っていた。

【到達目標】

歩行動作のバイオメカニクスと評価を修得する。実際に生体の動きを見て、歩行観察、歩行分析の実習を行う。異常歩行に対する介入について理学療法の実習を行う。

各疾患の特徴的な動作を理解し、介入について理学療法の実習を行う。

(具体的な目標)

目標①歩行動作のバイオメカニクスについて説明ができる。

目標②歩行分析ができ、逸脱点を説明できる。

目標③異常歩行動作に対する介入について説明ができる。

目標④各疾患の異常動作を理解し、説明できる。

授業計画・内容

1回目	目標① 歩行動作のバイオメカニクスについて説明できる。
2回目	目標① 歩行動作のバイオメカニクスについて説明できる。
3回目	目標① 歩行動作のバイオメカニクスについて説明できる。
4回目	目標② 異常歩行動作について説明できる。
5回目	目標② 異常歩行動作について説明できる。
6回目	目標③ 異常歩行動作に対する介入について説明できる。
7回目	目標④ 変形性股関節症の異常動作を理解し、説明できる。
8回目	目標④ 変形性膝関節症の異常動作を理解し、説明できる。
9回目	目標④ 腰痛症の異常動作を理解し、説明できる。
10回目	目標④ 肩関節周囲炎の異常動作を理解し、説明できる。
11回目	目標④ 片麻痺(感覚障害)の異常動作を理解し、説明できる。
12回目	目標④ 片麻痺(運動障害)の異常動作を理解し、説明できる。
13回目	目標④ パーキンソン病の異常動作を理解し、説明できる。
14回目	目標④ 投球動作の異常動作を理解し、説明できる。
15回目	目標①②③ まとめ

準備学習
時間外学習
(目標①)前提:この授業を受けるには、関節、筋の理解が不可欠です。解剖生理学、運動学について予習が必要です。
 (目標②)歩行動作について、事前に歩行動作を見たり体験しておく必要があります。
 (目標③)講義後、各動作の確認や復習をしておく必要があります。
 (目標④)講義後、各動作の介入の復習をしておく必要があります。
 (目標④)前提:各疾患の知識が必要です。整形外科学・神経内科学の予習が必要です。

評価方法
定期試験にて知識・技能の到達評価を行う。
各関節の病態運動学に基づくレポート作成を行う。
●定期試験(100%) 試験は終講試験を実施する。
割合で成績評価を行う。
判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。

受講生への
メッセージ
魅力:普段無意識に行っている歩行動作ですが、歩行動作のバイオメカニクスを学習することにより、さらに歩行動作の大切さを知ることが出来ます。正常だと思っていたことが、異常動作と認識することも今回の講義で知ることが出来ます。動作分析を行うことにより、動作を診るだけで異常部位を抽出することが出来、評価を円滑にすることが出来ます。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:石井慎一郎:動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践,メジカルビュー社
 黒川幸雄、大西秀明ら:理学療法士のための6ステップ式 臨床動作分析マニュアル 第2版,文光堂

2024年度 授業概要

学 科：理学療法科

科目名 (英)	理学療法セミナー I (ST)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	河本 理恵、原田 恭子
	Physiotherapy Seminar I	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	実務経験	○
コース					1	開講区分	後期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

理学療法セミナー I では主に言語聴覚療法について学びます。リハビリテーションを行う上で患者様とのコミュニケーションは重要です。失語症や構音障害についての理解が必要であり、実際にどのような関わりをすればいいか実習を行います。また小児の言語障害の臨床を学び、幅広い言語障害に対応する方法を説明できるようになります。そして摂食嚥下障害の基礎を学び、実際の訓練に関しては実習を行います。

実務経験者

河本 理恵:2000年4月から現在まで総合病院などで言語聴覚療法に従事。主な業務として、嚥下障害、コミュニケーション障害などに対して治療訓練を行う。

原田 恭子:1987年4月より現在まで小児総合病院などで言語聴覚療法に従事。小児の臨床について、発達に即した治療訓練を行う。

【到達目標】

リハビリテーション分野における言語聴覚療法について説明できるようになる。また実際の言語障害への対応について、実習を行う。また摂食嚥下障害についての基礎知識と訓練の方法論を修得する。小児の言語療法についても言語発達や器質性構音障害などの基礎知識を踏まえて、介入方法が説明できるようになる。

(具体的な目標)

目標①言語療法の基礎知識及び訓練方法について説明できるようになる

目標②失語症の種類や介入方法について説明できるようになる

目標③摂食嚥下障害の基礎知識及び訓練方法について説明できるようになる

目標④小児の言語障害について説明できるようになる

授業計画・内容

1回目	目標①言語療法の概要について説明できる
2回目	目標①AAC 文字盤でのコミュニケーション方法、作成ができるようになる(DVD教材を使用)
3回目	目標①文字盤を使用しての読みあげ方法、構音障害について説明できる
4回目	目標①音声障害、失語症について説明できる(DVD教材を使用)
5回目	目標②失語症、言語症状の理解(音声)、失語症の分類について説明できる
6回目	目標②失語症者との接し方について説明できる(DVD教材を使用)
7回目	目標②失語症者との接し方について実習を行う(DVD教材を使用)
8回目	目標③嚥下障害の基礎知識について説明できる
9回目	目標③嚥下障害の基礎、病態、評価方法、訓練実習について説明できる
10回目	目標③食事介助の工夫点 評価の視点について実習を行う
11回目	目標④小児の言語聴覚障害(1)小児の臨床について、小児の言語聴覚障害の種類について、言語発達の遅れ、高次脳機能障害について説明できる
12回目	目標④小児の言語聴覚障害(2)構音障害、器質性構音障害、口唇・口蓋裂に関すること、機能性構音障害、脳性麻痺の構音異常について説明できる
13回目	目標④小児の言語聴覚障害(3)聴覚器官について、聴覚障害について、乳幼児の聴力検査について、聴覚補助機器、聴覚障がい児の言語指導について説明できる
14回目	目標④小児の言語聴覚障害(4)吃音とは、吃音の症状、吃音臨床の流れ、小児の摂食・嚥下障害について説明できる
15回目	目標①②③④

準備学習
時間外学習
(目標①②)実際の症例のDVDなどをみて学習してもらいますので、言語障害を引き起こす疾患について復習が必要です。
(目標③)実習を行いますので、嚥下の基礎と病態について復習が必要です。
(目標④)発達の基礎や高次脳機能障害などの基礎知識の復習が必要です。

評価方法
定期テストにて知識・技能の到達評価を行う。
●定期テスト(100%)

受講生への
メッセージ
魅力:言語障害は症例ご本人のみならず、家族、医療スタッフなど、実際にコミュニケーションを行うすべての人にとって重要となります。そのため治療訓練によってコミュニケーション能力が改善することは、症例本人および症例に関わるすべての人のQOL向上に寄与します。
授業計画:言語障害及び摂食嚥下に対する介入は実技を行います。体調を整えて、集中できるようにしておいてください。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:毛東真知子著:絵でわかる言語障害 言葉のメカニズムから対応まで、学研
ことばをはぐくむ、コミュニケーションを支援する会

2024年度 授業概要

学科：理学療法科

科目名 (英)	理学療法管理学 (Physical therapy management science)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	朝妻 恒法
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	実務経験	○
コース						開講区分	後期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】

理学療法士の仕事の中で、知識・技術力が問われるのは必須であるが、組織の中で働く一因として、病院組織について、特に制度や管理について学ぶ必要が出てきた。したがって、病院の分類や組織、チーム医療、社会保障のしくみ、医療・介護保険制度、業務・情報・リスク管理、医療倫理、養成校教育、卒後教育などについて理解し、職場の中で通用する職業人となることを目的とする。

※実務者経験：平成2年より5年間、老人病院にて臨床経験あり。平成7年より3年間、急性期病院にて、特に脳卒中・整形疾患等高齢者の疾患に携わる。
また、病院にてリハ室の開設、学校の開設準備室で2校の開設に携わる。

【到達目標】

養成校でのカリキュラム、卒後教育を理解し、現場における学習の必要性を理解できる。臨床実習においては、実習先での各部署との連携がとれるようになる。理学療法における各部署でのリスク管理等を理解し、安全な理学療法業務を行うことができる。

<具体的な目標>

- 目標①病院等組織、いろんな制度や診療報酬等を理解し説明できる。
- 目標②保険・医療・介護・福祉の連携、組織内での管理業務について理解し説明できる。
- 目標③医療の組織において倫理規定等を理解し、また教育管理について説明できる。

授業計画・内容

1回目	(目標①)理学療法管理学の概要について説明できる。
2回目	(目標①)病院の分類と組織について説明できる。
3回目	(目標①)専門職とチームケアについて説明できる。
4回目	(目標①)社会保障について説明できる。
5回目	(目標①)医療保険制度について説明できる。
6回目	(目標①)介護保険制度について説明できる。
7回目	(目標①)診療・介護報酬と収益構造について説明できる。
8回目	(目標②)保険・医療・介護・福祉の連携について説明できる。
9回目	(目標②)業務管理について説明できる。
10回目	(目標②)情報管理について説明できる。
11回目	(目標②)リスク管理について説明できる。
12回目	(目標②)感染症管理について説明できる。
13回目	(目標③)権利擁護と職業倫理について説明できる。
14回目	(目標③)教育管理について説明できる。
15回目	(目標③)理学療法士の政治・政策への関与について説明できる。
準備学習 時間外学習	(目標①)理学療法概論にて学んだことを確認しておくことよい。 (目標②)初めて聞く言葉などがあるので、予習しておくことよい。 (目標③)臨床実習や現場での仕事について学ぶので、予習復習が大事である。
評価方法	定期試験結果により判定を行う。 判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。
受講生への メッセージ	魅力：本講義は、内容的に難しいように思えるが、一つ一つの項目を理解していくと、理学療法士として現場で働きだしたときに役に立ち、回りから一目置かれるようになる。この内容を理解することで、自分の器を大きくする事が出来る。仕事をする上では、必須の項目が多いので、頑張って頂きたい。 講義計画：講義形式。講義開始5分前には資料準備が整うことが出来るようお願いいたします。
【使用教科書・教材・参考書】	
<教科書> 石川 郎 他 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 理学療法管理学 中山書店	
<使用教材> 講義資料(毎講義前に提示)、PC、プロジェクター	

2024年度 授業概要

学科：理学療法科

科目名 (英)	理学療法特論 (Special Physiotherapy)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	矢野 隆子 ¹⁾ 前田雄一 ²⁾
		授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 1	実務経験	○
コース						開講区分	後期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】

本講義においては、社会人として必要な基本的マナー・笑顔・挨拶・言葉づかい・身だしなみ・態度の接遇5原則を修得する。実習・見学・面接時のマナーをロールプレイング形式や演習を取り入れ学習を進めていく。また、理学療法における管理・運営を学び、リスク管理の重要性や、専門的な特殊治療・管理の概念について学ぶ。

※実務者経験：平成5年より、教育・行政機関、企業などの研修の社員教育講師に携る。¹⁾
2001年～2018年まで総合病院～整形外科クリニック(有床診療所・無床診療所)で外来・入院リハビリテーション業務に携わる。²⁾

【到達目標】

社会人として、他者と適切なコミュニケーションを図ることができるために、自己理解ができる。演習を通じて基本的な社会的スキルを習得し、適切な対人行動を実践できる。また、社内外での適切な言葉づかいやサービスマインドを持って対象者と接することが実践できる。以上を実践し社会化を図ることを到達目標とする。これら基本的社会性を獲得し理学療法における各部署でのリスク管理を理解し、安全な理学療法業務を行うことができる。

<具体的な目標>

- 目標①挨拶、笑顔、言葉づかいができるようになる。
- 目標②実習時のマナー、接客や訪問時のマナーを理解し、実践につなげることができる。
- 目標③情報を元にしたリスク管理、理学療法業務中のリスク管理、病態におけるリスク管理を行うことができる。

授業計画・内容

1回目	(目標①)職場での基本ルールとマナー、適切な態度と行動が実践できる。 ¹⁾
2回目	(目標①)挨拶と声掛け、身だしなみ、メールの書き方・封筒の書き方が説明、実践できる。 ¹⁾
3回目	(目標①)心配りを示す言葉づかい、好ましい言葉づかいと好ましくない言葉づかいを説明できる。 ¹⁾
4回目	(目標②)信頼感を得る敬語とはどのようなものか説明できる。敬語の種類を理解し使い分けすることができる。 ¹⁾
5回目	(目標②)呼び方で表す尊敬度とはどのようなものか説明できる。感じの良い話し方が実践でき分りやすく伝えることができる。 ¹⁾
6回目	(目標②)言葉づかいを振り返り、ロールプレイで実践できる。 ¹⁾
7回目	(目標②)言葉づかいの理解度チェックを実施し、発表ができる。病室からリハビリ室までの案内をロールプレイで実施できる。 ¹⁾
8回目	(目標②)電話の受け方や掛け方を実践できる。 ¹⁾
9回目	(目標②)言葉づかいを振り返り、電話の受け方、掛け方のロールプレイを行うことができる。 ¹⁾
10回目	(目標②)実習に向けて接遇を振り返りそれぞれを実践することができる。
11回目	(目標③)リスク管理総論
12回目	(目標③)評価情報で得られるリスク因子
13回目	(目標③)各疾患におけるリスク管理
14回目	(目標③)リスク管理システム、個人情報保護法、感染予防・対策、各報告書について
15回目	(目標①②③)事例に基づいて演習を行うことができる。

**準備学習
時間外学習**

(目標①)仕事を円滑に進めていく上で職場内での基本ルールやマナーを理解し適切な行動が取れることは重要です。アルバイトなどで関係性の構築を深めている学生にはより意識しながら先輩や同僚と言った方々との関係を深めていただきたいと思います。傾聴の態度で臨むカウンセリングを理解するためにはコミュニケーション手法の理解が重要です。1年次に学習したコミュニケーション論の復習が重要です。¹⁾
(目標②)、基礎的カウンセリングについて再度復習する事勧めます。¹⁾
(目標③)授業ごとに復習をしっかりと行うこと、実習に実際の職場での適切な関係づくりをコントロールするためにもコミュニケーション論の復習や、基礎的カウンセリングについて再度復習することを勧めます。¹⁾

評価方法

定期試験結果による判定を行う。
判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。

**受講生への
メッセージ**

魅力：現代社会においてコミュニケーション能力は、プライベートの関係性・仕事上の関係性問わず重要な技能となります。特に医療従事者においては、患者様の状況に寄り添ったきめ細やかな配慮が必要となり、それらを実践するためのツールとして必須なものがコミュニケーションの前提である接遇です。接遇の5原則である挨拶、笑顔、身だしなみ、言葉づかい、態度は理学療法士として今後仕事を行う上で、必要な技能と言えるでしょう。また、それだけにとどまらず、自身の日常に活用出来るという意味でも有意義な講義です。また、患者様のリスク管理を実践できることは今後の実習において第一に考えるべき事柄です。それらを学び、実践できる事は今後の実習において大きなアドバンテージとなると言えます。この機会に多くの学びを得ていただきたいと思います。
講義計画：講義は講義演習形式となります。実際の場面を想定した演習なども行います。また、対人行動として表現技術やプレゼンテーションも行うため、講義によっては事前準備が多く必要な場合もあります。講義開始5分前には機材準備が整うことが出来るようお願いいたします。

【使用教科書・教材・参考書】

- <教科書>
嶋田智明他:実践MOOK・理学療法プラクティス リスク管理 その統合と解釈～積極的な理学療法を目指して:文光堂
- <使用教材>
講義資料(毎講義前に提示)、PC、マイク、プロジェクター

2024年度 授業概要

学 科 : 理学療法科

科目名 (英)	理学療法評価演習Ⅱ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	朝妻(恒)・赤池・田中(俊)・馬場
	(Physiotherapy Evaluation Practice Ⅱ)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30	実務経験	○
コース					1	開講区分	後期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

理学療法評価では、検査・測定を行って問題点を抽出すること、さらに評価実習、臨床実習に向けて、これまで修得した知識、技能を応用し、信頼性・再現性の高い評価を実施できるようになる必要があるが、その中に画像評価における知識・技術が今後必要となる。現場で行うことが出来るよう、また、国家試験にも出題されているので、必要な知識・技術を身につける授業となる。

* 実務経験: 朝妻(恒): 老人病院・救急病院で、X線・MRI・心電図検査を経験する。
赤池: 看護師で病院勤務、理学療法士として整形外科医院で勤務する。
田中(俊): 一般病院を二つ経験する。
馬場: 2012年4月より、藤井整形外科にて整形外科分野やスポーツ分野の患者に携わる。臨床において超音波を使用している。

【到達目標】

画像評価に必要なとされる基本的知識と技術を習得する。また、心電図や筋電図などの疾患を見る上で必要なデータを見ることが出来る。

<具体的な目標>

- 目標①) 超音波エコー画像から理学療法実施上の留意点について説明できる。
- 目標②) レントゲン、CT、MRI、画像から理学療法実施上の留意点について説明できる。
- 目標③) 心電図、筋電図波形から理学療法実施上の留意点について説明できる。
- 目標④) ビデオ等の動作解析画像から理学療法実施上の留意点について説明できる。

(目)

授業計画・内容

1回目	(目標①) 超音波画像評価の方法を理解して説明できる。
2回目	(目標①) 参考画像をみて、超音波評価をデモンストレーションできる。
3回目	(目標②) 画像診断の意義について説明できる。
4回目	(目標②) 脳のCT画像・MRI画像の基本について説明できる。
5回目	(目標②) 脳のCT画像・MRI画像の見方について説明できる。
6回目	(目標②) 脳の疾患のCT画像・MRI画像の見方①について説明できる。
7回目	(目標②) 脳の疾患のCT画像・MRI画像の見方②について説明できる。
8回目	(目標②) 胸・腹部の画像の見方について説明できる。
9回目	(目標②) 整形疾患の画像の見方①について説明できる。
10回目	(目標②) 整形疾患の画像の見方②について説明できる。
11回目	(目標③) 筋電図波形の分析について説明できる。
12回目	(目標③) 誘発筋電図について説明できる。
13回目	(目標④) 動作解析画像分析について説明できる。
14回目	(目標④) ビデオ等の動画による動作分析の仕方について説明できる。
15回目	(目標④) 疾患別動作のビデオ等動画による動作分析の仕方について説明できる。
準備学習 時間外学習	(目標①) 超音波検査方法についての復習が必要です。 (目標②) 神経内科や整形外科で習った画像について見直す必要があります。 (目標③) 特に誘発筋電図は、国家試験範囲ですので、良く復習する必要があります。 (目標④) 解剖・生理・運動学の基礎知識が必要。
評価方法	成績評価は、筆記試験で行う。学生便覧の試験規定第12条に沿って評価する。
受講生への メッセージ	魅力: 本授業は、評価実習～長期実習のための準備に位置している講義です。実習で担当の先生とどのようにコミュニケーションを図るべきか、最低限知っておくべきこととはどのようなことか、評価技術として出来るようになっておくべきことは何かなど、学ぶことは多くあります。この機会に自分の足りない部分を見直して、強みに変えられるよう努力をしてください。 講義計画: 講義は演習形式となりますので、実技教室に実習着を着用の上、臨んでもらいます。準備が通常の講義形式よりも必要なため、しっかりと事前準備をお願いします。実技練習なども行いますが、同じ内容のものを行う予定がありません。体調管理はしっかりと休むことが無いように努めてください。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書

松澤正、江口勝彦著: 理学療法評価学 第5版、金原出版

●H. J. Hislop, D. Avers et al.: 新・徒手筋力検査法 第9版、協同医学出版社

●田崎義昭、斎藤佳雄他著: ベッドサイドの神経の診かた 第18版、南山堂

2024年度 授業概要

学 科 : 理学療法科

科目名 (英)	理学療法評価学実習Ⅱ (Physiotherapy Evaluation Practice II)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	田中 大暉1)・平本 宏樹2)
コース		授業 形態	実習	総時間 (単位)	60 2	実務経験	○ 前期 水曜、3・4限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 理学療法評価では、検査・測定を行って問題点を抽出する必要がある。本授業では、反射検査と整形外科疾患検査、片麻痺運動機能検査、呼吸・循環機能検査について理解し、本授業終了時には各種検査・測定の説明ができ、適切に実施できるようになる。</p> <p>※実務者経験: 1)2015年4月～2020年3月まで総合病院で理学療法士として勤務し、入院・外来リハビリテーション業務に携わる。 2)2017年4月-2018年12月、社団法人 鎮職会 東金整形外科 リハビリテーション科 理学療法士 2019年1月-2022年12月、レノファ山口FC トップチーム フィジオセラピスト 2023年5月-現在、レノファ山口FC アカデミー フィジオセラピスト 主業務は、メディカル・アスレティックリハビリテーション、トレーナー業務全般</p>							
<p>【到達目標】 各種検査・測定に対する基本的な知識と方法論を修得する。 <具体的な目標> (目標①)呼吸・循環機能検査について説明し、実施することができる。 (目標②)整形外科疾患検査について説明し、実施することができる。 (目標③)反射検査について説明し、実施することができる。 (目標④)片麻痺運動機能検査について説明し、実施することができる。</p>							
授業計画・内容							
1回目	(目標①)循環機能検査について説明ができる。						
2回目	(目標①)循環機能検査の実習を行う。						
3回目	(目標①)循環機能検査の実習を行う。						
4回目	(目標①)循環機能検査の実習を行う。						
5回目	(目標①)呼吸機能検査について説明ができる。						
6回目	(目標①)呼吸機能検査の実習を行う。						
7回目	(目標①)呼吸機能検査の実習を行う。						
8回目	(目標①)呼吸機能検査の実習を行う。						
9回目	(目標④)解剖生理学の復習と片麻痺の運動障害の特徴・異常運動パターンについて説明ができる。						
10回目	(目標④)Brunnstrom testについて説明ができる。						
11回目	(目標④)Brunnstrom testの実習を行う。						
12回目	(目標④)12段階片麻痺機能テスト、脳卒中機能評価法、SIASIについて説明ができる。						
13回目	(目標④)12段階片麻痺機能テスト、脳卒中機能評価法、SIASIの実習を行う。						
14回目	(目標④)12段階片麻痺機能テスト、脳卒中機能評価法、SIASIの実習を行う。						
15回目	(目標②)整形外科疾患検査について説明ができる(体幹)。						
16回目	(目標②)整形外科疾患検査の実習を行う(体幹)。						
17回目	(目標②)整形外科疾患検査について説明ができる(下肢)。						
18回目	(目標②)整形外科疾患検査の実習を行う(下肢)。						
19回目	(目標②)整形外科疾患検査の実習を行う(下肢)。						
20回目	(目標②)整形外科疾患検査について説明ができる(上肢)。						
21回目	(目標②)整形外科疾患検査の実習を行う(上肢)。						
22回目	(目標②)整形外科疾患検査の実習を行う(上肢)。						
23回目	(目標③)解剖生理学の復習と反射のメカニズム、種類について説明ができる。						
24回目	(目標③)腱反射の実習を行う(上肢)。						
25回目	(目標③)腱反射の実習を行う(下肢)。						
26回目	(目標③)表在反射・病的反射について説明ができる。						
27回目	(目標③)表在反射の実習を行う。						
28回目	(目標③)病的反射の実習を行う。						
29回目	まとめ・期末試験対策						
30回目	まとめ・期末試験対策						
31回目	定期テスト						
準備学習 時間外学習	(目標①)呼吸・循環に関する基礎知識についての予習が必要です。 (目標②)整形外科疾患の基礎知識についての予習が必要です。 (目標③)1,2年次に学習した神経系の基本的な構成についての予習が必要です。 (目標④)脳血管障害の基礎知識についての予習が必要です。						
評価方法	定期試験(100%)で成績判定を行う。						
受講生への メッセージ	魅力:患者のさまざまな情報を分析して、日常生活を困難にしている原因を明らかにしていく過程が理学療法評価と言えます。そのためにも、本授業を通して、正確に検査・測定ができるように努めてください。 授業計画:実習では積極的な姿勢が大切になります。しっかりと取り組んでください。						
【使用教科書・教材・参考書】							
教科書 ●松澤正、江口勝彦著:理学療法評価学 第6版 金原出版 ●田崎龍昭、斎藤佳雄他著:ヘッドサイドの神経の診かた 第18版 南山堂							

2024年度 授業概要

学科：理学療法科

科目名 (英)	臨床評価実習 (Clinical Evaluation Practice)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員 実務経験	各施設実習教育者 ○
		授業 形態	実習	総時間 (単位)	180 4	開講区分 曜日・時限	後期 実習施設に準ずる

【授業の学習内容】

令和5年2月6日～令和5年3月7日まで学内で習得した知識・技術を生かし、症例の情報収集から治療プログラム作成までの実習を臨床実習教育者の下、各施設にて行う。臨床実習Ⅰ・Ⅱに繋がるための経験を行い、理学療法士として業務に携わるための準備として位置付ける。

※実務者経験：5年以上の臨床経験と臨床指導者講習会修了を有するもの。その他に関しては、各実習施設に準ずる。

【到達目標】

実習において必要な態度や、学校とは違う社会的規範、医療従事者として対象者との関わりなど、学内では学ぶことのできない体験を行うことで、今後の実習に繋がる学生としての規範的行動を実施できる。また、症例の情報収集から治療プログラム作成、統合と解釈ができることを目標とする。

<具体的な目標>

- 目標①理学療法の対象者との関係性を構築できる。
 - 目標②チーム内での多職種との関係性および理学療法士としてのを理解できる。
 - 目標③対象者に応じた検査・測定を選択、実施し、結果から問題点を列挙することができる。
 - 目標④対象者の治療プログラム立案、統合と解釈を列挙することができる。
 - 目標⑤対象者の記録や関連図など、必要なものが適切に記録ができる。
- *ふさわしい態度とは、止むを得ず実習に遅刻・欠席する場合は実習施設・学校へ必ず事前連絡が出来る。一般社会における規範を守ることができる。医療従事者として適切に情報を取り扱うことができる。実習生として、臨床実習教育者に対し、状況に合わせて積極的に関わることができる、などを指す。

授業計画・内容

2022年度臨床評価実習は令和5年2月6日(月)～3月7日(火)のうち期間(20日間)、上記に示した到達目標に達成するために各施設の臨床実習教育者の下で実習を実施する。

授業は、実習形態のため各コマで実施するものではなく、実習の中で以下の計画が全て実施できるように、各施設の教育指導者と科目担当教員が連携を図り、進行状況を共有する。以下の授業計画で実施する。

- 1.(目標①)理学療法士の業務内容を説明できる。
- 2.(目標②)各実習施設の概要を説明できる。
- 3.(目標①②)各実習施設で職員、対象者との適切なコミュニケーションができる。
- 4.(目標③)担当した対象者に応じた検査・測定を選択し実施できる。
- 5.(目標③)選択した検査・測定結果から問題点を列挙することができる。
- 6.(目標③④)検査・測定結果と問題点の因果関係を説明できる。
- 7.(目標④)担当した対象者に応じたゴール設定、プログラム立案、統合と解釈が出来る。
- 8.(目標⑤)対象者の必要な記録を取ることができる。

実習施設	本年度、本校と提携している実習施設とする。
実習期間	4週間(週40時間相当)
評価方法	総括的ルーブリック表に基づき、臨床実習教育者による形成的ルーブリックの採点、診療参加型チェックリスト、ポートフォリオを実習の評価とする。また学校でのセミナー参加状況、報告会などを総合的に評価する。
受講生へのメッセージ	魅力:実習は、学内で学ぶことのできない多くの体験が出来ます。友人や教員ではなく、臨床実習教育者と関わる事は、大きなプレッシャーになります。しかし、この経験の中から臨床実習教育者との適切な関係性を構築することができれば、今後の臨床評価実習や臨床実習において大きな強みになると言えます。また、反対に思うように出来なかった場合でも、何が問題であったのかなどを省みるきっかけになると言えます。このように、自分自身を見つめ直す機会を有効に活用してもらいたいと思います。また、実際に患者を担当し検査・測定を行うことは理学療法士の業務であり、それらを体験する事はその後継続臨床実習Ⅰ・Ⅱへの自信になります。この機会には是非多くの学びが出来るように頑張ってください。受講態度:学外実習のため、学内授業以上に遅刻・欠席が無いよう心掛けてください。万が一、遅刻・欠席が生じる場合は、必ず事前連絡をすることが社会規範です。また、忘れ物などが無いよう事前準備も怠らないよう細心の注意が必要です。対象者、臨床実習教育者など実習施設の職員の方々からの信頼を得るためには、学生それぞれの気持ちを態度で表現する必要があります。一層の努力が必要であることを心掛けてください。

【使用教科書・教材・参考書】

<使用教科書>

1～3年生で使用した教科書や参考書

<使用教材>

実習着、角度計、打鍵器、メモ帳など必要なものについては、教員に確認の上、各自で準備すること。

2024年度 授業概要

学 科：理学療法科

科目名 (英)	作業療法概論 Introduction to Occupational Therapy	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	後藤 拓巳
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	実務経験	○
コース					1	開講区分	後期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】

理学療法士と作業療法士はリハビリテーションスタッフとして、臨床の場で連携しながら治療にあたっていく。この授業では、リハビリテーションの中における作業療法の位置づけ・役割を理解し、どのように連携していくかを説明できるようにしていきます。また、理学療法士も対象者との関りの中で、基本的に知っておく必要がある精神疾患や高次脳機能についての知識・介入方法を理解し、臨床での連携や実践に役立てることができるようにしていきます。

*精神科病棟、デイケア、訪問での実務経験

【到達目標】

作業療法の役割が大きい、精神障害領域、高次脳機能障害の領域を中心に作業療法士の役割、治療方法に関する知識を修得する。

<具体的な目標>

- 目標①精神障害領域における作業療法の役割・アプローチ方法について説明できる。
- 目標②高齢期の作業療法(認知症)において、その役割・治療的アプローチ法を説明できる。
- 目標③高次脳機能障害の作業療法において、その役割や治療的アプローチ法を説明できる。
- 目標④発達障害(小児の情緒・行動障害)における作業療法の役割・アプローチ法を説明できる。
- 目標⑤基本的な心理テスト・心理療法について概要を説明できる。

授業計画・内容

1回目	目標①精神疾患の病理性、薬物療法について疾患別に説明できる。
2回目	目標①精神障害(統合失調症)の障害特性と作業療法について説明できる。
3回目	目標①精神障害(気分障害)への基本的対応と、作業療法アプローチについて説明できる。
4回目	目標①精神障害(神経症性障害、パーソナリティ障害)への基本的対応と作業療法アプローチについて説明できる。
5回目	目標①精神障害(アルコール依存症)の障害概要、作業療法援助について説明できる。
6回目	目標①精神障害(薬物依存症)の障害概要と作業療法援助について説明できる。
7回目	目標①精神障害(薬物依存症)の障害概要と作業療法援助について説明できる。
8回目	目標②高齢期(認知症)の原因と症状、作業療法アプローチについて説明できる。
9回目	目標③高次脳機能障害の概要、症状について説明できる。
10回目	目標③高次脳機能障害の検査について説明できる。
11回目	目標③高次脳機能障害の作業療法アプローチについて説明できる。
12回目	目標④発達障害(ADHD、LD、ASD)の行動特徴、作業療法アプローチについて説明できる。
13回目	目標④発達障害(てんかん)の障害像、作業療法アプローチについて説明できる。
14回目	目標⑤心理テストについて説明できる。
15回目	目標⑤心理療法について説明できる。
準備学習 時間外学習	目標①②④精神疾患における症状、薬物療法について精神医学の復習が必要です。 目標④人間発達、小児科学の復習が必要です。 目標⑤心理学、臨床心理学の復習が必要です。
評価方法	定期試験にて知識の到達評価を行う。
受講生への メッセージ	チーム医療の中でPTとOTは連携して治療・訓練を行っていきます。リハビリテーションの中で、作業療法の位置づけやアプローチ方法を理解してもらうことは、対象者理解を深めることにつながります。また、精神障害に対する介入方法はPTの方にも臨床で役立つことと思います。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書: 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 第3版 精神医学 医学書院

2024年度 授業概要

学 科：理学療法科

科目名 (英)	理学療法セミナーⅡ	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	赤池・二田
	Physiotherapy SeminarⅡ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	実務経験	○
コース					1	開講区分	後期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

理学療法セミナーⅡでは基礎・専門知識を整理し、国家試験対策を行います。グループ学習を通して、お互いに説明しあうことで、より知識の理解を深めることができます。また解説することで、単純な記憶ではなく、エピソード記憶を作ることができます。国家試験対策は集中力とモチベーションを高いレベルで維持することが重要です。集団の中で勉強することで、切磋琢磨し、国家試験の勉強意欲を高めることができます。

* 実務経験者：2006年4月から2013年1月まで総合病院、クリニックに所属する。中枢神経障害や整形外科疾患等に対するリハビリテーションを行っていた。

【到達目標】

国家試験合格を達成するためには、基礎分野の理解を深めることが重要です。そして短期記憶ではなく、長期記憶に変えていく必要があります。グループでわからないところは教え合い、疑問点はディスカッションし、説明できるようになります。専門分野に関しては実際に身体をつかって覚えたり、福祉機器に触れることを行い、説明できるようになります。

〈具体的な目標〉

- 目標①基礎医学分野について説明できるようになる
- 目標②臨床医学分野について説明できるようになる
- 目標③基礎理学療法分野について説明できるようになる

授業計画・内容

1回目	(目標①)解剖生理学について説明できるようになる
2回目	(目標①)運動機能学について説明できるようになる
3回目	(目標①)人間発達学について説明できるようになる
4回目	(目標②)病理学について説明できるようになる
5回目	(目標②)内科学について説明できるようになる
6回目	(目標②)整形外科学について説明できるようになる
7回目	(目標②)神経内科学について説明できるようになる
8回目	(目標②)リハビリテーション医学・概論について説明できるようになる
9回目	(目標③)理学療法の基礎について説明できるようになる
10回目	(目標③)理学療法評価学について説明できるようになる
11回目	(目標③)理学療法治療学について説明できるようになる
12回目	(目標④)骨関節系障害領域について説明できるようになる
13回目	(目標④)中枢神経系障害領域について説明できるようになる
14回目	(目標④)内部障害領域について説明できるようになる
15回目	(目標①②③④)まとめ
準備学習 時間外学習	(目標①～④)この授業ではこれまで学んだすべての範囲の復習が必要です。その日に行う勉強の範囲を確認して、必要な教科書などの準備を行ってください。
評価方法	定期テストにて知識の到達評価を行う 定期テスト(100%)
受講生への メッセージ	魅力:これまで学んできた知識を整理し、理解を深めます。国家試験に合格し、現場に出たときに、理学療法を行っていく自分自身の土台となります。 授業計画:この授業ではグループワークを行います。体調管理に気を付けて必ず出席するようにお願いします。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:理学療法科学学会著:国試の達人PTシリーズ2020理学療法編～、アイベック
理学療法科学学会著:国試の達人PT・OTシリーズ2020臨床医学編～、アイベック
理学療法科学学会著:国試の達人PT・OTシリーズ2020運動解剖生理学編～、アイベック

2024年度 授業概要

学科：理学療法科

科目名 (英)	臨床実習 I (Clinical Practice I)	必修 選択	必修	年次	4	担当教員 実務経験	各施設臨床実習教育者 ○
コース		授業 形態	実習	総時間 (単位)	405 9	開講区分	前期
						学習形態	週5日(1日8時間とする)

【授業の学習内容】

臨床実習 I は8週間の学外実習と1週間の学内実習を合わせた9週間(9単位)で構成した。学外実習期間は8週間(2023年4月17日～6月17日:8単位)を設け、これまで学んだ理学療法に関する知識や技術を基礎に、臨床現場において実習教育者の指導監督の下、情報収集・観察・検査・測定・統合と解釈・問題点の抽出・目標設定・治療計画の立案までの実習を行うこととした。また学内実習1週間(1単位)の内訳は、3日間(2023年4月3～5日)の客観的臨床能力試験(Pre-OCSE)と2日間のCBT: Computer Based Testing(2023年6月20,21日)とし、前者を学外実習前、後者を学外実習後の実施とした。
※実務者経験:5年以上の臨床経験を有し、かつ臨床実習指導者講習会を終えているものとした。

【到達目標】

実習において必要な態度や、学校とは違う社会的規範、医療従事者として対象者との関わりなど、学内では学ぶことのできない体験を行うことで、臨床実習 II や今後の理学療法士の業務に繋がる行動を実践できる。

<具体的な目標>

- 目標①実習生として、ふさわしい態度で臨むことができる。
- 目標②患者様の状態に応じた検査・測定を選択し、問題点を抽出することができる。
- 目標③選択した評価項目、抽出した問題点から理学療法プログラムの立案と実施を経験できる。

* ふさわしい態度とは、止むを得ず実習に遅刻・欠席する場合は実習施設・学校へ必ず事前連絡が出来る。一般社会における規範を守ることができる。医療従事者として適切に情報を取り扱うことができる。実習生として、臨床実習教育者に対し、状況に合わせながら積極的に関わることができる。などを指す。

授業計画・内容

臨床実習 I の期間内に到達目標に達成するために、各施設の臨床実習教育者の下で実習を実施する。実習の中で以下の計画が全て実施できるように、Pre-OSCEの結果を各施設の臨床実習教育者と共有する。また、科目担当教員が連携を図り、進行状況を把握しながら実習をすすめていく。実習終了後にはCBTを実施し、学生の成長度合いと今後の課題について確認する。さらに今後の課題については2期目の臨床実習指導者と共有する。

Pre-OCSE:学外実習前に実施し、学生の現状と課題を確認する。結果は臨床 I 期の施設へ送付し、情報を共有する。

- 1.(目標①)理学療法士の業務内容を説明できる。
 - 2.(目標①)各実習施設の概要を説明できる。
 - 3.(目標①)各実習施設の理学療法士の役割を把握する。
 - 4.(目標①)各実習施設における職員の役割を説明できる。
 - 5.(目標①)各実習施設で職員の適切な補助ができる。
 - 6.(目標①)各実習施設で職員、対象者との適切なコミュニケーションができる。
 - 7.(目標②)カルテ情報から必要な情報を拾い、列挙することができる。
 - 8.(目標②)患者に応じた検査・測定方法を選択し実施することができる。
 - 9.(目標②)挙げられた問題点からゴール設定が出来る。
 - 10.(目標②)設定したゴールに近づくために理学療法プログラムの立案と実施を経験することができる。
 - 11.(目標②)初期評価～最終評価を比較検討し考察を行った上で、理学療法プログラムの修正ができる。
- CBT(Computer Based Testing):臨床実習 I (学外実習後)に実施し、学生の成長度合いを確認する。結果を臨床 II 期の施設へ送付し、学生の今後の課題について情報を共有する。

実習施設	本年度、本校と提携している実習施設とする。
実習期間	9週間(学外実習8週間 + 学内実習1週間(Pre-OSCE, Computer Based Testing))
評価方法	臨床実習 I の評価判定割合は以下の通りとする。 1)学内外実習での成績表(80%)、2)実習提出物(20%) 1)～2)を100%として判定する。判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。
受講生へのメッセージ	魅力:実習は、学内で学ぶことのできない多くの体験が出来ます。いつもの友人や教員ではなく、初めて臨床実習教育者と関わる事は、大きなプレッシャーになります。しかし、この経験の中から臨床実習教育者との適切な関係性を構築することができれば、今後理学療法士として業務に携わる上で、大きな強みになると言えます。また、仮に思うように出来なかった場合でも、何が問題であったのかなどを省みるきっかけになると言えます。このように、自分自身を見つめ直す機会を有効に活用してもらいたいと思います。また、実際に患者様本人から大変な思いをしている内容を聴取することで、教科書には記載されていない問題点などを自分の力で発見し解決する手段を考える事に繋がります。この機会に、多くの患者様や臨床実習教育者と関わりを持ち、様々な学びの中から問題解決能力を高め、理学療法士の職務に誇りを持つことができるような学びを期待しています。 受講態度:成績については学内実習はOSCEとCBT、学外実習は実習指導者が作成した成績表を総合的に判断し、可否を判定いたします。また、実習期間中は施設職員の一員だという認識を持ち、施設内でお会いする全ての方に対する感謝し、失礼のないように心がけてください。

【使用教科書・教材・参考書】

<使用教科書>

理学療法ハンドブック改訂第4版 全4巻セット 協同医書出版
PT/OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版 金原出版株式会社
PT/OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力小低下への介入編 金原出版株式会社

<使用教材>

実習着、角度計、打腿器、メモ帳など必要なものについては、教員に確認の上各自で準備すること。

2024年度 授業概要

学科：理学療法科

科目名 (英)	臨床実習Ⅱ (Clinical Practice Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	4	担当教員 実務経験	各施設臨床実習教育者 ○
		授業 形態	実習	総時間 (単位)	405 9	開講区分 学習形態	前期 週5日(1日8時間とする)

【授業の学習内容】

臨床実習Ⅱは8週間の学外実習と1週間の学内実習を合わせた9週間(9単位)で構成した。学外実習期間は8週間(2023年7月3日～9月2日:8単位)を設け、これまで学んだ理学療法に関する知識や技術を基礎に、臨床現場において実習教育者の指導監督の下、情報収集・観察・検査・測定・統合と解釈・問題点の抽出・目標設定・治療計画の立案までの実習を行うこととした。また学内実習1週間(1単位)として、5日間(2023年9月4～8日)の客観的臨床能力試験(Post-OSCE)を学外実習終了後に実施する。

※実務者経験:5年以上の臨床経験を有し、かつ臨床実習指導者講習会を終えているものとした。

【到達目標】

実習において必要な態度や、学校とは違う社会的規範、医療従事者として対象者との関わりなど、学内では学ぶことのできない体験を行うことで、臨床実習Ⅱや今後の理学療法士の業務に繋がる行動を実践できる。

<具体的な目標>

- 目標①実習生として、ふさわしい態度で臨むことができる。
- 目標②患者様の状態に応じた検査・測定を選択し、問題点を抽出することができる。
- 目標③選択した評価項目、抽出した問題点から理学療法プログラムを立案できる。
- 目標④立案した理学療法プログラムを実施出来、かつ必要に応じて修正・変更が出来る。

* ふさわしい態度とは、止むを得ず実習に遅刻・欠席する場合は実習施設・学校へ必ず事前連絡が出来る。一般社会における規範を守ることができる。医療従事者として適切に情報を取り扱うことができる。実習生として、臨床実習教育者に対し、状況に合わせて積極的に関わることができる。などを指す。

授業計画・内容

臨床実習Ⅱの期間内に到達目標に達成するために、各施設の臨床実習教育者の下で実習を実施する。実習の中で以下の計画が全て実施できるように、臨床実習Ⅰ時に実施したCBT(Computer Based Testing)の結果を、各施設の臨床実習教育者と共有する。また、科目担当教員が連携を図り、進行状況を把握しながら実習をすすめていく。実習終了後はPost-OSCEを実施し、学生の成長度合いと今後の課題について確認する。

臨床実習Ⅰ終了時にCBT(Computer Based Testing)を実施。結果は臨床Ⅰ期の施設へ送付し、情報を共有する。

- 1.(目標①)理学療法士の業務内容を説明できる。
 - 2.(目標①)各実習施設の概要を説明できる。
 - 3.(目標①)各実習施設の理学療法士の役割を把握する。
 - 4.(目標①)各実習施設における職員の役割を説明できる。
 - 5.(目標①)各実習施設で職員の適切な補助ができる。
 - 6.(目標①)各実習施設で職員、対象者との適切なコミュニケーションができる。
 - 7.(目標②)カルテ情報から必要な情報を拾い、列挙することができる。
 - 8.(目標②)患者に応じた検査・測定方法を選択し実施することができる。
 - 9.(目標②)挙げられた問題点からゴール設定が出来る。
 - 10.(目標②)設定したゴールに近づくために理学療法プログラムを立案し、実施することができる。
 - 11.(目標②)初期評価～最終評価を比較検討し考察を行った上で、理学療法プログラムの修正ができる。
- Post-OSCE:臨床実習Ⅱ(学外実習後)に実施し、学生の成長度合いを確認する。

実習施設	本年度、本校と提携している実習施設とする。
実習期間	9週間[学外実習8週間 + 学内実習1週間(Post-OSCE)]
評価方法	臨床実習Ⅱの評価判定割合は以下の通りとする。 1)学内外実習での成績表(80%)、2)実習提出物(20%) 1)～2)を100%として判定する。判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。
受講生へのメッセージ	魅力:実習は、学内で学ぶことのできない多くの体験が出来ます。いつもの友人や教員ではなく、初めて臨床実習教育者と関わる事は、大きなブレンジャーになります。しかし、この経験の中から臨床実習教育者との適切な関係性を構築することができれば、今後理学療法士として業務に携わる上で、大きな強みになると言えます。また、仮に思うように出来なかった場合でも、何が問題であったのかなどを省みるきっかけになると言えます。このように、自分自身を見つめ直す機会を有効に活用してもらいたいと思います。また、実際に患者様本人から大変な思いをしている内容を聴取することで、教科書には記載されていない問題点などを自分の力で発見し解決する手段を考える事に繋がります。この機会に、多くの患者様や臨床実習教育者と関わりを持ち、様々な学びの中から問題解決能力を高め、理学療法士の職務に誇りを持つことができるような学びを期待しています。 受講態度:成績については学内実習はOSCE、学外実習は実習指導者が作成した成績表を総合的に判断し、可否を判定いたします。また、実習期間中は施設職員の一員だという認識を持ち、施設内でお会いする全ての方に対する感謝し、失礼のないように心がけてください。

【使用教科書・教材・参考書】

<使用教科書>

理学療法ハンドブック改訂第4版 全4巻セット 協同医書出版
PT/OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版 金原出版株式会社
PT/OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力小低下への介入編 金原出版株式会社

<使用教材>

実習着、角度計、打腫器、メモ帳など必要なものについては、教員に確認の上各自で準備すること。

2024年度 授業概要

学科：理学療法科

科目名 (英)	解剖生理学 I-1 (Anatomical Physiology I-1)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	西嶋 克司
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分	前期
コース						曜日・時限	火曜・3限

【授業の学習内容】
解剖学は人体の構造を知る学問として重要な位置づけであり、生理学は人体の作用または機能を学ぶ学問として重要である。理学療法士が治療を行うために、人の構造や生理的作用などを考慮し進めていく必要がある。その意味でも解剖生理学の理解は必要不可欠と言える。解剖生理学 I-1では、生物学と並行して解剖学で使用する用語や細胞・組織・器官・器官系などヒトを構成する要素としてどのようなものがあるのか、またその機能的役割は何かなどを中心に学習する。後半は、脈管系や心臓の理解が出来る事を主な学習内容としている。

【到達目標】
解剖生理学の基礎的知識である人を構成する細胞の要素やその役割や機能を説明できることで、理学療法士として、治療を進めていく上で様々な事を考える事ができる。

<具体的な目標>
目標①細胞・組織・器官・器官系など人の身体を構成する要素とその役割について説明できる。
目標②理学療法士に必要とされる解剖学・生理学の基礎知識について説明できる。

授業計画・内容	
1回目	(目標①)解剖学用語、人体の区分について説明できる。
2回目	(目標①)細胞の形態について説明できる。
3回目	(目標①)物質輸送の方法と情報伝達について説明できる。
4回目	(目標①)細胞の興奮について説明できる。
5回目	(目標①)組織について説明できる。
6回目	(目標①)細胞と組織の違いについて説明できる。
7回目	(目標②)器官・器官系について説明できる。
8回目	(目標②)発生について説明できる。
9回目	(目標②)血管と心臓の役割について説明できる。
10回目	(目標②)動脈について説明できる。
11回目	(目標②)静脈について説明できる。
12回目	(目標②)動脈と静脈の違いについて説明できる。
13回目	(目標②)リンパ系の形態について説明できる。
14回目	(目標②)心臓の機能・血管の機能と血圧について説明できる。
15回目	(目標①②)まとめ
準備学習 時間外学習	(目標①)前提条件として、生物学の理解が重要です。高校で学んだ経験がある方は高校の授業資料を参考にしながら復習する。また、学校内で実施している生物学も同様に参考にしながら復習することが重要です。この講義は解剖学の基礎です。この講義理解が困難となると、この後の解剖生理学 I-2以降の講義理解も難しくなります。復習の時間を十分に確保し臨むことが重要です。 (目標②)理学療法士など医療従事者は解剖学のみならず、生理学との関連も重要です。人の構造的・機能的役割について考えながら講義を受講できるように準備して臨むことが重要です。分からない事があれば、そのままにせず確認し理解できるまで繰り返し学習することが必要です。
評価方法	定期試験結果による判定を行う。 判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。
受講生への メッセージ	魅力：理学療法士において、解剖生理学の知識があれば、多くの可能性を考慮し治療に至ることができます。その意味でも、理学療法士になるためには学ばなければならない必須分野と言えます。解剖生理学分野だけで見ても過去国家試験問題は多くの出題がされています。この分野をしっかり理解できることは理学療法士に近づく大きな一歩とも言えるでしょう。みなさんが就きたい仕事である理学療法士に近づくために、まずこの解剖生理学から理解を始めることが大事だと言えます。 講義計画：講義は講義形式となります。使用教材もたくさんあるので、講義開始前5分前には必ず使用教材を教務室に取りに来てください。講義内容は解剖生理学の基礎的内容となっています。講義を遅刻・欠席すると内容理解が難しくなりますので、遅刻・欠席には十分に注意してください。
【使用教科書・教材・参考書】	
<教科書> 野村巖編：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学 医学書院 石澤光郎他：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 生理学 医学書院	
<使用教材> 講義資料(毎講義前に提示)、人体模型、PC、マイク、プロジェクター	

2024年度 授業概要

学科：理学療法科

科目名 (英)	解剖生理学 I-2 (Anatomical Physiology I-2)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 実務経験	西嶋 克司
コース		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分 曜日・時限	後期
【授業の学習内容】 解剖学は人体の構造を知る学問として重要な位置づけであり、生理学は人体の作用または機能を学ぶ学問として重要である。理学療法士が治療を行うために、人の構造や生理的作用などを考慮し進めていく必要がある。その意味でも解剖生理学の理解は必要不可欠と言える。解剖生理学 I-2では、解剖生理学 I-1で学んだ解剖生理学の基礎分野を発展させて各臓器別の特徴などを中心に学習する。							
【到達目標】 解剖生理学の基礎的知識である人を構成する細胞の要素やその役割や機能を説明できることで、理学療法士として、治療を進めていく上で様々な事を考える事ができる。 <具体的な目標> 目標①解剖生理学 I-1の基礎を理解した上で、各臓器の構造的特徴について説明できる。 目標②解剖生理学 I-1の基礎を理解した上で、各臓器の調節機能などについて説明できる。							

授業計画・内容	
1回目	(目標①)口腔、咽頭、食道の特徴について説明できる。
2回目	(目標①)胃、小腸、大腸の特徴について説明できる。
3回目	(目標①)肝臓、膵臓の特徴について説明できる。
4回目	(目標①)口腔から胃までの消化について説明できる。
5回目	(目標①)小腸から大腸までの消化について説明できる。
6回目	(目標②)吸収について説明できる。
7回目	(目標②)肝臓の機能について説明できる。
8回目	(目標①)呼吸器の形態について説明できる。
9回目	(目標②)呼吸運動と肺気量について説明できる。
10回目	(目標②)ガス交換と呼吸の調節について説明できる。
11回目	(目標①)泌尿器の形態について説明できる。
12回目	(目標①②)排泄について説明できる。
13回目	(目標②)酸・塩基平衡について説明できる。
14回目	(目標①)生殖器の特徴について説明できる。
15回目	(目標①②)まとめ
準備学習 時間外学習	(目標①)前提条件として、解剖学的基礎知識の習得が必要です。確認のための講義を何回か準備はしていますが、復習の時間が不十分であると、本講義の整形外科の役割を理解する事ができません。そのため、診断から治療までの流れを説明するという目標達成が困難となります。事前の準備をしっかりすることを怠らないようにしてください。 (目標②)整形外科には多くの特徴的疾患が存在します。性差・年齢等の特徴による違いなどは事前に確認しておく、良いと思われます。
評価方法	定期試験結果による判定を行う。 判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。
受講生への メッセージ	魅力:理学療法士において、解剖生理学の知識があれば、多くの可能性を考慮し治療に至ることができます。その意味でも、理学療法士になるためには学ばなければならない必須分野と言えます。解剖生理学分野だけで見ても過去国家試験問題は多くの出題がされています。この分野をしっかり理解できることは理学療法士に近づく大きな一歩とも言えるでしょう。みなさんが就きたい仕事である理学療法士に近づくために、この解剖生理学の理解を深めることが重要と思いますので、この機会にしっかりと学ばれてください。 講義計画:講義は講義形式となります。使用教材もたくさんあるので、講義開始前5分前には必ず使用教材を教務室に取りに来てください。講義内容は解剖生理学 I-1を深めていくものとなります。講義を遅刻・欠席すると内容理解が難しくなりますので、遅刻・欠席には十分に注意してください。
【使用教科書・教材・参考書】 <教科書> 野村巖編:標準理学療法学-作業療法学専門基礎分野 解剖学.医学書院 石澤光郎他:標準理学療法学-作業療法学専門基礎分野 生理学.医学書院 <使用教材> 講義資料(毎講義前に提示)、人体模型、PC、マイク、プロジェクター	

2024年度 授業概要

学 科 : 理学療法科

科目名 (英)	解剖生理学Ⅲ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	角 静香
	Anatomical PhysiologyⅢ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	実務経験	
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	木曜・3限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>解剖生理学は様々な側面から人間を理解する上で、また、理学療法、作業療法の対象疾患・障害の病態や発生メカニズムを理解する上で不可欠な知識である。生命現象を細胞レベルで理解できるようになるため、生命体の最小単位である細胞や、人間の身体を構成する組織・器官の構造と機能について学習する。そして、身体各部の形態と機能の相互関連を学び、全体として生命を維持する個体としての人体を説明できるようになる。特に解剖生理学Ⅲにおいては、血液、免疫、内分泌の範囲に焦点を当てて学習し、各々の構造と機能について説明ができるようになる。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>血液、免疫、内分泌に関係する組織、器官についての形態や血液、免疫、内分泌の機能、メカニズムを適切な解剖学・生理学用語を用いて説明ができる。</p> <p><具体的な目標></p> <p>目標①血液の機能や組成、血球・血漿の役割、止血・生命維持のメカニズムについて説明ができる。</p> <p>目標②免疫の機能やそれに関与する細胞の構造、メカニズムについて説明ができる。</p> <p>目標③内分泌の機能や内分泌器官の構造、各ホルモンの作用について説明ができる。</p>							
授業計画・内容							
1回目	(目標①) 血液の機能と組成について説明ができる。						
2回目	(目標①) 血液の物理的性質、血球の種類について説明ができる。						
3回目	(目標①) 血球、血漿の役割と止血機構について説明ができる。						
4回目	(目標①) 血液型の性質と輸血の適合について説明ができる。						
5回目	(目標②) 免疫の機能、メカニズムについて説明ができる。						
6回目	(目標②) リンパ性器官と免疫に関わる細胞の役割について説明ができる。						
7回目	(目標②) 免疫反応の種類と抗体の機能について説明ができる。						
8回目	(目標③) 内分泌系器官の機能について説明ができる。						
9回目	(目標③) ホルモンの一般的性質について説明ができる。						
10回目	(目標③) 視床下部一下垂体系、松果体の機能と分泌されるホルモンの作用について説明ができる。						
11回目	(目標③) 甲状腺の機能と分泌されるホルモンの作用について説明ができる。						
12回目	(目標③) 上皮小体の機能と分泌されるホルモンの作用について説明ができる。						
13回目	(目標③) 膵臓の機能と分泌されるホルモンの作用について説明ができる。						
14回目	(目標③) 副腎、性腺の機能と分泌されるホルモンの作用について説明ができる。						
15回目	(目標①②③) まとめ						
準備学習 時間外学習	<p>●血液、免疫、内分泌の構造と機能について理解するためには、解剖学・生理学の教科書をもとに、血液、免疫、内分泌の項目について予習が必要です。</p> <p>●授業の振り返りとして小テストを実施するため、毎回の授業の復習が必要です。</p>						
評価方法	<p>定期試験にて知識の到達評価を行う。授業の振り返りとして小テストを行う(計3回)。</p> <p>●定期試験(70%)</p> <p>●小テスト(30%)</p> <p>割合で成績評価を行う。</p>						
受講生への メッセージ	<p>理学療法士、作業療法士として対象者を治療するためには、人体の仕組みについて深く理解しておく必要があります。解剖生理学は、人体の仕組みについて理解する上で基盤となる知識であり、疾病・障害とその治療について学んでいくためにも重要です。覚えなければならない解剖生理学用語が多いため、予習・復習を怠らず、記憶に定着させていきましょう。</p>						
<p>【使用教科書・教材・参考書】</p> <p>教科書:野村 暁 編:標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学. 医学書院 石澤光郎, 富永 淳 著:標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 生理学. 医学書院</p>							

2024年度 授業概要

学 科 : 理学療法科

科目名 (英)	解剖生理学実習	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	角 静香
	Anatomical Physiology Practice I	授業 形態	実習	総時間 (単位)	30 1	実務経験	
コース						開講区分	後期
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>人体の形態とその機能について学習するためには、肉眼的形態と顕微鏡的形態を個体発生や系統発生に関する知見を踏まえて論理的に理解する必要がある。本授業では、人体の顕微鏡的形態を理解するための基盤となる知見を教授することにより、生命活動の単位である細胞や特定の細胞集団からなる組織の機能や構造、人体全体の活動との関係について理解し、それらについて説明ができるようになる。</p> <p>具体的方法として、組織標本(プレパラート)を光学顕微鏡で観察し、それをスケッチし、必要な細胞や組織の名称や機能について記入してまとめる。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>人体の顕微鏡的形態を理解し、生命体の最小単位である細胞や人間の身体を構成する組織の構造や機能について説明ができる。</p> <p>〈具体的な目標〉</p> <p>目標①末梢血、血管の細胞・組織の形態や構造、機能について説明ができる。</p> <p>目標②骨、筋肉、神経の細胞・組織の形態や構造、機能について説明ができる。</p> <p>目標③呼吸器、消化器、内分泌器の細胞・組織の形態や構造、機能について説明ができる。</p>							
<p>授業計画・内容</p>							
1回目	顕微鏡の取り扱い、実習方法について理解し、顕微鏡を安全に使用できる。						
2回目	(目標①) 末梢血(赤血球、血小板)の細胞の形態や構造、機能について説明ができる。						
3回目	(目標①) 末梢血(白血球)の細胞の形態や構造、機能について説明ができる。						
4回目	(目標②) 筋肉(骨格筋、平滑筋)の細胞・組織の形態や構造、機能について説明ができる。						
5回目	(目標②) 筋肉(心筋)の細胞・組織の形態や構造、機能について説明ができる。						
6回目	(目標②) 骨(膜性骨)の細胞・組織の形態や構造、機能について説明ができる。						
7回目	(目標②) 骨(ハバース管、フォルクマン管)の形態や構造、機能について説明ができる。						
8回目	(目標②) 骨(介在層板)の形態や構造、機能について説明ができる。						
9回目	(目標③) 内分泌器官(膵臓、甲状腺)の細胞・組織の形態や構造、機能について説明ができる。						
10回目	(目標③) 内分泌器官(下垂体)の細胞・組織の形態や構造、機能について説明ができる。						
11回目	(目標②) 中枢神経(脊髄)の細胞・組織の形態や構造、機能について説明ができる。						
12回目	(目標②) 中枢神経(小脳)の細胞・組織の形態や構造、機能について説明ができる。						
13回目	(目標①) 血管の細胞・組織の形態や構造、機能について説明ができる。						
14回目	(目標③) 肺、気管支、肝臓の細胞・組織の形態や構造、機能について説明ができる。						
15回目	(目標①②③) まとめ						
準備学習 時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ●人体を構成する細胞・組織について理解するためには、解剖生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲについての予習が必要です。 ●定期試験やスケッチ課題のために、授業の予習・復習が必要です。 						
評価方法	<p>定期試験にて知識の到達評価を行う。各授業で細胞・組織のスケッチを提出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●定期試験(80%) ●スケッチ課題(20%) <p>割合で成績評価を行う。</p>						
受講生への メッセージ	<p>理学療法士、作業療法士として対象者を治療するためには、人体の仕組みについて深く理解しておく必要があります。解剖生理学実習Ⅰでは、人体を構成する細胞・組織を、顕微鏡を使用して観察することで、教科書だけではイメージのしづらい細かい形態や構造について視覚的に捉えていきます。スケッチができることも重要ですが、ただ絵を描くのではなく、描きながら形態や構造について理解を深めていきましょう。</p>						
<p>【使用教科書・教材・参考書】</p> <p>教科書: 野村嶺 編: 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学. 医学書院 石澤光郎, 富永淳 著: 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 生理学. 医学書院</p>							

2024年度 授業概要

学 科 : 理学療法科

科目名 (英)	心理学	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	中村 百合香
	Psychology	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	実務経験	
コース					2	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜・2限

【授業の学習内容】

近年、医療分野における心理学の役割は進歩してきている。リハビリテーション領域においても身体機能面のみならず、患者・障害者の心に共感し、全人的リハ医療を実践していくには医療行動科学の考え方と方法について学んでいくことは重要である。
この授業で医療人にとって必要な心理学、心理学的介入のための基礎知識を修得することが出来る。

【到達目標】

人の心理と行動について理解する知識と方法を修得し、効果的なリハビリテーションが実践できるようになる。

<具体的目標>

- 目標① 対人関係の心理について説明できる
- 目標② グループダイナミクスについて実習を行い説明できる
- 目標③ パーソナリティの理論、検査について説明できる。

授業計画・内容

1回目	医療行動科学とは何かを理解し説明できる(医療と心理学、医療の行動科学、心理学関連情報)
2回目	心のモデルについて説明できる
3回目	学習の理論について説明できる(古典的・道具的条件付け、認知学習など)
4回目	記憶の構造と働きについて説明できる(記憶の区分、記憶の障害など)
5回目	知覚の様式について説明できる(視覚、聴覚、その他の感覚、痛みなど)
6回目	感情について説明できる(情動、感情の機能、感情の障害など)
7回目	動機と覚醒水準について説明できる
8回目	社会心理学について説明できる(自己と他者、集団の中の個人、集団における人間関係など)
9回目	ストレスのメカニズムとコーピングについて説明できる(ストレスの性質、緩和要因、マネジメントなど)
10回目	パーソナリティについて説明できる(パーソナリティ理論、形成、諸相、測定など)
11回目	知性と感性について説明できる(知能、知能検査、知能の発達と障害など)
12回目	心の発達と心の危機について説明できる(子どもの心の発達、親子関係の発達、中年以降の心理的発達など)
13回目	心理学的介入について説明できる①(精神分析療法、行動療法など)
14回目	心理学的介入について説明できる②(カウンセリング、メンタルヘルスなど)
15回目	まとめ
準備学習 時間外学習	自宅での予習・復習
評価方法	定期試験
受講生への メッセージ	講義とグループワークを中心に行っていきます。体験を通しての気づきから学んでいくことは大切です。

【使用教科書・教材・参考書】

医療の行動科学 I 山田富美雄編集 北大路書房

2024年度 授業概要

学 科 : 理学療法科

科目名 (英)	生物学	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 実務経験	今福 千明
	(biology)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	開講区分	前期
コース					2	曜日・時限	金3・4限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

生物学には専門基礎科目である解剖学・生理学の基礎となる分野(身体における各器官系の働きなど)が多数ある。生物学を学ぶことで、解剖学・生理学を学ぶための基盤を作り、理解を助ける。
授業は授業プリントと確認プリントを配布して進めていく。

【到達目標】

生物学の知識を身につける。

目標①: 生物学の基本的な用語を理解し、覚える。

目標②: 解剖学・生理学における身体の器官系について、導入部分を理解する。

授業計画・内容

1回目	授業の目的および身体を構成する物質の性質を説明できる。
2回目	細胞の構造と機能および、内部環境の調節(細胞小器官)を説明できる。
3回目	細胞の構造と機能および、内部環境の調節(細胞分裂 他)を説明できる。
4回目	組織・器官系、肺循環について説明できる。
5回目	循環系(血液、心臓の構造及び機能)について説明できる。
6回目	循環系(リンパ)、神経の基本的構造及び性質を説明できる。
7回目	感覚器(視覚・聴覚・嗅覚・味覚)について説明できる。
8回目	中間試験(試験範囲: 第1回～第7回)
9回目	筋の構造及び収縮のしくみを説明できる。
10回目	エネルギー産生(好気呼吸・嫌気呼吸)を説明できる。
11回目	消化・吸収について説明できる。
12回目	腎臓における尿の生成とその役割を説明できる。
13回目	恒常性維持について(自律神経、ホルモン)説明できる。
14回目	遺伝の基礎を説明できる。
15回目	まとめ(期末範囲: 第9回～第14回)
準備学習 時間外学習	授業準備は特に必要ありません。1回、1テーマで授業を進めますので、欠席しないようにしてください。 授業後は授業プリントを用いての復習及び解剖学・生理学の教科書でさらに知識を深めてください。 イメージがつきにくい構造についてはカラーの図説、特にフリガナがふってある参考書を利用することをお勧めします。
評価方法	筆記試験により成績を判断する。 筆記試験は2回実施し、中間試験50%、期末試験50%の割合で成績評価を行う。
受講生への メッセージ	生物学から解剖学・生理学の内容へとスムーズに移行できるように授業を行うことを心掛けています。 内容や用語の読み方など何でもかまいませんので、わからないことがあれば質問してください。

【使用教科書・教材・参考書】

使用教科書: 特になし(プリントを配布)

参考図書: 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(医学書院)、ぜんぶわかる 人体解剖図(成美堂出版)

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学(医学書院)

2024年度 授業概要

学 科 : 理学療法科

科目名 (英)	物理学	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 実務経験	豊福 不可依
	Prosthesis & Orthosis Practice	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	開講区分	前期
コース					2	曜日・時限	火曜・3限(B)、4限(A)

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

自然界の法則を基本とし、リハビリテーションにおける力学の基礎、運動の解明に必要な力学を中心に学び、リハビリテーション医療に関係の深い物理分野を理解する。医療関係者にとって身体の動きを理解することは非常に重要で、その際に物理学の知識は必ず役立ちます。しかし、物理学を苦手だと感じている方も少なくありません。この講義では、バイオメカニクスの前に身体運動を理解するための基礎について、理解しやすいように繰り返し解説を交えながら講義をすすめていきます。

【到達目標】

目標①: 自然界における基本法則と運動の基本となる力学について理解し説明できる。
 目標②: 運動学、運動力学に関係する物理学の分野である幾何学的分析や力学諸法則について理解し説明できる。

授業計画・内容	
1回目	医療従事者に、なぜ物理学が必要なのかについて説明できる。 (-単位系について-)
2回目	バネの伸びと力の合成について説明できる。
3回目	日常生活で使用する道具で、テコの原理が使用されている状況について説明できる。
4回目	輪じく、滑車、歯車がテコの応用であることを説明できる。
5回目	生体中のテコについて説明できる。
6回目	作用・反作用、力の分解、斜面、振り子、摩擦力について説明できる。
7回目	中間試験
8回目	物体の位置、速度と座標系について説明ができる。
9回目	物体の速度と加速度について説明ができる。
10回目	力と加速度について説明ができる。
11回目	力学的仕事とエネルギーについて説明ができる。
12回目	浮力と水の圧力、電気回路について説明ができる。
13回目	波・音・熱・光・電波について説明ができる。
14回目	筋力と重力について説明ができる。
15回目	まとめ
準備学習 時間外学習	授業計画に沿ってすすめていきますので、事前学習を必要とします。 次回授業までに、前回の授業内容を復習しておいてください。
評価方法	定期試験の結果により判定を行う。 判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。
受講生への メッセージ	魅力: 理学療法士は、身体運動を用いて治療を行う職種である。運動を理解するためには、物理・力学的エネルギーが人体にどのような影響を及ぼしているかを知ることが非常に重要と言える。地球上で生活する上ではこの物理要素とは切り離せない。例えば、ボールを投げると必ず放物線を描くなど当たり前にかかる現象は知っていても、何故そうなるのか説明できないことは多くあります。物理学には、物理現象を説明する力が身に付く多くのヒントがある。それは理学療法士として治療に活かすことができる機会が増えることを意味します。この機会には是非理解を深めていただけることを望みます。 講義計画: 授業計画に沿ってすすめていきますので、遅刻・欠席などすると内容理解が難しくなりますので、遅刻・欠席が無いように体調管理に気を付けてください。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書: 細田 多穂(監修)、磯崎 弘司(編集)、両角 昌実(編集)、横山 茂樹(編集) 身体運動につなげる物理学 南江堂 機 材: AV教育教材(液晶プロジェクター、ビデオデッキなど)	

2024年度 授業概要

学 科 : 理学療法学科

科目名 (英)	保健科学 I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	①福田直美、②山崎朋枝、③平本宏樹、④朝妻光枝
	Health Science I	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 1	開講区分	前期 月曜・4限
コース						曜日・時限	月曜・4限
<p>【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 機械化・自動化されている現代社会の中で、身体活動量が減少することでの影響、また改善のための解決方法、健康づくりの課題や方法を説明できる。 理学療法士としてレクリエーションについて理解しておくことで、障がい者ならびに高齢者の方への対応の幅が広がる。演習を通して障がい者・高齢者に応じたレクリエーションが実施できるようにする。</p> <p>※実務者経験: ①(福田)障がい者スポーツ指導員上級取得。2008年7月～現在まで福岡市立障がい者スポーツセンターに所属する。 ②(山崎)福祉レクリエーション・ワーカー資格、レクリエーション・コーディネーター資格取得。1977年～介護老人福祉施設 奈多創生園に所属。</p>							
<p>【到達目標】 現代社会における健康問題について知識を得、障がい者や高齢者等に対するレクリエーション方法を修得する。 レクリエーションの目的・効果について節目ができる。 (具体的な目標) 目標① 障がい者レクリエーションについて説明できる 目標② 高齢者レクリエーションについて説明できる 目標③ 音楽療法について説明できる 目標④ 遊びを活用したリハビリテーションについて説明できる</p>							

授業計画・内容	
1回目	(目標①) 治療手段として用いるレクリエーションの目的・効果について説明ができる。
2回目	(目標①) 車椅子利用者、視覚障害者の介助方法について説明ができる。
3回目	(目標①) 身体障害に対するレクリエーションの指導方法について説明ができる。
4回目	(目標①) 疾患・障害に応じたレクリエーションの選択について説明ができる。
5回目	(目標①) 身体障害に対するレクリエーションの計画を立て、学生同士で実施ができる。
6回目	(目標②) 高齢者に対するレクリエーションの指導理論について説明ができる。
7回目	(目標②) 脳トレを用いるレクリエーションの効果や目的について説明ができる。
8回目	(目標②) 歌・音楽を用いるレクリエーションの効果や目的について説明ができる。
9回目	(目標②) 季節行事を用いるレクリエーションの効果や目的について説明ができる。
10回目	(目標②) 高齢者に対するレクリエーションの計画を立て、学生同士で実施ができる。
11回目	(目標③) 音楽療法が心身に与える影響について説明できる。
12回目	(目標③) 音楽療法を通して、音楽を意図的・計画的に使用することができる。
13回目	(目標④) 音楽を利用したリハビリテーション効果について説明できる。
14回目	(目標④) 遊びを利用したリハビリテーションの効果や目的について説明できる。
15回目	(目標④) 幼児期・青年期・高齢者の体力測定の方法や結果について説明できる。
準備学習 時間外学習	(目標①)障がい者について、どのような障害の種類のあるのか予習が必要です。 (目標②)高齢者の身体的・精神的変化について予習が必要です。 (目標③)幼児・高齢者がどのような音楽を聴いているのか予習が必要です。 (目標④)体力測定の種類目がどのような結果につながるのか予習が必要です。
評価方法	レクリエーション計画書の提出、レクリエーションの実施、受講態度にて成績評価を行う。 判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。 1、レクリエーション計画書(50%) 2、レクリエーション実施(50%) 3、受講態度
受講生への メッセージ	高齢社会において、理学療法士の職域も拡大してきています。楽しくリハビリを実施することで、対象者のモチベーションを高めることが出来るだけでなく、運動の継続にもつながっていきます。実施する側が楽しまなくては、対象者を楽しませることはできません。講義中は脳を活性化させながら体を動かし、楽しく参加してください。
<p>【使用教科書・教材・参考書】 <使用教科書> なし <使用教材> CDデッキ、ピアノ、キーボード、新聞紙、セロハンテープなど</p>	

2024年度 授業概要

学 科 : 理学療法科

科目名 (英)	倫理学 Prosthesis & Orthosis Practice	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	乙女 信介
コース		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分	前期
						曜日・時限	水曜・3限(B)、4限(A)
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の医療分野で生じる医療倫理問題に適切に対処するため、医療倫理に関する基本的事項を修得させる。 ・インフォームド・コンセント、生殖技術、臓器移植および安楽死・尊厳死等現代社会の「医療と臨床医学」の問題点を中心に講義をすすめていきます。 ・5～10名程度の小グループにより事例研究を行い、グループ単位で発表をしていただきます。 							
<p>【到達目標】</p> <p>目標①: 倫理学、生命倫理学、医療倫理学とはどのような学問領域であるのか理解し、倫理学の原理・原則について説明できる。 目標②: 生命倫理学における種々の問題を理解し説明できる。 目標③: 種々の問題に対して、自分自身で考え、且つ周囲と協力して対処する能力を養うことができる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	概説、倫理学の位置付けについて説明できる。
2回目	倫理学諸理論について説明できる。
3回目	生命倫理学の歴史、倫理綱領について説明できる。
4回目	法と倫理について説明できる。
5回目	①パターナリズム、インフォームド・コンセントについて説明できる。
6回目	②パターナリズム、インフォームド・コンセントについて説明できる。
7回目	ゲノム、遺伝子診断治療について説明できる。
8回目	生殖補助医療について説明できる。
9回目	再生医療について説明できる。
10回目	脳死と臓器移植について説明できる。
11回目	安楽死について説明できる。
12回目	①終末期医療について説明できる。
13回目	②終末期医療について説明できる。
14回目	臨床上の倫理的ジレンマについて説明できる。
15回目	まとめ
準備学習 時間外学習	授業計画に沿ってすすめていきますので、事前学習を必要とします。 次回授業までに、前回の授業内容を復習しておいてください。
評価方法	定期試験の結果により判定を行う。 判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。
受講生への メッセージ	魅力: 倫理学とは、規範の根拠について考える学問です。規範とは「～すべきだ」「～すべきではない」などの文で表現される事柄であり、ルール、戒め、道徳などの内容をなしています。また、それは「権利」「義務」「責任」などの言葉によって表現されることもあります。医療従事者にとって、規範を遵守することは非常に重要な意味があります。理学療法士においては患者様の命を、生活を守るという自身の道徳観に基づいた行動ができるかどうかと言い換える事も出来るでしょう。この機会に是非、理学療法士としての感性を磨いていただきたいと思います。 講義計画: 授業計画に沿ってすすめていきますので、遅刻・欠席などすると内容理解が難しくなりますので、遅刻・欠席が無いように体調管理に気を付けてください。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書:	
機 材:	

2024年度 授業概要

学 科 : 理学療法科

科目名 (英)	臨床心理学	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	中村 百合香
	Clinical Psychology	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 1	実務経験	
コース						開講区分	後期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

臨床心理学とは、様々な問題行動や心理的不適応をおこしたり、病理的な問題に心理的要因が関係して特定の状態にあると思われる者に対して、問題行動の改善をはかるための適切な助言や診断、治療を行う心理学の一分野である。

この授業では、臨床心理学に関する基礎的知識を学び、医療の場で実践を行う際に必要とされる態度・技法を修得することが出来る。

【到達目標】

臨床心理学の理論と技法を理解し、体験することで、あらゆる対人援助において必要とされる基本的な態度と、心構えを修得する。

<具体的目標>

- 目標① 全人的アプローチBiopsychosocialモデルについて説明できる
- 目標② ライフサイクルと発達課題について説明できる
- 目標③ ストレスマネジメント、メンタルヘルスポモーションについて説明できる
- 目標④ 臨床で出会う患者への心理学的支援法について理解し説明できる

授業計画・内容

1回目	医療行動科学としての臨床心理学について理解し説明できる
2回目	全人的アプローチ:Biopsychosocialモデルについて理解し説明できる
3回目	心身相関について理解し説明できる
4回目	ライフサイクルとライフタスクについて理解し説明できる
5回目	ストレスの考え方について説明できる
6回目	健康の概念について説明できる
7回目	ヘルスポモーションについて説明できる
8回目	痛みへの集学的アプローチについて説明できる
9回目	がんサバイバーへの心理学的支援について説明できる
10回目	心理的幸福感とQOLについて説明できる
11回目	悲嘆の仕事について説明できる
12回目	慢性疾患の心理について説明できる
13回目	臨床でよく出会う患者への心理的なアプローチについて説明できる
14回目	保健医療場面におけるジェンダーについて説明できる
15回目	心理テストについて説明できる
準備学習 時間外学習	自宅での予習・復習
評価方法	定期試験結果による判定を行う。 判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。
受講生への メッセージ	講義形式の他、グループディスカッションも取り入れていきます。リハビリテーション実践に必要であることはもちろん、医療現場での自身のメンタルヘルスにも役立つかと思えます。

【使用教科書・教材・参考書】

医療の行動科学Ⅱ (山田富英雄監修、津田彰編集) 北大路書房

2024年度 授業概要

学 科：理学療法学科

科目名 (英)	英会話	必修 選択	必須	年次	2	担当教員	ILC
	Medical English	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30	実務経験	
コース					2	開講区分	前期
						曜日・時限	(A)金曜・2限、(B)3限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

国際社会になった昨今、医療従事者も英会話が必要となっている。
臨床現場で英会話がスムーズにできるようになる。
海外研修で英語で対応できるようになる。

※実務者経験:

【到達目標】

臨床現場に関係した英語表現に慣れ親しみ、実際に英会話が必要とされたときに対応できる能力を習得する。
海外研修時、英語で対応できるようにする。

〈具体的な目標〉
目標①臨床現場で対象者に対して案内等英語で対応できる。
目標②問診等を英語で対応できる。
目標③検査・測定時、英語で対応できる。
目標④リハビリテーション時に英語で対応できる。

授業計画・内容

1回目	目標① 受付で対象者と英語対応ができる。
2回目	目標① 病院案内を英語対応できる。
3回目	目標② 症状の痛みに対して英語対応できる。
4回目	目標② 様々な症状に対して英語対応できる。
5回目	目標② 問診で既往歴・家族歴を英語対応できる。
6回目	目標② 問診でアレルギー・生活習慣について英語対応できる。
7回目	目標③ 身体測定について英語対応できる。
8回目	目標③ バイタルサイン時に英語対応できる。
9回目	目標③ 検査・処置時に英語対応できる。
10回目	目標② 救急患者に対して英語対応できる。
11回目	目標③ 整形外科疾患に対して英語対応できる。
12回目	目標③ リハビリテーション時に英語対応できる①
13回目	目標③ リハビリテーション時に英語対応できる②
14回目	目標③ 処方箋・カルテに対して英語対応できる。
15回目	目標①②③ まとめ
準備学習 時間外学習	(目標①)前提:この授業を受けるには、まず日本語で案内方法を予習しておく必要があります。 (目標②)前提:この授業を受けるには、まず検査方法を予習しておく必要があります。 (目標③)前提:この授業を受けるには、まず検査・測定を予習しておく必要があります。 (目標①②③)講義後、学生同士で復習しておく必要があります。
評価方法	定期試験にて知識・技能の到達評価を行う。 ●定期試験(100%) 成績評価を行う。
受講生への メッセージ	魅力:グローバル化している現代社会において、英会話はコミュニケーションスキルとして必要となっている。臨床現場や海外研修時に英語で対応できるスキルを身に付けることで、より楽しい時間を過ごすことができます。英会話を楽しむことができるように授業展開して行きます。 授業計画:臨床現場や海外研修時に即実践できるよう、演習を交えながら授業を行いますので、体調管理には、気を付けて欠席をしないようにしてください。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:ILC国際語学センター:医療英語コミュニケーション、特定非営利活動法人 医療・福祉英語検定協会

2024年度 授業概要

学科：理学療法科

科目名 (英)	解剖生理学 I-3 (Anatomical Physiology I-3)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	西嶋 克司
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	実務経験	
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	火曜・1限

【授業の学習内容】

解剖学は人体の構造を知る学問として重要な位置づけであり、生理学は人体の作用または機能を学ぶ学問として重要である。理学療法士は運動を用いて治療を行う。そのためには、骨格筋の役割、身体感覚器や代謝についての理解が欠かせない。解剖生理学 I-3では解剖生理学 I-1、I-2で学んだ基礎的内容と各臓器別の特徴を基に筋、感覚器、代謝などを中心に学習していく。

【到達目標】

解剖生理学 I-1で学んだ基礎的知識を活かし、解剖生理学 I-3では、さまざまな筋の特徴や感覚器系・代謝・運動生理などについて説明できるようになることを目標とする。

<具体的な目標>

- 目標①筋の特徴について説明できる。
- 目標②感覚器系について説明できる。
- 目標③代謝・体温・運動生理について説明できる。

授業計画・内容

1回目	(目標①)筋を働き、形態によって分類できる。骨格筋の興奮収縮連関について説明できる。
2回目	(目標①)骨格筋の収縮について滑走説を用いて説明できる。単収縮、強縮の違いについて説明できる。等尺性・等張性収縮の違いについて説明できる。
3回目	(目標①)赤筋と薄筋の違いについて説明できる。筋紡錘とゴルジ腱器官について説明できる。
4回目	(目標①)心筋・平滑筋について説明できる。
5回目	(目標②)皮膚の形態について説明できる。
6回目	(目標②)皮膚感覚について説明できる。
7回目	(目標②)深部感覚、内臓感覚について説明できる。
8回目	(目標②)視覚器の構造について説明できる。
9回目	(目標②)視覚伝導路について説明できる。
10回目	(目標②)視覚路の欠損と視野欠損について説明できる。
11回目	(目標②)平衡覚、聴覚について説明できる。
12回目	(目標②)嗅覚、味覚について説明できる。
13回目	(目標③)代謝について説明できる。
14回目	(目標③)体温、発汗、運動生理について説明できる。
15回目	(目標①②③)まとめ

**準備学習
時間外学習**
(目標①)筋の特徴については、運動学・機能解剖学 I などでも学んでいる部分も重複してくるため、これらの復習を行い再度理解を深めることが重要です。
(目標②)感覚器については、主に生理学についての内容が多く含まれており、復習を行いながら実施する事が非常に重要です。特に国家試験に問われやすい出題項目も多く含まれている為、時間外に忘れないよう復習する事を推奨します。
(目標③)体温調節や発汗なども生理学の中で問われやすい傾向にあります。何度も復習し理解を深めておくことが重要です。

評価方法
定期試験結果による判定を行う。
判定基準については、試験規定に基づき、成績評価第12条の通りとする。

**受講生への
メッセージ**
魅力：理学療法士において、解剖生理学の知識があれば、多くの可能性を考慮し治療に至ることができます。その意味でも、理学療法士になるためには学ばなければならない分野と言えます。解剖生理学 I-1、I-2の知識がより深くなり解剖生理学についての理解が深まれば、理学療法士に近づく大きな一歩とも言えるでしょう。この分野は国家試験の中でも大きなウェイトを占めます。この機会に、しっかりと学ばれておくことを強く勧めます。
講義計画：講義は講義形式となります。使用教材もたくさんあるので、講義開始前5分前には必ず使用教材を教室に取りに来てください。講義内容は解剖生理学 I-1、I-2の応用的内容となっています。講義を遅刻・欠席すると内容理解が難しくなりますので、遅刻・欠席には十分に注意してください。

【使用教科書・教材・参考書】

<教科書>

野村嶺編：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学 医学書院
石澤光郎他：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 生理学 医学書院

<使用教材>

講義資料(毎講義前に提示)、人体模型、PC、マイク、プロジェクター

2024年度 授業概要

学 科：理学療法科

科目名 (英)	臨床見学実習 (Educational Tour at Clinical Facilities)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員 実務経験	臨床実習教育者
コース		授業 形態	実習	総時間 (単位)	40 1	開講区分 曜日・時限	後期

【授業の学習内容】

本実習では、医療機関・地域でのリハビリテーション(通所リハビリ・訪問リハビリ)における診療チームの一員として臨床実習教育者(理学療法士)と共に行動し、理学療法の見学ならびに対象者や他スタッフ(医師、作業療法士、言語聴覚士、看護師、ケースワーカー、ケアマネージャーなど)との関わりを通して、以下の項目を学ぶ。1. 医療・地域リハビリテーションにおける対象者の障害の多様性・理学療法の役割 2. 理学療法に対する社会からのニーズ 3. 理学療法における対象者とのコミュニケーションに関する基本的な事項 4. 地域包括ケアシステムにおけるマネジメントと通所・訪問リハビリテーションの役割 5. 社会人・職業人・医療人としての基本的な態度と自学自己学習の態度

【到達目標】

1. 実習施設の概要を理解する。
2. 見学や理学療法士、対象者との関わりを通して職業人としての基本的態度をとることができる。
3. 理学療法士の仕事を理解できる。
4. 対象者について共感的理解ができる。
5. 見学した理学療法の介入方法の概要を理解できる。
6. 理学療法士になるという目的意識を自覚できる。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション(初日)
2回目	各施設のスケジュールに合わせて実習を行うことができる(実習時間は8時間/日 合計5日)
3回目	
4回目	
5回目	臨床実習教育者は、実習施設の理学療法士が担当します。
準備学習 時間外学習	実習の中間の時期には、本校理学療法科専任教員による訪問や電話連絡等により、学生の現状の課題を整理し今後の実習の方針を学生・臨床実習教育者の3者で協議します。
評価方法	病院での実習時間外も見学の結果や学んだ内容をノートに整理することが求められます。これできていないと、翌日の見学実習でどのように行動すればよいか困難になる可能性があります。このほか、検査等の予習も求められます。
受講生へのメッセージ	①実習への取り組み態度 ②実習事前学習・終了後のまとめへの取り組み態度 ③提出物と報告内容 ①～③を総合して評価します
	医療の現場に出ますので、学生の皆さんにとって、将来の職業イメージが付きやすいと思います。同時に、社会人としての基礎力を学ぶことができる職業実践の学習機会になります。

【使用教科書・教材・参考書】

2024年度 授業概要

学科：理学療法科

科目名 (英)	理学療法演習 (Physiotherapy Maneuver)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員 実務経験	江島・田中大
コース		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 1	開講区分 曜日・時限	後期
<p>【授業の学習内容】 実習では疾患に対する知識を深め、それぞれの疾患に応じた適切な検査項目の列挙が可能となり、更にそれらの検査を正しく実施出来る必要があります。また、得られた結果から必要な情報を精査し、治療に結びつけるための報告書作成まで行う過程が重要です。更に、実習生としてふさわしい態度(以下、実習マインド)を身に付けた上で、施設実習を行う必要があると言えます。そのため、理学療法演習では3年後期の評価実習、4年に行われる臨床実習ⅠⅡに向けて上述した必要な能力課題を細分化し、それぞれの基本的知識・技術や実習マインドの習得を行います。</p> <p>※</p> <p>【到達目標】 臨床評価実習、臨床長期実習に向かう前に必要とされる基本的知識と技術を習得する。実習生として、また社会人として、実習教育者との適切な関係性の構築が出来るための態度についても学び、学習態度・技術習得のための実習を行い、報告書など必要な書類作成をできる力を身に付ける事ができる。</p> <p><具体的な目標> 目標①決められたルールを遵守し、実習マインドを示すことができる。 目標②疾患に応じた必要な検査項目を列挙し、その検査を正しく実施することができる。(問診・ROM・MMT・形態測定) 目標③実施した検査項目に応じ、問題を抽出しそれを報告書としてまとめる事ができる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	臨床評価実習・臨床実習の目的・意義について知る。整形外科疾患に対する各種、理学療法評価の方法が適切に説明・実施できる。
2回目	理学療法評価(四肢長・周径・ROM・MMT)の概要及び方法や禁忌を説明実施でき、提示された疾患について方法を列挙できる
3回目	2回目で提示された疾患を基に、理学療法評価(腱反射・整形外科的テストなど)の方法、禁忌を説明・実施できる
4回目	2～3回で実施した評価結果をレポート形式【課題提出】でまとめることができる。ロールプレイでSVとのコミュニケーションがとれる。
5回目	スライドを作成してプレゼンテーションができる【代表班のみ】 主治医・SV・Ptからの質問に答えることができる。
6回目	【運動処方論】①筋力増強訓練、②有酸素運動に関するケーススタディをグループワーク形式で実施する。
7回目	【運動処方論】筋力増強訓練が処方できる(総論：筋力増強訓練の運動生理学的背景)。
8回目	【運動処方論】筋力増強訓練が処方できる(各論：各種筋力増強訓練について)。
9回目	【運動処方論】筋力増強訓練が処方できる(実習：ケーススタディ)。
10回目	【運動処方論】有酸素運動が処方できる(総論：有酸素運動の運動生理学背景)。
11回目	【運動処方論】有酸素運動が処方できる(各論：各種有酸素運動について)。
12回目	【運動処方論】有酸素運動が処方できる(実習：ケーススタディ)。
13回目	提示された症例をもとに、統合と解釈ができる、ゴール設定ができる。
14回目	13回目の症例をもとにレジュメ作成ができる。
15回目	レジュメの報告ができる。
準備学習 時間外学習	(目標①)本講義は、患者様に対しての責任感や医療に従事するものとしてふさわしい態度を身に付けることも重要としているため、無断での欠席は認めていません。万が一一生じる場合は必ず連絡してください。その他問題となりうる事態については、必ず担当教員に相談してください。以上のよう、社会におけるルールを徹底して守るという心構えを持つことが重要です。 (目標②)この講義を受講するためには、理学療法評価学改訂第5版p.85までの理解と、解剖・運動学の理解が重要です。 (目標③)問診・ROM・MMT・形態測定について、評価が適切に実施出来るかを確認するための実技試験があります。そのため基本的な知識の習得だけでなく、測定技術を十分に練習して臨むことが重要です。 (目標④)運動療法に関する基本的なスキルについて復習し、円滑に4年時の臨床実習に繋げることを目的とする。その為、解剖・運動・生理学の復習をして参加すること。
評価方法	4回目のレポートを期限を守って提出できる。1) レポート課題(40%)、実技試験(40%)、レジュメ(20%) * 本講義の成績は、以上の課題割合で判定するものとする。
受講生への メッセージ	魅力：3年生後期では臨床評価実習が行われます。理学療法演習は、評価実習～長期実習のための準備に位置している講義です。実習で担当の先生とどのようにコミュニケーションを図るべきか、最低限知っておくべきことはどのようなことか、評価技術として出来るようになっておくべきことは何か、など学ぶことは多くあります。この機会に自分の足りない部分を見直して、強みに変えられるよう努力をしてください。 講義計画：講義は演習形式となりますので、実技教室に実習着を着用の上、臨んでもらいます。準備が通常の講義形式よりも必要なため、しっかりと事前準備をお願いします。実技練習なども行いますが、同じ内容のものを行う予定がありません。体調管理はしっかりと休むことが無いように努めてください。過去に配布された運動療法に関する資料と教材を準備し、復習しておくこと。
【使用教科書・教材・参考書】 <教科書> 松澤正：改訂第5版理学療法評価学 金原出版(株)、 津山直一：新・徒手筋力検査法原著第9版 協同医学出版社 岡田慎一郎他：理学療法臨床実習サポートブック 医学書院 <参考書> 相澤純也：症例レポート赤ペン添削ピフォー＆アフター 羊土社 青木主税他：基礎から確認PT臨床実習チェックリスト <使用教材> 実習着、評価器具(角度計等の必要物品についてはその都度説明します。) 過去の福岡医健授業資料(物理療法、運動療法)を準備し、復習しておくこと。	